

平成25年度 セーフティネット支援対策等事業費補助金  
社会福祉推進事業

ひきこもりピアサポーター養成・派遣に関する  
アンケート調査報告書

特定非営利活動法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）  
2014年3月

## 目 次

はじめに	1
第一部 本人調査	3
1. 目的	
2. 調査方法	
3. 結果	
第二部 家族調査	21
1. 目的	
2. 調査方法	
3. 結果	
第三部 支部調査	48
1. 目的	
2. 調査方法	
3. 結果	
第四部 自由記述	64
第五部 全体のまとめ	86
おわりに	94
参考・引用文献	96

資料

## 図表一覧

### 第一部 本人調査

表 1-1	本人が住んでいる場所
図 1-1	ひきこもり本人の年齢
図 1-2	ひきこもり本人の性別
図 1-3	ひきこもりの程度
図 1-4	本人回答者と家族の同・別居
図 1-5	ひきこもり初発年齢
図 1-6	ひきこもり期間
図 1-7	支援・医療機関の利用状況
図 1-8	兄弟姉妹の有無
図 1-9	兄弟姉妹の人数
図 1-10	外出日数
図 1-11	ご本人の経済状況の困難
図 1-12	家族の経済状況の困難
図 1-13	家族との関係
図 1-14	望むピアサポーター
図 1-15	ひきこもり経験者の支援（1）
図 1-16	ひきこもり経験者の支援（2）
図 1-17	ひきこもり経験者の家族の支援（1）
図 1-18	ひきこもり経験者の家族の支援（2）
図 1-19	ひきこもり経験者に望む支援
図 1-20	ひきこもり経験者の親に望む支援
図 1-21	ピアサポーターに望む連携先
図 1-22	アウトリーチを望む頻度
図 1-23	アウトリーチに望む 1 回あたりの時間
図 1-24	アウトリーチ期間上限—本人に会えている場合（1）
図 1-25	アウトリーチ期間上限—本人に会えている場合（2）
図 1-26	アウトリーチ期間上限—本人に会えていない場合（1）
図 1-27	アウトリーチ期間上限—本人に会えていない場合（2）
図 1-28	ひきこもりサポーターになりたいと思うか

### 第二部 家族調査

表 2-1	家族回答者が住んでいる場所
-------	---------------

- 図 2 - 1 家族回答者の続柄
- 図 2 - 2 家族回答者の年齢
- 図 2 - 3 ひきこもり本人の性別
- 図 2 - 4 ひきこもり本人の年齢
- 図 2 - 5 ひきこもり本人と家族回答者の同・別居
- 図 2 - 6 ひきこもり初発年齢
- 図 2 - 7 ひきこもり期間
- 図 2 - 8 ひきこもりの程度
- 図 2 - 9 外出日数
- 図 2 - 10 会話
- 図 2 - 11 支援・医療機関の利用状況（ご本人）
- 図 2 - 12 支援・医療機関の利用状況（家族回答者）
- 図 2 - 13 兄弟姉妹の有無
- 図 2 - 14 兄弟姉妹の人数
- 図 2 - 15 経済状況の困難
- 図 2 - 16 本人との関係
- 図 2 - 17 本人以外の家族との関係
- 図 2 - 18 本人への対応の自信
- 図 2 - 19 望むピアサポーター
- 図 2 - 20 ひきこもり経験者から支援を受けた経験
- 図 2 - 21 ひきこもり経験者から受けたことのある支援
- 図 2 - 22 ひきこもり経験者の家族から支援を受けた経験
- 図 2 - 23 ひきこもり経験者の家族から受けたことのある支援
- 図 2 - 24 ひきこもり経験者に望む支援
- 図 2 - 25 ひきこもり経験者の親に望む支援
- 図 2 - 26 ピアサポーターに望む連携先
- 図 2 - 27 アウトリーチを望む頻度
- 図 2 - 28 アウトリーチに望む 1 回あたりの時間
- 図 2 - 29 ピアサポーターに対する 1 回あたりの謝金
- 図 2 - 30 ピアサポーターへの交通費（1）
- 図 2 - 31 ピアサポーターへの交通費（2）
- 図 2 - 32 アウトリーチ期間上限—本人に会えている場合（1）
- 図 2 - 33 アウトリーチ期間上限—本人に会えている場合（2）
- 図 2 - 34 アウトリーチ期間上限—本人に会えていない場合（1）
- 図 2 - 35 アウトリーチ期間上限—本人に会えていない場合（2）
- 図 2 - 36 ひきこもりサポーターになりたいと思うか
- 図 2 - 37 ご本人との接し方（1）
- 図 2 - 38 ご本人との接し方（2）

- 図 2-39 ご本人との接し方 (3)
- 図 2-40 ご本人との接し方 (4)
- 図 2-41 ご本人との接し方 (5)
- 図 2-42 ひきこもりへの考え方

### 第三部 支部調査

- 図 3-1 ピアサポーター養成研修実施の有無
- 図 3-2 ピアサポーター養成研修の参加者
- 図 3-3 養成研修参加費
- 図 3-4 養成研修の時間
- 図 3-5 ピアサポーター活動状況
- 図 3-6 ピアサポーター活動している人
- 図 3-7 現在のピアサポーター活動人数
- 図 3-8 これまでのピアサポーター活動人数
- 図 3-9 ピアサポーター活動の交通費
- 図 3-10 ピアサポーターの謝金
- 図 3-11 ピアサポーターの活用頻度
- 図 2-12 ピアサポーターの活用人数
- 図 3-13 養成研修の望ましい形態
- 図 3-14 養成研修の望ましい研修料金
- 図 3-15 ピアサポーターに求められる役割 (家族)
- 図 3-16 ピアサポーターに求められる役割 (経験者)
- 図 3-17 ピアサポーター活動可能なもの (家族)
- 図 3-18 ピアサポーター活動可能なもの (経験者)
- 図 3-19 ピアサポーターに役立つ連携機関
- 図 3-20 アウトリーチに行くときの人数
- 図 3-21 アウトリーチを望む頻度
- 図 3-22 アウトリーチの望ましい時間
- 図 3-23 アウトリーチ期間の上限 (本人に会えている場合)
- 図 3-24 アウトリーチ期間の上限 (本人に会えている場合)
- 図 3-25 アウトリーチ期間の上限 (本人に会えていない場合)
- 図 3-26 アウトリーチの上限年数 (本人に会えていない場合)

## はじめに

本報告書の目的は、当会の支部及び、支部に参加されている家族や引きこもり本人が、ひきこもりピアサポーターにどのようなことを求めているかを明らかにすることでした。そのために、現在、ご本人やご家族が受けているピアサポートについて調査を行いました。また、ひきこもり経験者や、その親に望む支援についての調査も行いました。さらに、当会の支部を対象に、ひきこもりピアサポーター養成研修、及び派遣の実態と、望ましい養成研修、及び派遣について調査を行いました。本人調査と家族調査では、ひきこもりピアサポーターによる支援について自由記述で意見と要望を求めました。

本報告書によって示された知見が、今後のひきこもりサポーター養成研修・派遣活動の一つの指針になり、ピアサポーター活動の発展につながればと考えております。

本年度の調査では、家族 478 名、ひきこもり経験者 140 名、当会の支部 26 団体の協力が得られました。当会では、多くの家族・ひきこもり経験者のご協力をいただき、このような全国規模の調査を 11 年間に渡って実施しており、他にはない貴重な知見を提供し続けています。

最後に、本調査の実施にご協力くださった全国引きこもり KHJ 親の会の各支部の会員の皆様、各支部の代表の方々に心より感謝を申し上げます。ご協力くださった皆様のご厚意を無駄にしないよう、本調査の結果を広く普及、活用していく所存です。

なお、本調査は、厚生労働省の平成 25 年度社会福祉推進事業「全国各地の親の会における、ひきこもりピアサポーターに関する調査・養成派遣事業」の助成を受けて実施することができました。ここに記して御礼申し上げます。

平成 26 年 3 月吉日

特定非営利活動法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）

代表理事 池田 佳世



## 第一部 本人調査

## 1. 目的

本調査においては、ひきこもりピアサポーターに求める支援について調査を実施しました。

## 2. 調査方法

### (1) 調査対象者

NPO 法人全国引きこもり親の会（以下、「親の会」とする）の支部が平成 25 年 11 月～平成 26 年 1 月に開催した月例会において調査を実施しました。月例会参加者のうち、調査協力の得られた 140 名の回答が分析に用いられました。

### (2) 調査内容（注：調査内容の詳細は、巻末の資料を参照してください）

①基礎情報 本人調査に回答した方（以下、本人回答者）及び、ひきこもり状態にある人（以下、ひきこもり本人）に関する以下の情報について回答を求めました。

- ・現在住んでいる都道府県
- ・年齢
- ・性別
- ・現在のひきこもりの程度
- ・家族との同・別居
- ・ひきこもりの期間
- ・相談機関利用状況
- ・兄弟姉妹の有無
- ・外出日数
- ・経済状況の困難度
- ・家族との関係の困難度

### ②ひきこもりピアサポーターについて

- ・どのような人からのピアサポートを望むか
- ・ひきこもり経験者から受けた支援
- ・ひきこもり経験者の家族から受けた支援
- ・ひきこもり経験者からのピアサポートでしてほしい支援
- ・ひきこもり経験者の親からのピアサポートでほしい支援
- ・ひきこもりピアサポーターに連携してほしい支援機関
- ・ひきこもりピアサポーターに望むアウトリーチ（訪問）の頻度、時間、上限
- ・ひきこもりピアサポーターになることを望むか

### ③ピアサポーターの支援への意見・要望に関する自由記述

### (3) 調査手続き

調査の趣旨に関する文書を読んだ上で、調査協力に同意された方のみが調査用紙に回答をしました。調査の趣旨に関する文書は、調査用紙から切り離して、持ち帰ってもらいました。

ほとんどの回答者には、月例会において調査用紙を配布し、その場で回収をしました。しかし、各支部の運営上の問題から、後日記入の上で持参したものを回収した回答者もいました。

### 3. 結果

#### (1) 本人回答者が住んでいる場所

表1-1 本人が住んでいる場所

地方	都道府県	人数	地方	都道府県	人数
東北地方	山形県	8	近畿地方	大阪府	1
	岩手県	3		滋賀県	1
	北海道	2	中国地方	京都府	12
北陸地方	新潟県	17		岡山県	6
	富山県	2		山口県	4
	石川県	2	四国地方	香川県	4
関東地方	千葉県	24		高知県	2
	埼玉県	6		徳島県	2
	東京都	7	九州地方	宮崎県	2
	神奈川県	1		大分県	3
	栃木県	1		鹿児島県	3
東海地方	愛知県	12	不明		10
	静岡県	5	合計		140

表1-1に示したとおり、本人回答者が住んでいる場所は24都道府県に分布しています。各地方の割合としては、北海道・東北地方が9.3%、北陸地方が15.0%、関東地方が27.9%、東海地方が12.1%、近畿地方が1.4%、中国地方が15.7%、四国地方が5.7%、九州地方が5.7%となっています。千葉県、新潟県は回答者が特に多いことがわかります。これらの県では、親の会が運営している居場所に本人回答者が多く参加しているものと考えられます。

#### (2) 本人回答者の年齢

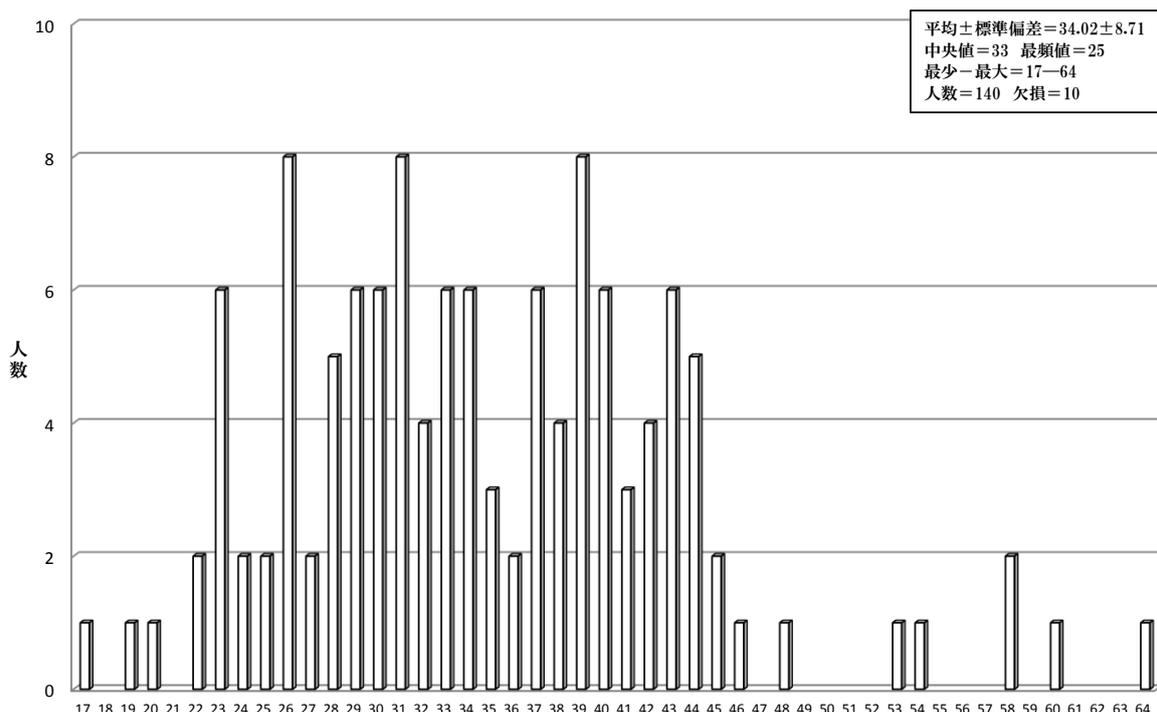


図1-1 ひきこもり本人の年齢

(歳)

本人回答者の平均年齢は34.02歳±8.71歳であり、最年少が17歳、最年長が64歳でした。男性においては平均年齢が34.68歳、女性においては32.28歳でした。親の会に参加しているひきこもり経験者のほとんどが30歳を超えていることがわかります。家族調査のひきこもり本人の平均年齢よりも高い値となっています。

### (3) 本人回答者の性別

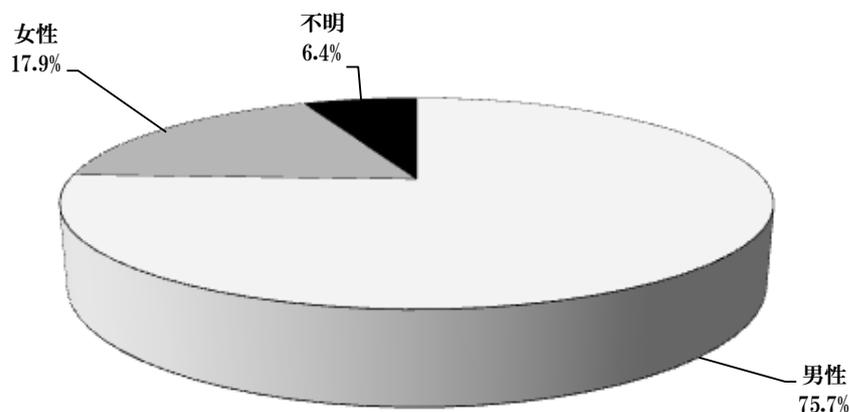


図1-2 ひきこもり本人の性別

本人回答者の性別は男性が75.7%、女性が17.9%でした。家族調査とほぼ同様の割合であることがわかります。昨年度の当会の全国調査では、男性の割合が85.9%でしたが、今回の調査では女性の割合が増加しています。

### (4) ひきこもりの程度

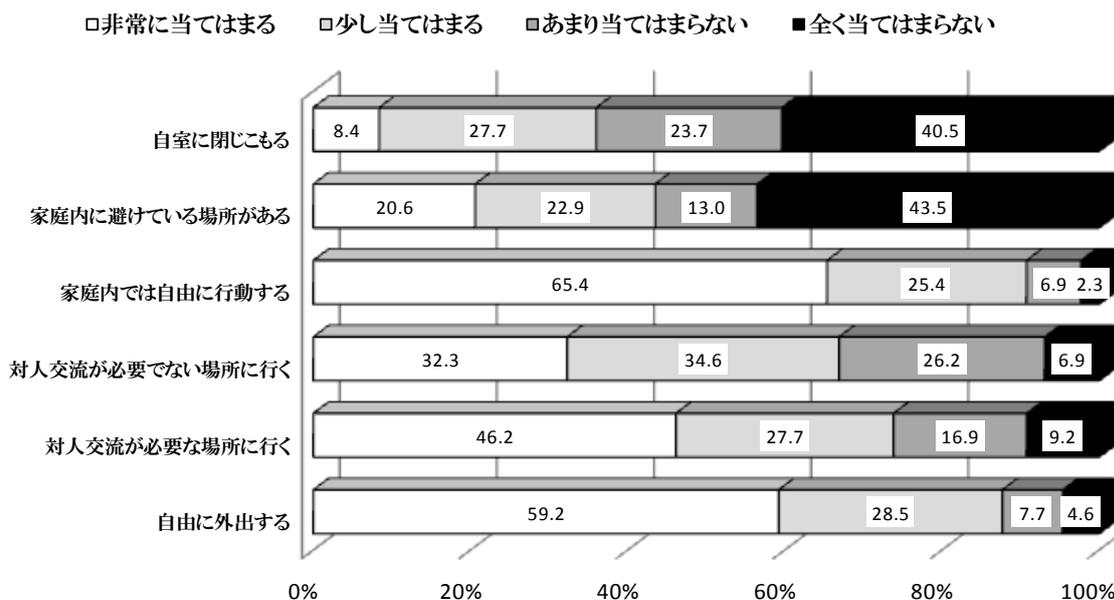


図1-3 ひきこもりの程度

ひきこもりの程度については、図1-3から家庭内では自由に行動でき、外出も自由にできている人がほとんどと言えます。親の会に参加している本人回答者の方は、ひきこもりから回復してきている人がほとんどであることがわかります。

(5) 本人回答者と家族の同別居

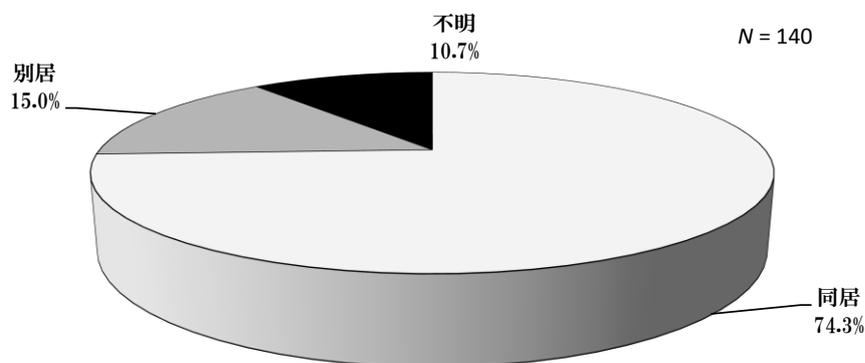


図1-4 本人回答者と家族の同・別居

図1-4に示すように、本人回答者と家族の同別居に関しては、同居している人が74.3%です。家族調査の84.7%よりも、やや同居の割合が低いことがわかります。

(6) ひきこもりの初発年齢

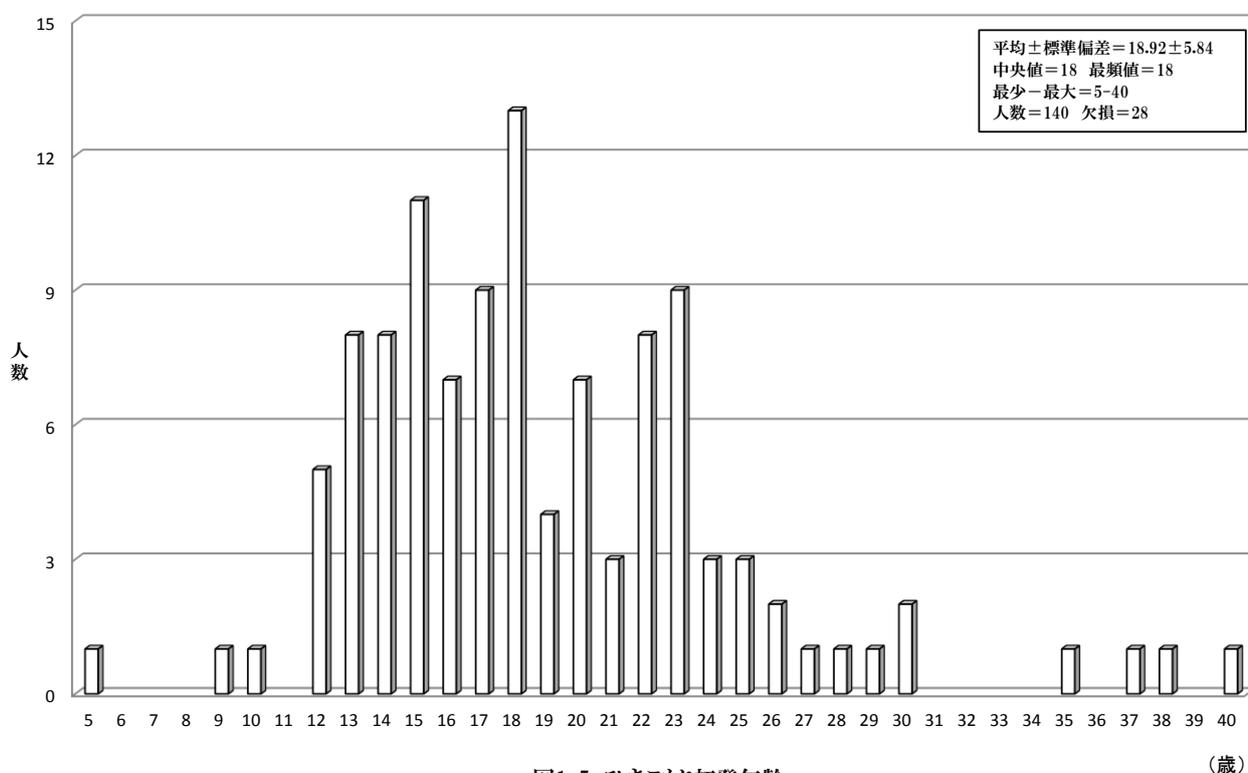


図1-5 ひきこもり初発年齢

ひきこもりが始まった時期については、図1-5に示すとおり、平均年齢は18.92歳、最年少が5歳、最年長が40歳でした。ほとんどの方が12歳から30歳までに最初のひきこもりを経験していることがわかります。

(7) ひきこもり期間

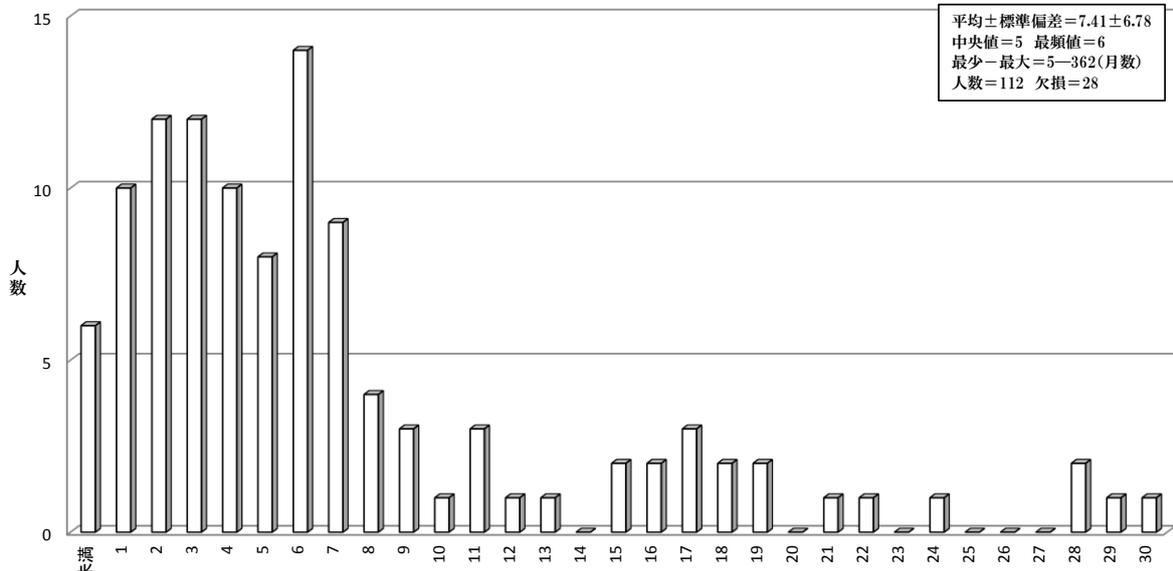


図1-6 ひきこもり期間

ひきこもり期間は、図1-6に示すとおり、平均7.41年、最少が5ヶ月、最大は362ヶ月でした。

(8) 支援・医療機関の利用

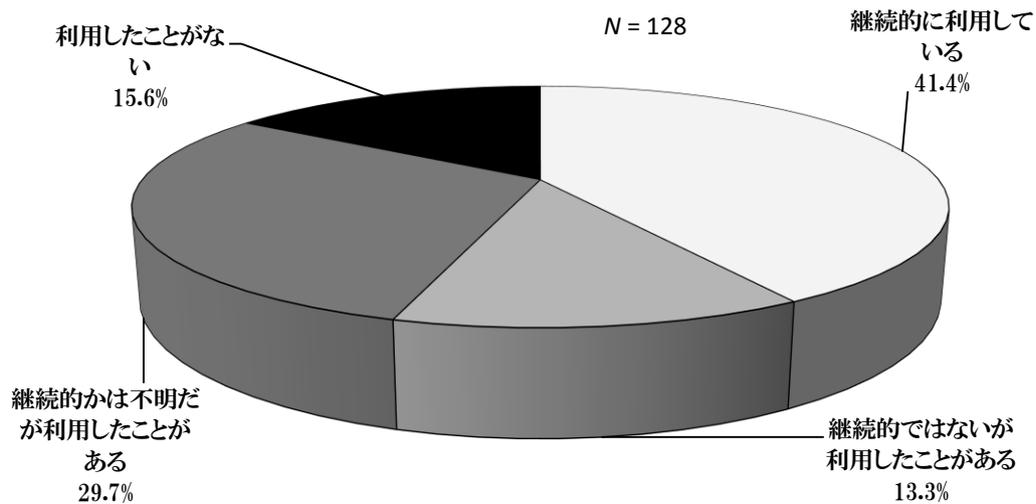


図1-7 支援・医療機関の利用状況

ご本人の支援・医療機関の利用は、継続的に利用している人が41.4%、過去に利用したことのある人が43.0%となっています。利用したことのない人が15.6%となっており、本

人回答者の多くが支援・医療機関を利用していることが分かります。この数値は家族調査と比較して継続的に支援・医療機関を利用している人が多く、親の会に参加しているひきこもり経験者が安定して支援・相談機関を利用していることがわかります。

(9) 兄弟姉妹

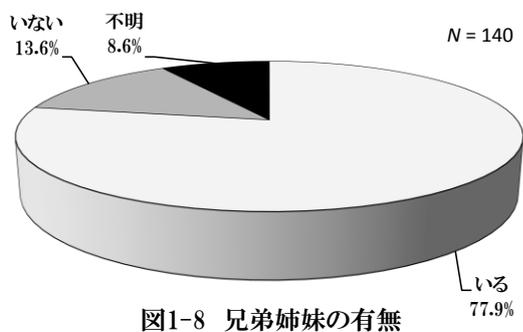


図1-8 兄弟姉妹の有無

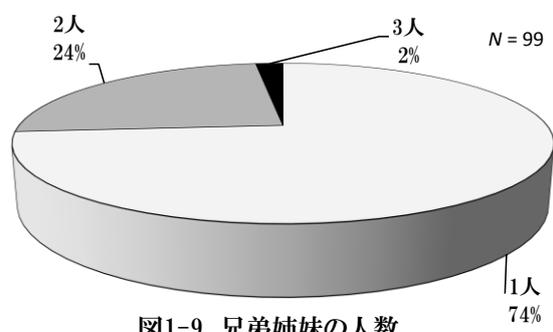


図1-9 兄弟姉妹の人数

図1-8、1-9から、ほとんどの方に兄弟姉妹がいることが分かります。兄弟姉妹の人数については、一人が74%に上っています。

(10) 1か月の外出日数

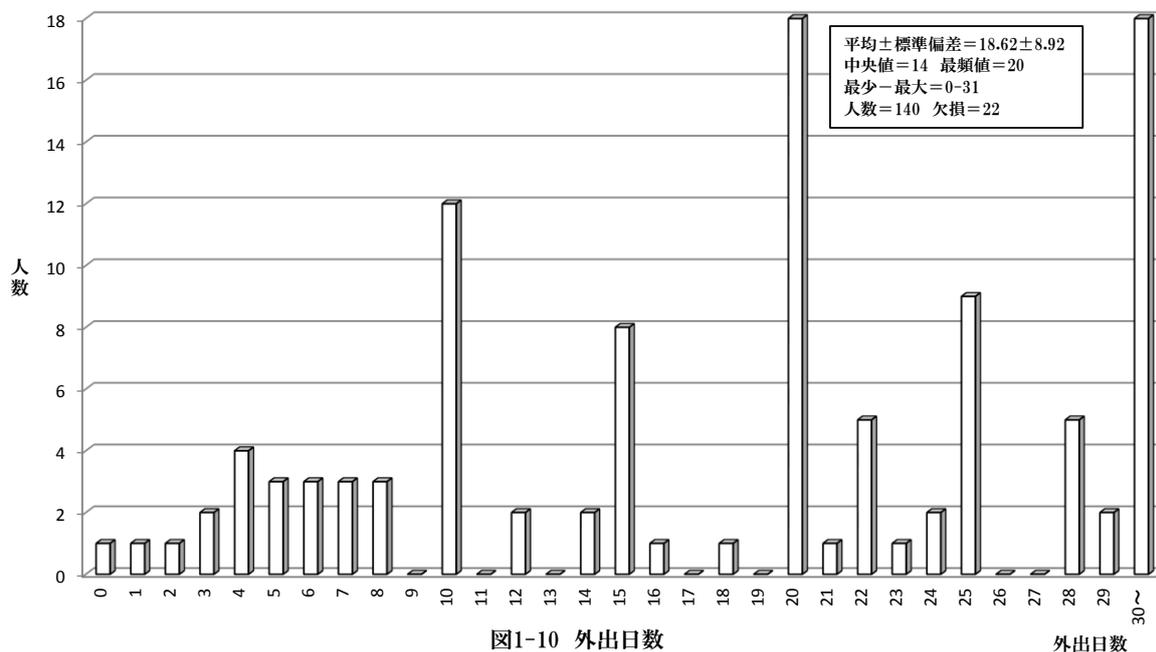


図1-10 外出日数

図1-10から、ご本人は月に平均約18日間外出していることがわかります。外出日数に関しては、10日以内、11日～20日以内、21日～30日でほぼ均等に分かれることがわかります。

(1 1) ご本人の経済状況

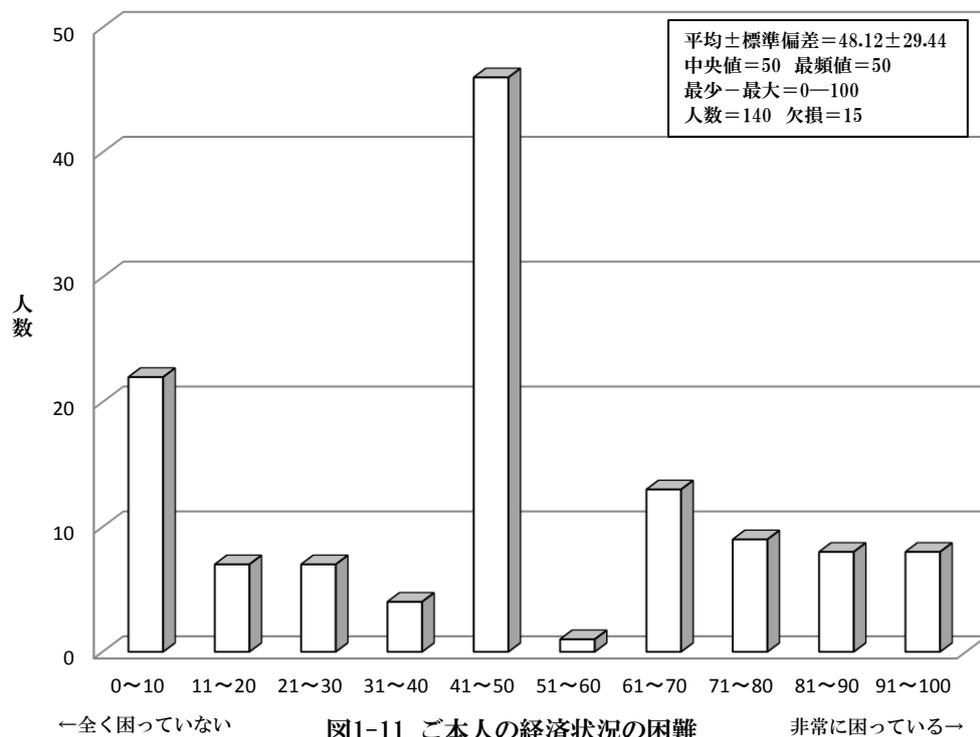


図1-11 ご本人の経済状況の困難

ご本人の経済状況の困難度は、約13%の方が90以上と回答していることがわかりました。ほとんどの人は41~50で経済的な困難度に関してどちらともいえない状況にあることがわかります。その一方で、全く困っていない人が一定割合いる点も注目になります。

(1 2) 家族の経済状況

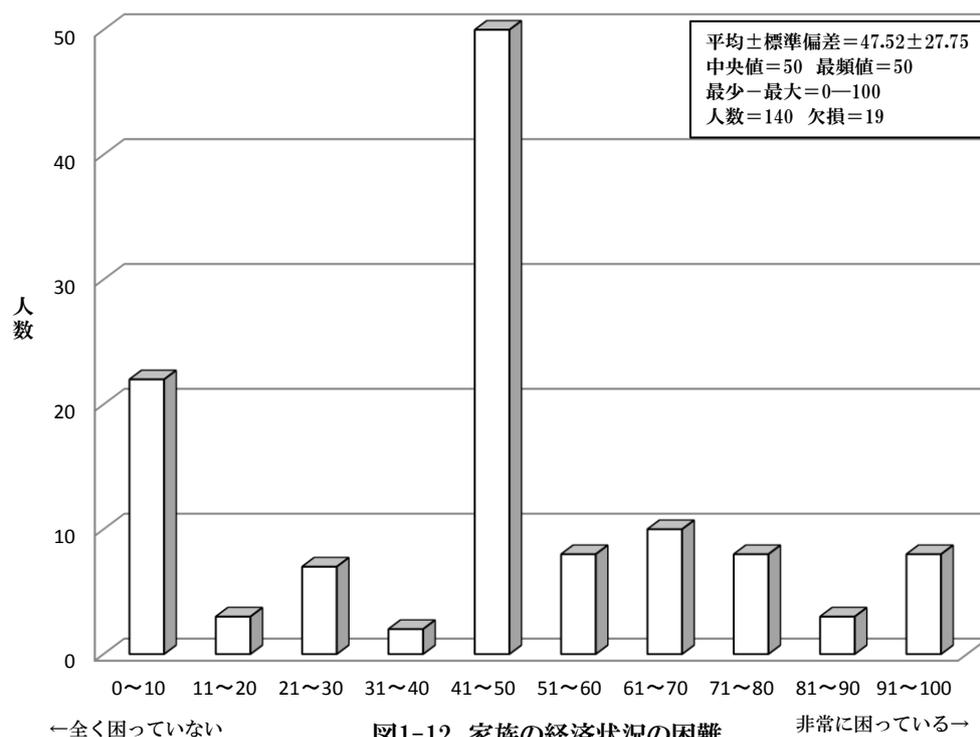
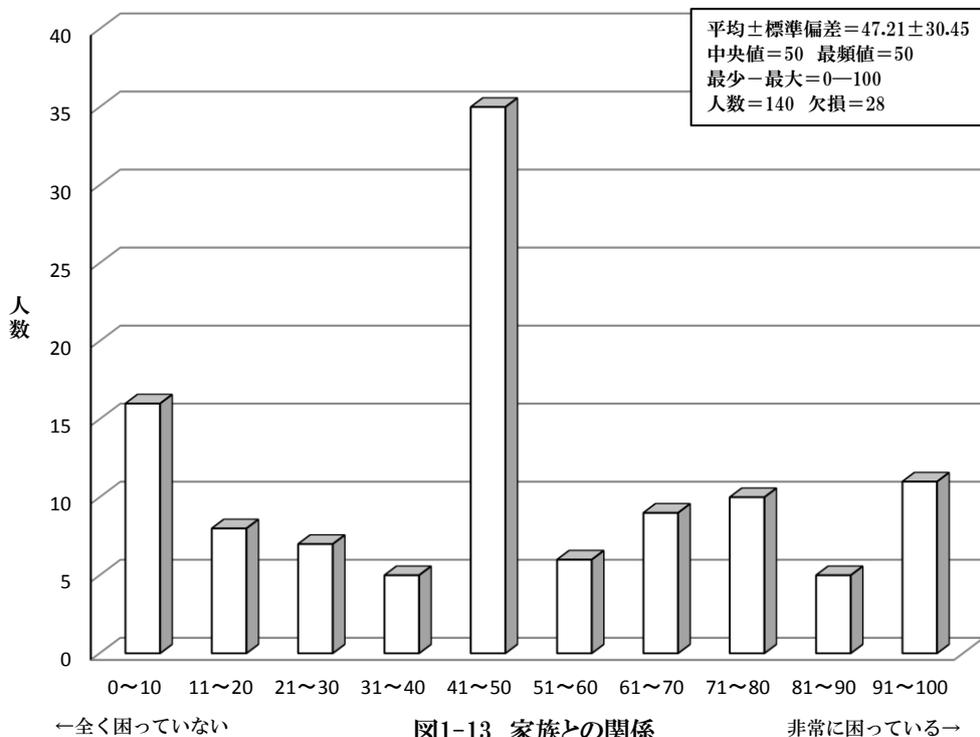


図1-12 家族の経済状況の困難

家族の経済状況の困難度は、本人回答では約9%の方が90以上と回答していることがわかりました。この結果は、ひきこもり本人の経済状況の困難さとほぼ一致しており、ひきこもり本人の経済状況が家族の経済状況に依存している現状が伺えます。

### (13) 家族との関係



家族関係の困難度は、本人回答では約14%の方が90以上と回答していることがわかりました。この結果は経済状況の結果と非常に似ています。このことから、経済状況の困難度と家族との関係にはある程度の関連がある可能性が考えられます。

### (14) ピアサポートを受けたい人

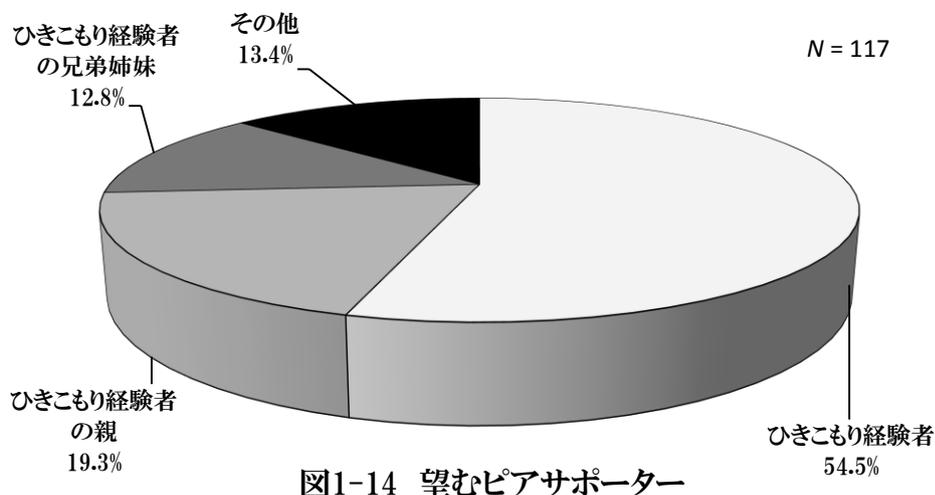


図1-14から、ピアサポートを受ける場合、ひきこもり経験者にピアサポートを望むと回答した人が54.5%でした。ひきこもり経験者の親に望むと回答した人は19.3%でした。ひきこもり経験者からのピアサポーターを要望する声が多いことがわかります。

(15) ひきこもり経験者からの支援

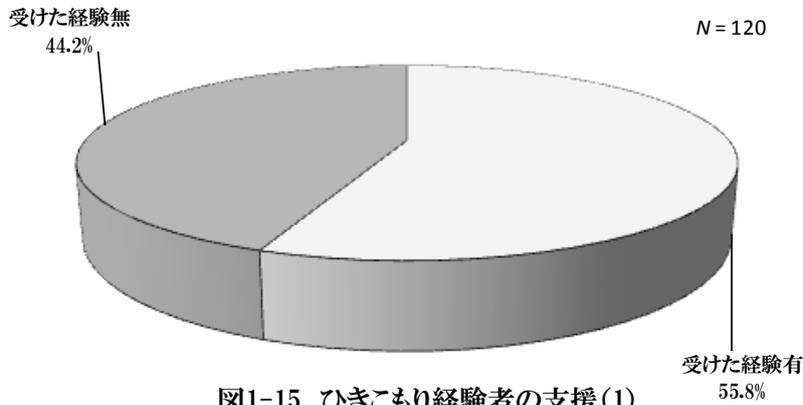


図1-15 ひきこもり経験者の支援(1)

本人回答者の55.8%は、ひきこもり経験者からの支援を受けたことがあると回答しました。親の会に参加している本人回答者は、ひきこもり経験者から支援をける機会が多いためと考えられます。

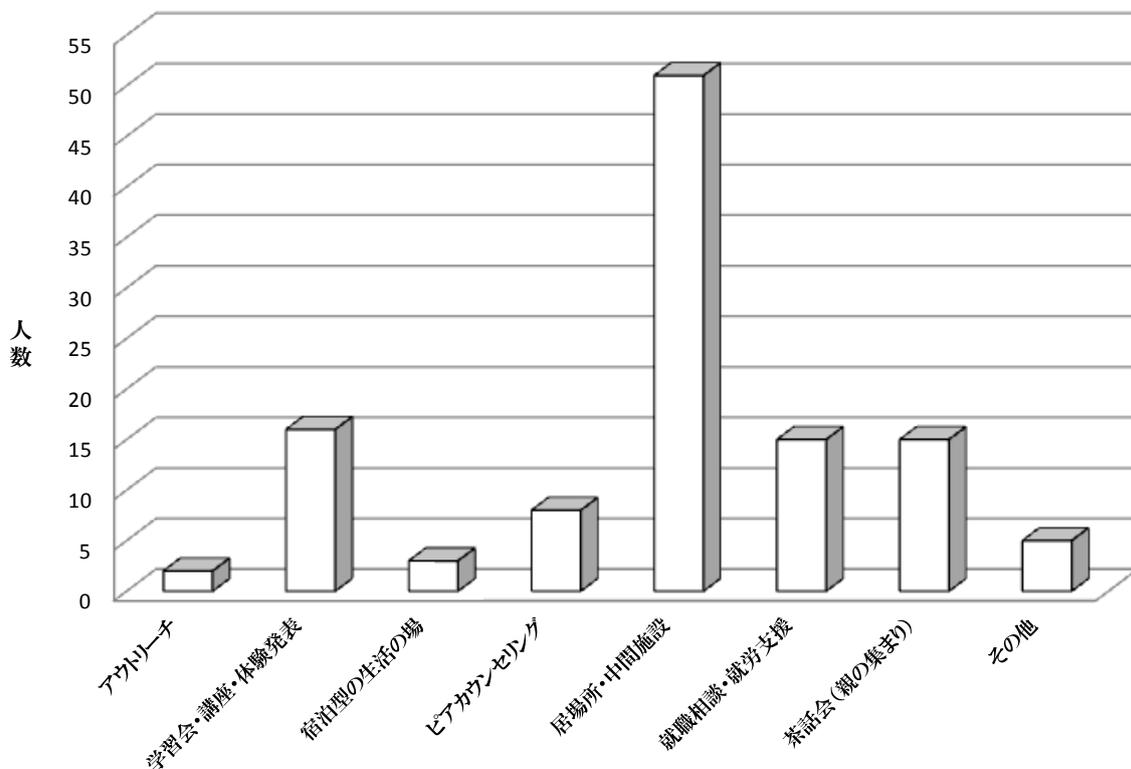


図1-16 ひきこもり経験者の支援(2)

図1-16から、本人回答者は居場所や中間施設で、ひきこもり経験者からの支援を受けたことが多いことがわかりました。

(16) ひきこもり経験者の家族の支援

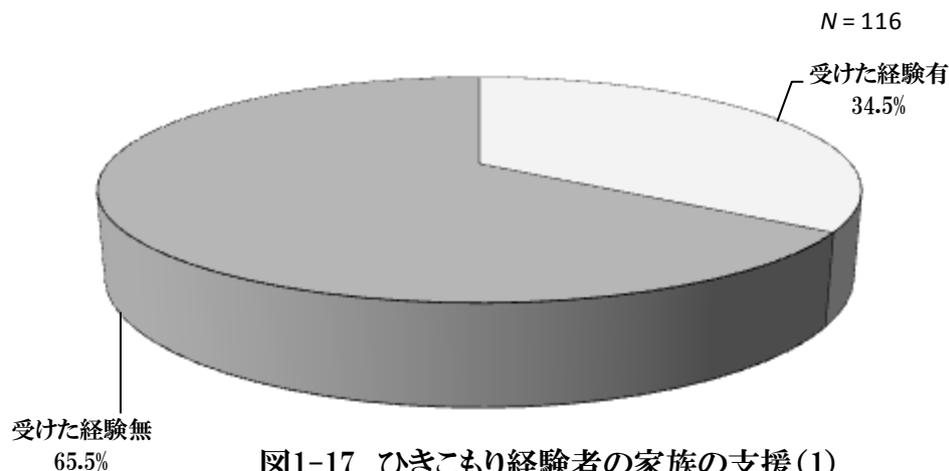


図1-17 ひきこもり経験者の家族の支援(1)

本人回答者の34.5%は、ひきこもり経験者の家族からの支援を受けたことがあると回答しました。親の会に参加してはいても、多くの人はひきこもり経験者からの支援のみを受けている実態が伺えます。

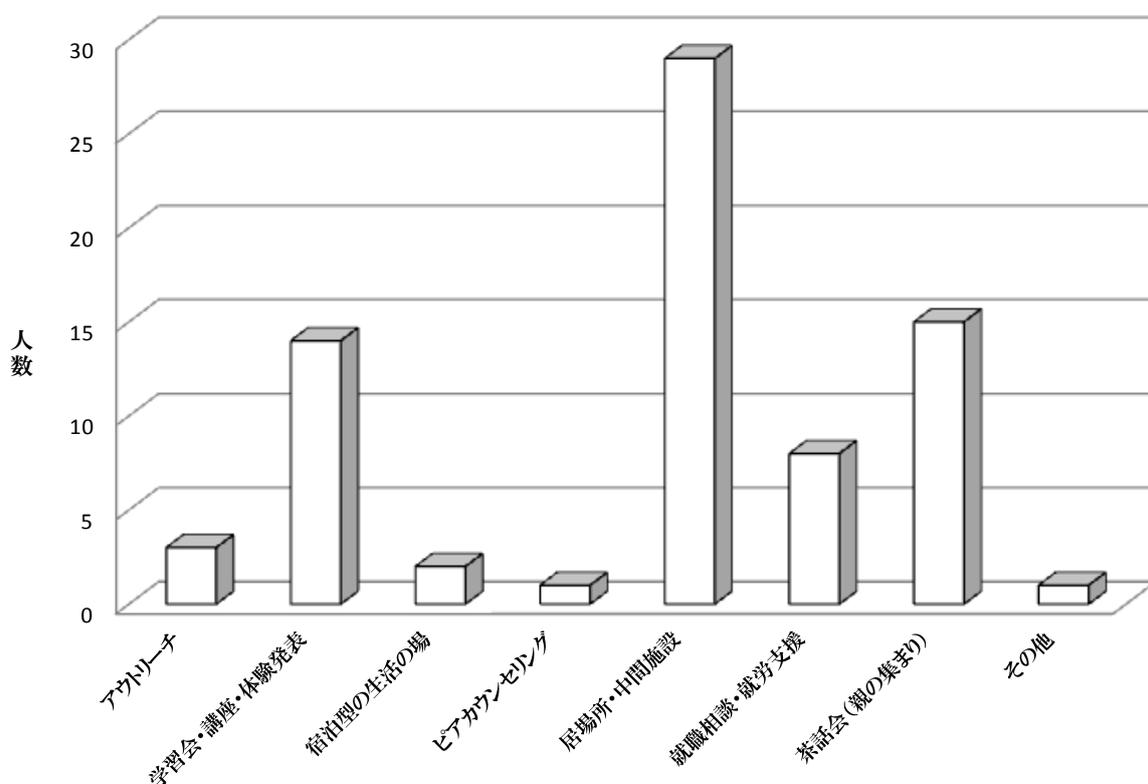


図1-18 ひきこもり経験者の家族の支援(2)

図1-18から、本人回答者は居場所や中間施設で、ひきこもり経験者の家族からの支援を受けたことが多いことがわかりました。

(17) ひきこもり経験者に望む支援

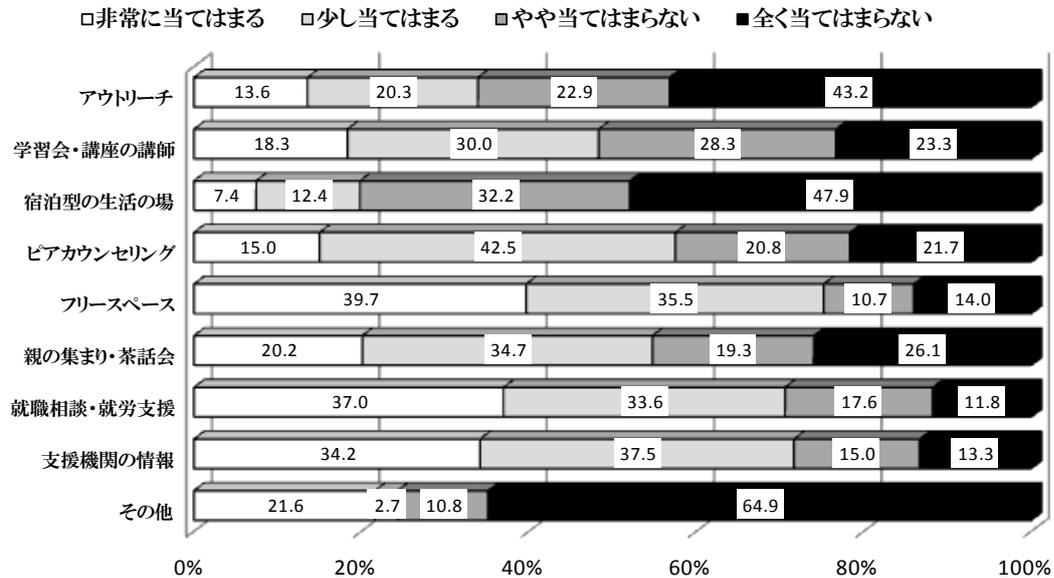


図1-19 ひきこもり経験者に望む支援

図1-19から、本人回答者はフリースペースや就職相談・就労支援、支援機関の情報での支援をひきこもり経験者に望むことが多いと言えます。ひきこもり経験者からのピアサポートにおいて、こうした支援を行うことが効果的であると考えられます。たとえば、フリースペースにおいて、ひきこもり経験者による就職相談・就労支援、支援機関の情報提供を行うことが考えられます。

(18) ひきこもり経験者の親に望む支援

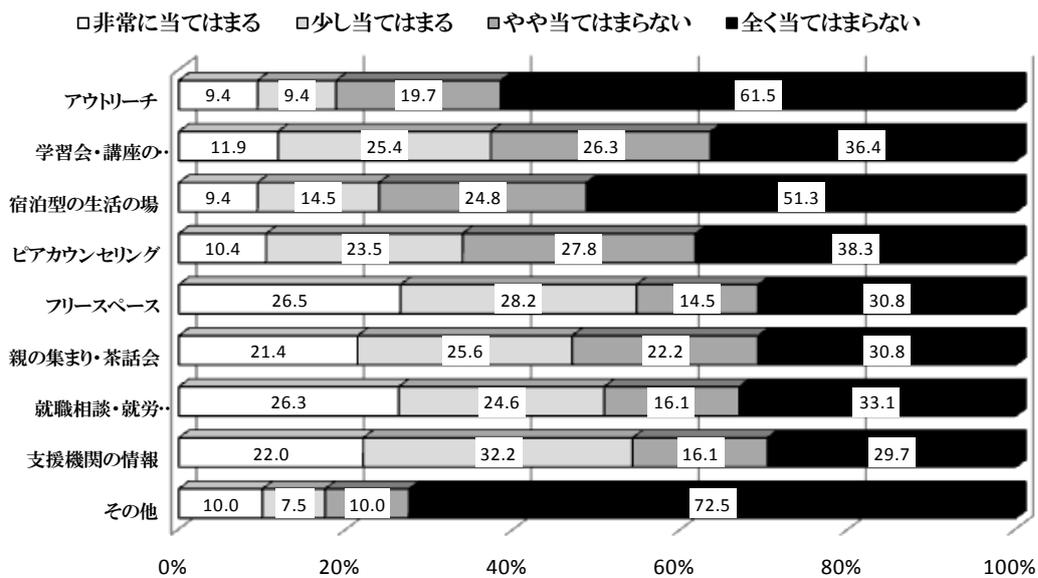


図1-20 ひきこもり経験者の親に望む支援

図1-20から、本人回答者はフリースペースや就職相談・就労支援、支援機関の情報での支援をひきこもり経験者の親に望むことが多いのは、ひきこもり経験者に望むことと一致

していますが、その割合は低く、ひきこもり経験者からの支援をより強く望んでいると言えます。

(19) ひきこもりピアサポーターに連携して欲しい支援機関

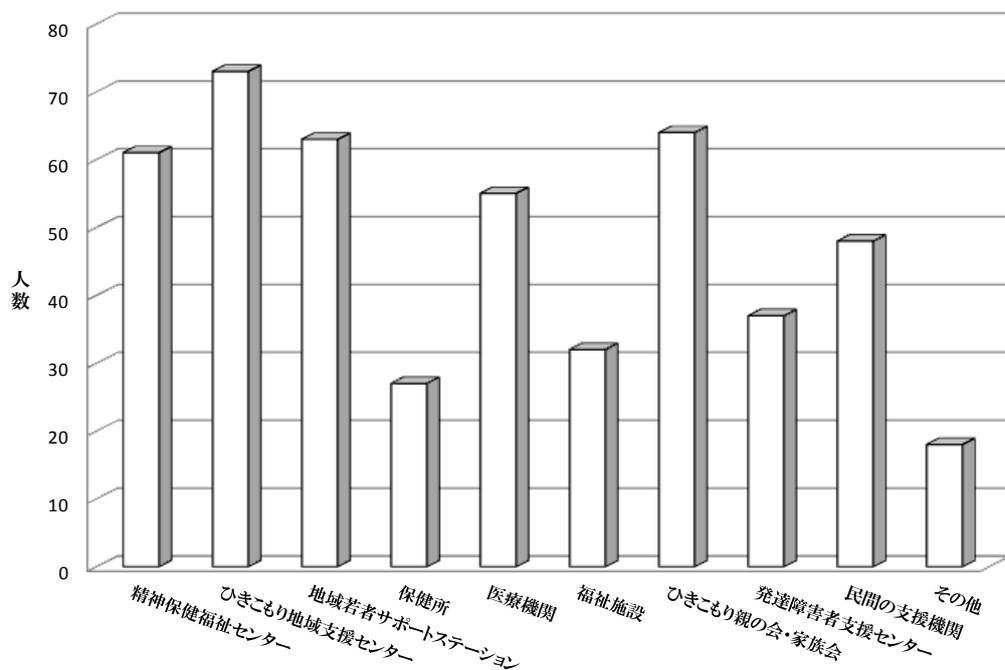


図1-21 ピアサポーターに望む連携先

図1-21から、本人回答者はひきこもり地域支援センターとの連携をピアサポーターに望むことが多いと分かります。また、精神保健福祉センターや地域若者サポートステーション、ひきこもり親の会・家族会との連携も望むことが多いと言えます。

(20) ひきこもりピアサポーターのアウトリーチに望む頻度

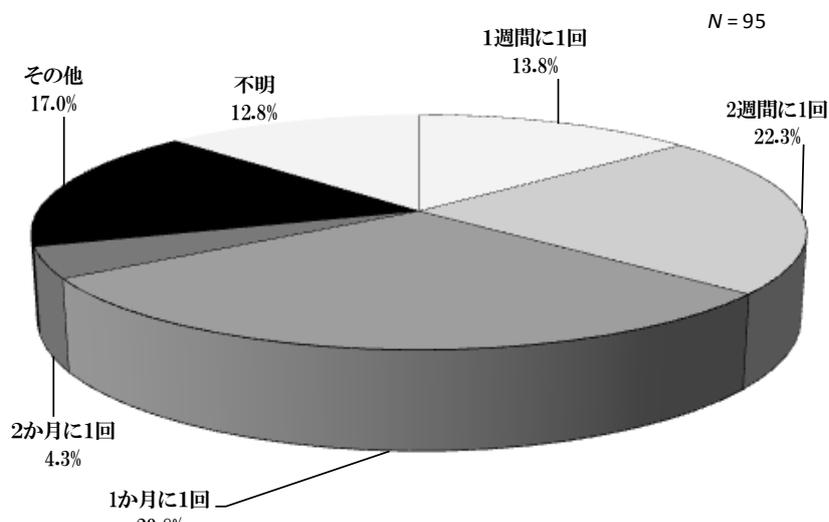


図1-22 アウトリーチを望む頻度

本人回答者がピアサポーターのアウトリーチを望む頻度は、1か月に1回の頻度が29.8%、2週間に1回が22.3%、1週間に1回が13.8%でした。訪問に関しては、月に1回を原則とするのがひきこもり経験者のニーズに合っているものと考えられます。

(2 1) ひきこもりピアサポーターのアウトリーチに望む時間

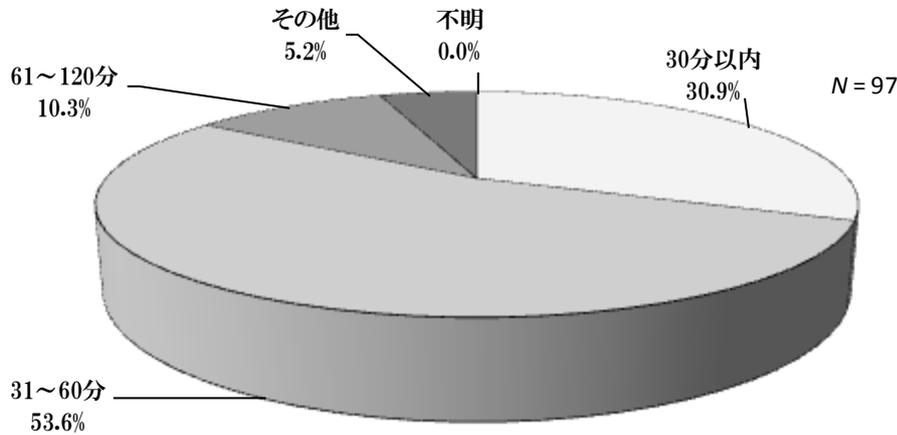


図1-23 アウトリーチに望む1回あたりの時間

本人回答者がピアサポーターのアウトリーチを望む1回あたりの時間は、31~60分が53.6%、30分以内が30.9%、61~120分が10.3%でした。つまり、アウトリーチ地においては60分以内に支援を終えることが重要と考えられます。

(2 2) アウトリーチ期間の上限

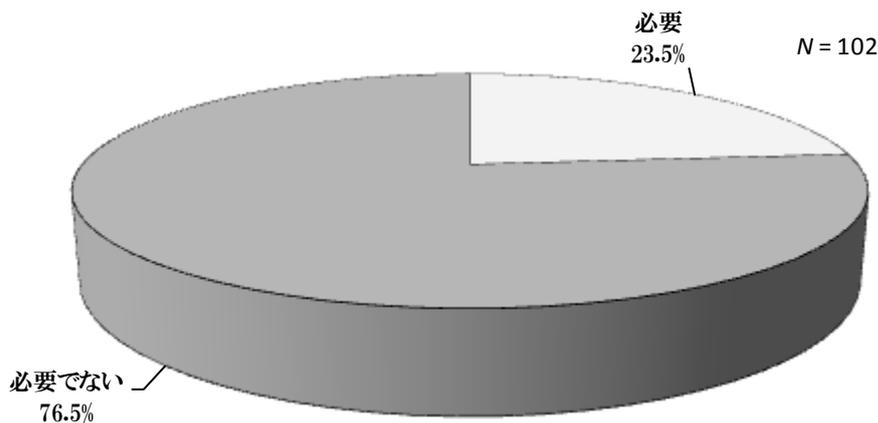


図1-24 アウトリーチ期間上限—本人に会えている場合(1)

図1-24から、本人回答者は、本人に会えている場合、アウトリーチをする期間に上限は必要ないと考えている人が多いことが分かります。月一回程度で上限なく行うとなると、アウトリーチは根気強く、長期的視点で行う必要があると考えられます。

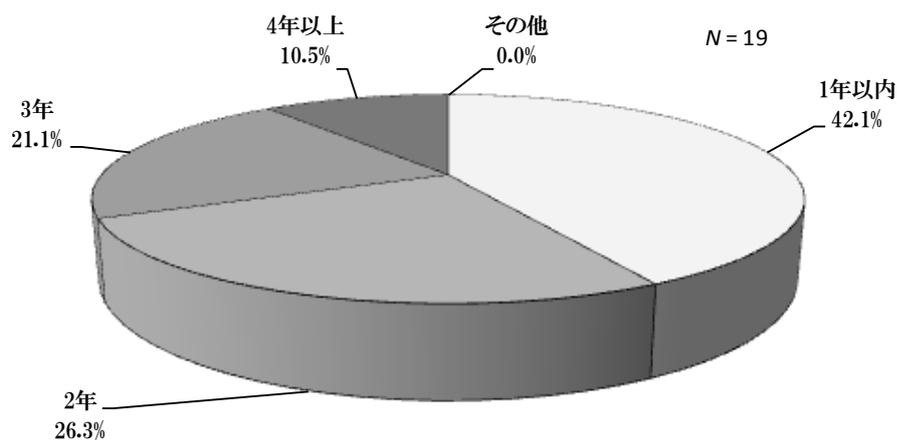


図1-25 アウトリーチ期間上限—本人に会えている場合(2)

本人に会えている場合にアウトリーチの期間の上限が必要だと回答した人は、42.1%が1年以内、26.3%が2年を上限と回答しています。半数以上の人が多数年を上限とされていることから、長期的視点に立った訪問が必要と考えられます。

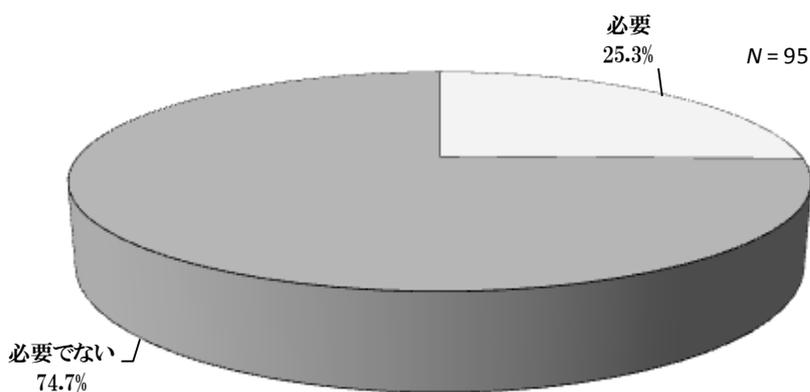


図1-26 アウトリーチ期間上限—本人に会っていない場合(1)

図1-26から、本人回答者は、本人に会っていない場合、アウトリーチをする期間に上限は必要ないと考えている人が多いことが分かります。

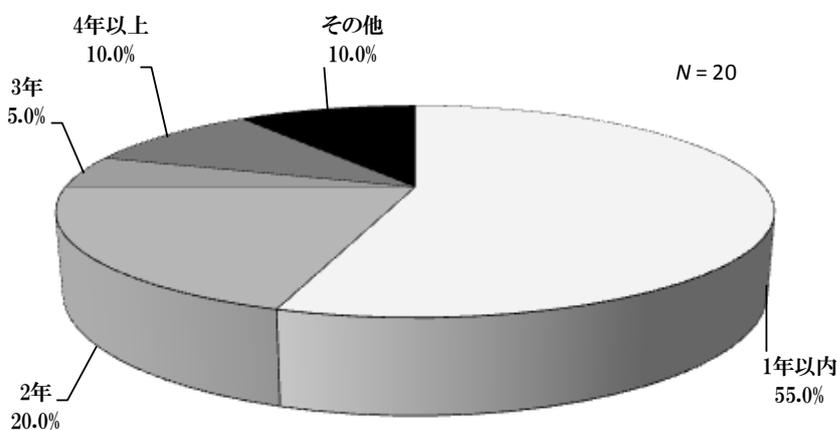


図1-27 アウトリーチ期間上限—本人に会っていない場合(2)

本人に会えていない場合にアウトリーチの期間の上限が必要だと回答した人は、55.0%が1年以内、20.0%が2年を上限と回答しています。上限に関しては、会えていない場合、1年以内にアウトリーチを中断する方が良いと考えている人が多いことがわかります。

(23) ひきこもりサポーターになりたいか

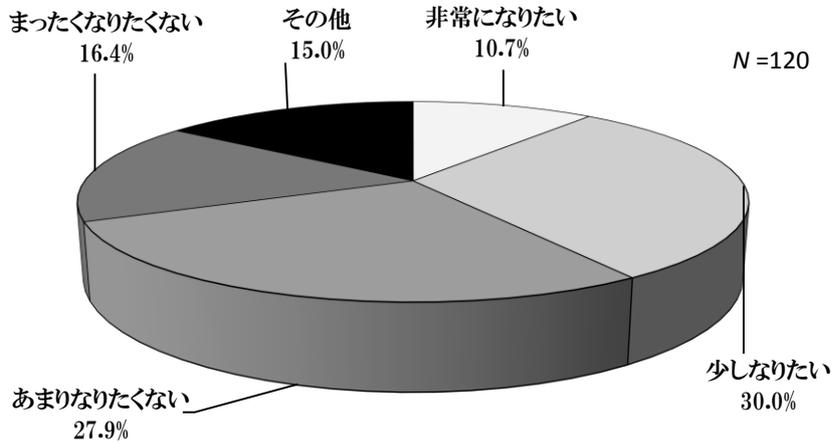


図1-28 ひきこもりサポーターになりたいと思うか

本人回答者は、30.0%がひきこもりサポーターに少しなりたい、27.9%がひきこもりサポーターにあまりなりたくない、16.4%がまったくなりたくないと回答しました。非常になりたいと回答した人は、10.7%でした。親の会に参加しているひきこもり経験者は、自身ではひきこもりサポーターになることをあまり望んでいないことがわかりました。



## 第二部 家族調査

## 1. 目的

本調査においては、ひきこもりピアサポーターに求める支援について調査を実施しました。

## 2. 調査方法

### (1) 調査対象者

NPO 法人全国引きこもり親の会（以下、「親の会」とする）の支部が平成 25 年 11 月～平成 26 年 1 月に開催した月例会において調査を実施しました。月例会参加者のうち、調査協力の得られた 478 名の回答が分析に用いられました。

### (2) 調査内容（注：調査内容の詳細は、巻末の資料を参照してください）

①基礎情報 家族調査に回答した方（以下、家族回答者）及び、ひきこもり状態にある人（以下、ひきこもり本人）に関する以下の情報について回答を求めました。

- ・家族回答者が住んでいる都道府県
- ・家族回答者とひきこもり本人との続柄
- ・家族回答者の年齢
- ・ひきこもり本人の性別
- ・ひきこもり本人の年齢
- ・家族回答者とひきこもり本人の同・別居
- ・ひきこもりの期間
- ・現在のひきこもりの程度
- ・ひきこもり本人の外出日数
- ・家族回答者とひきこもり本人との会話
- ・ひきこもり本人の相談機関利用状況
- ・家族回答者の相談機関利用状況
- ・ひきこもり本人の兄弟姉妹の有無
- ・経済の困難度
- ・本人との関係の困難度
- ・対応の自信

②ひきこもりピアサポーターについて

- ・どのような人からのピアサポートを望むか
- ・ひきこもり経験者から受けた支援
- ・ひきこもり経験者の家族から受けた支援
- ・ひきこもり経験者からのピアサポートでしてほしい支援
- ・ひきこもり経験者の親からのピアサポートでほしい支援
- ・ひきこもりピアサポーターに連携してほしい支援機関
- ・ひきこもりピアサポーターに望むアウトリーチ（訪問）の頻度、時間、上限
- ・ひきこもりピアサポーターになることを望むか

③ひきこもり本人との接し方

家族回答者のひきこもり本人との接し方について問う 35 項目で構成されています。

④ひきこもり状態に関する否定的評価(境ら, 2009)

ひきこもり状態に対する否定的評価の程度を問う 12 項目で構成されています。

⑤ピアサポーターへの意見・要望

(3) 調査手続き

調査の趣旨に関する文書を読んだ上で、調査協力に同意された方がのみが調査用紙に回答をしました。調査の趣旨に関する文書は、調査用紙から切り離して、持ち帰ってもらいました。

ほとんどの回答者には、月例会において調査用紙を配布し、その場で回収をしました。しかし、各支部の運営上の問題から、後日記入の上で持参したものを回収した回答者もいました。

### 3. 結果

#### (1) 家族回答者が住んでいる場所

表2-1 家族回答者が住んでいる場所

地方	都道府県	人数	地方	都道府県	人数
東北地方	山形県	7	近畿地方	大阪府	7
	岩手県	6		三重県	2
	北海道	13		京都府	2
北陸地方	新潟県	23	中国地方	広島県	13
	富山県	7		岡山県	12
	石川県	16		山口県	16
関東地方	千葉県	30	四国地方	愛媛県	12
	埼玉県	31		香川県	17
	東京都	36		高知県	21
	神奈川県	15	徳島県	7	
	群馬県	1	九州地方	福岡県	10
	栃木県	10		宮崎県	12
愛知県	52	大分県		18	
東海地方	岐阜県	2	鹿児島県	10	
	静岡県	56	佐賀県	1	
			不明	13	
		合計	478		

表2-1に示したとおり、家族回答者が住んでいる場所は30都道府県に分布しています。各地方の割合としては、北海道・東北地方が5.4%、北陸地方が15.9%、関東地方が25.7%、東海地方が23.0%、近畿地方が2.3%、中国地方が8.6%、四国地方が11.9%、九州地方が10.7%となっています。静岡県や愛知県は回答者が特に多いことがわかります。これらの県では、親の会に家族回答者が多く参加しているものと考えられます。

#### (2) ひきこもり本人と家族回答者の続柄

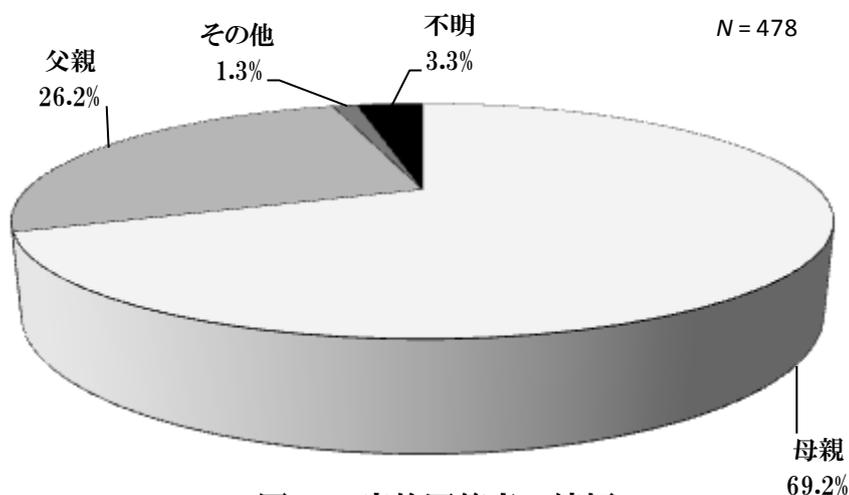


図2-1 家族回答者の続柄

ひきこもり本人と家族回答者の続柄は、母親が 69.2%，父親が 26.2%，その他が 1.3%，不明が 3.3%でした。その他としては、姉，妻，義理の姉などが見られました。

### (3) 家族回答者の年齢

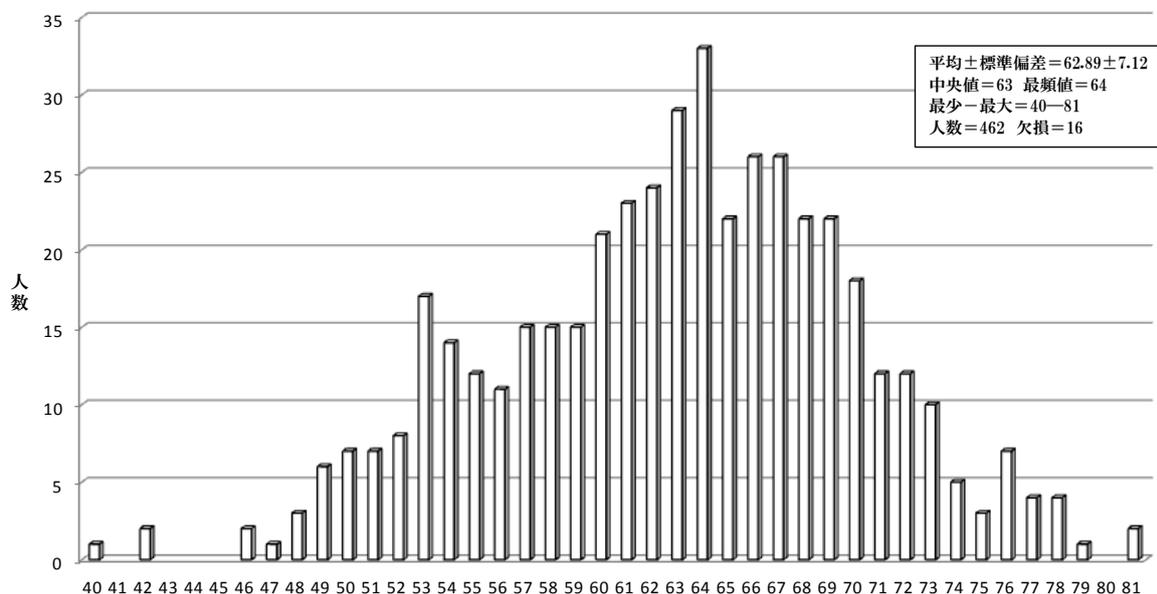


図2-2 家族回答者の年齢

家族回答者の年齢を図2-2に示します。家族回答者の平均年齢は 62.89 歳であり，最年少が 40 歳，最年長が 81 歳でした。母親の年齢に関しては，平均 61.66 歳であり，最年少が 40 歳，最年長が 81 歳でした。父親の年齢については，平均 66.31 歳であり，最年少 50 歳，最年長 81 でした。昨年度の平均年齢は母親が 61.8 歳，父親が 67.1 歳であり，昨年とほぼ同程度の年齢でした。

### (4) ひきこもり本人の性別

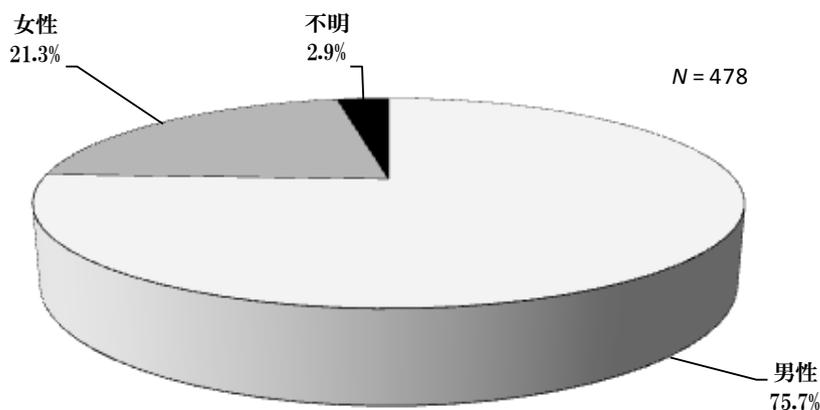


図2-3 ひきこもり本人の性別

ひきこもり本人の性別については，男性が 75.7%，女性が 21.3%でした。調査開始以降，一貫して男性が多いことは，ひきこもりの一つの特徴であると言えます。

(5) ひきこもり本人の年齢

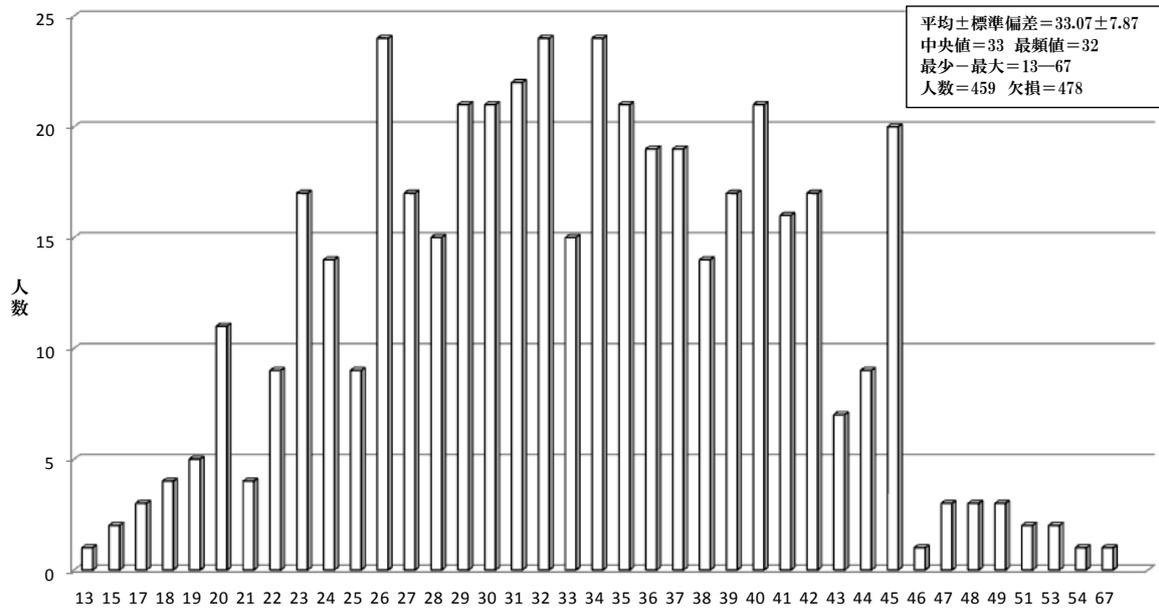


図2-4 ひきこもり本人の年齢 (歳)

全体では平均 33.07 歳であり、最年少が 13 歳、最年長が 67 でした。男性に関しては、平均年齢 33.2 歳であり、最年少が 15 歳、最年長が 67 歳でした。女性に関しては、平均年齢 32.6 歳、最年少が 13 歳、最年長が 54 歳でした。昨年度は全体で 33.1 歳、男性で 33.3 歳、女性で 32.3 歳でした。本年の調査においては、年齢の上昇は認められていません。

(6) ひきこもり本人と家族回答者の同別居

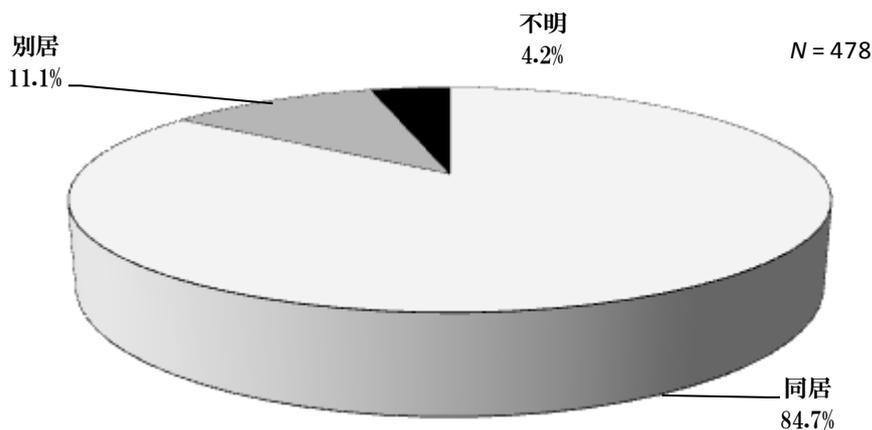


図2-5 ひきこもり本人と家族回答者の同・別居

図2-5に示すように、ひきこもり本人と家族回答者の同別居に関しては、同居している人が 84.7%です。昨年度の調査では同居している割合が 83.3%、一昨年度が 77.4%でした。概して同居している割合は高いですが、年度によって同居率には変動があると言えます。

(7) ひきこもりの初発年齢

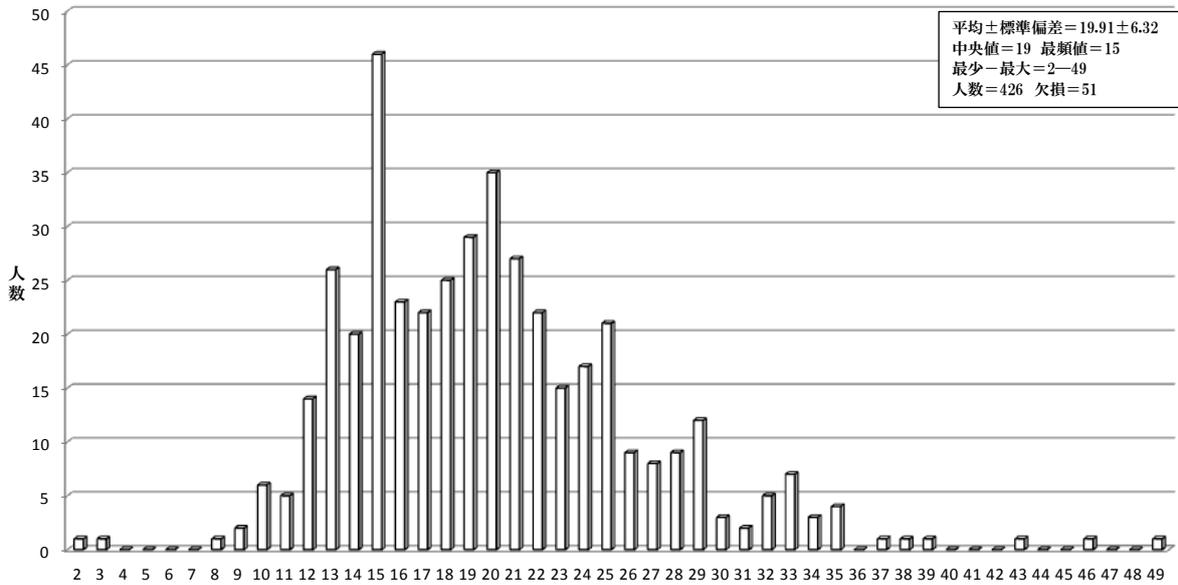


図2-6 ひきこもり初発年齢

ひきこもりが始まった時期については、図2-6に示すとおり、平均年齢は19.91歳、最年少が2歳、最年長が49歳でした。

(8) ひきこもり期間

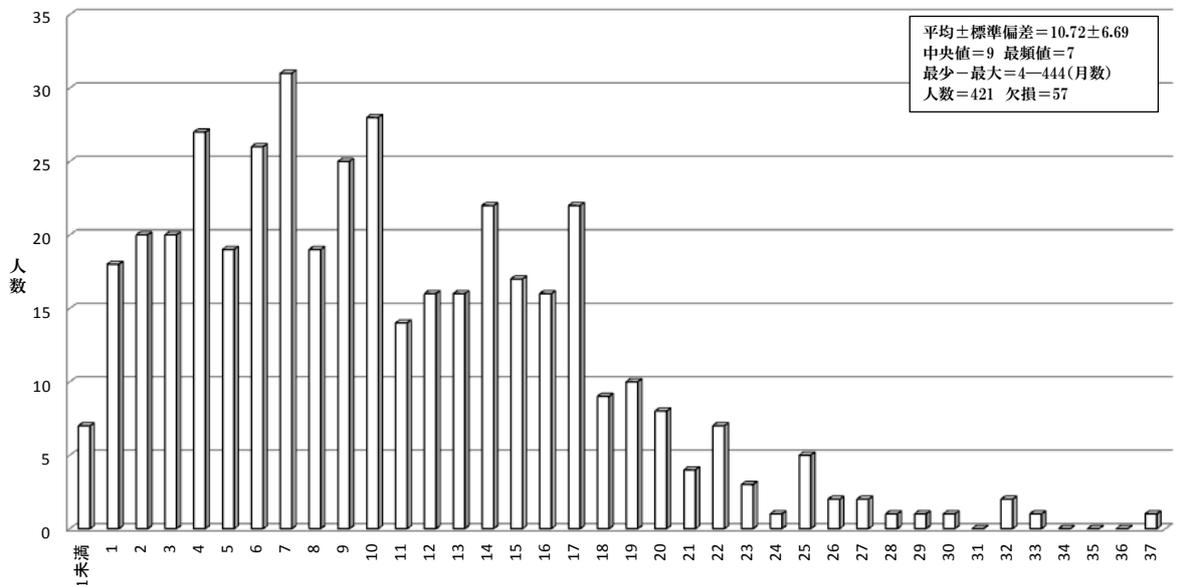


図2-7 ひきこもり期間

ひきこもり期間は、図2-7に示すとおり、平均10.72年、最少が4ヶ月、最大は444ヶ月でした。本年度の本人調査の平均ひきこもり期間は7.41年でしたが、親の会に参加している方の抱えるひきこもり当事者は、さらに長期にわたりひきこもり状態にあることがわかります。当会には、長期化したひきこもり事例で悩む方が多く参加されていると言えます。

(9) ひきこもりの程度

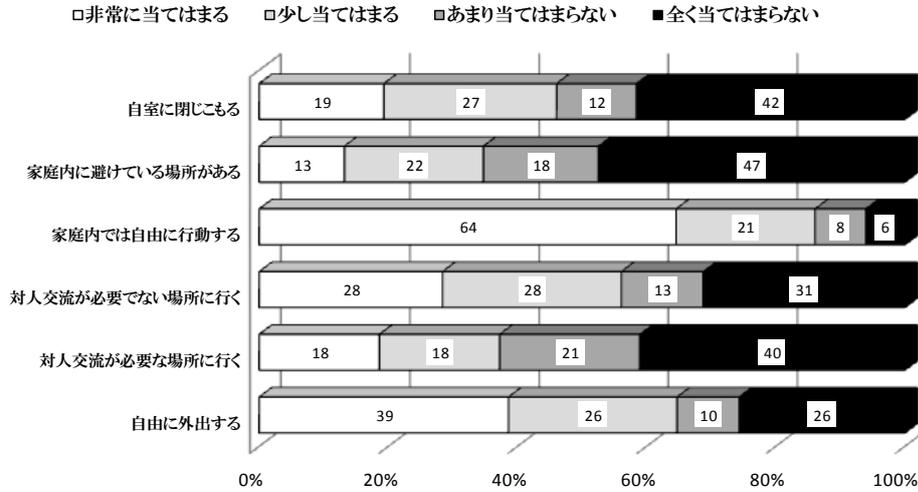


図2-8 ひきこもりの程度

ひきこもりの程度については、図2-8から家庭内では自由に行動し、外出を自由にする方、対人交流が必要ない場所へ行く方が多いと言えます。しかし、自室に閉じこもる傾向にある方が半数に上り、本人調査の回答者よりも深刻なひきこもり状態にあると言えます。

(10) 1か月の外出日数

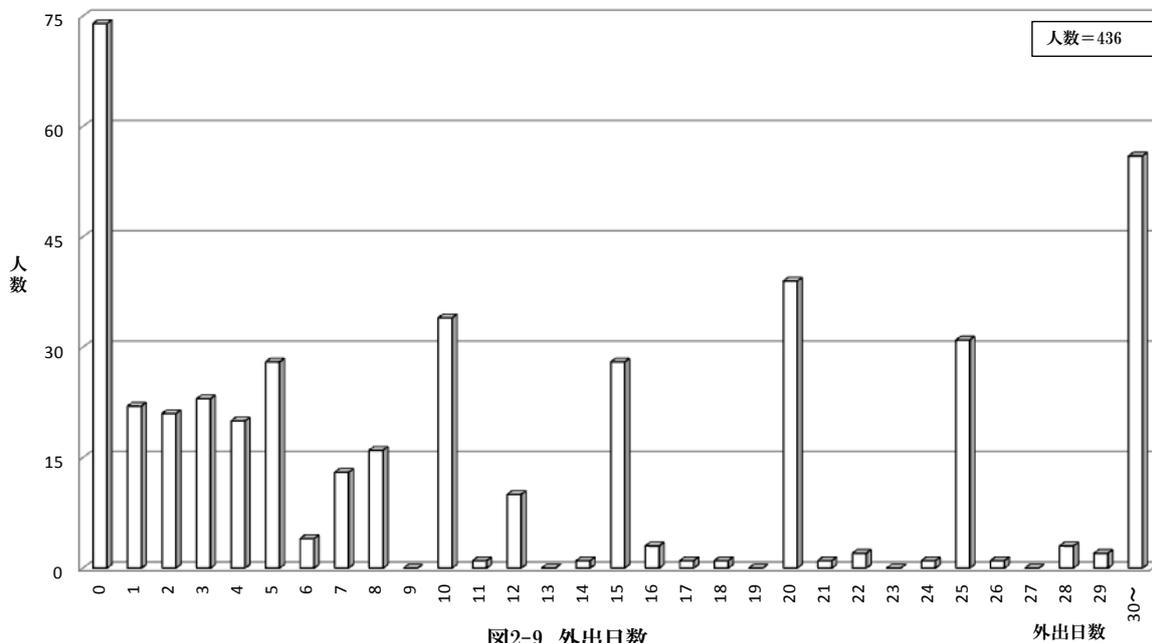


図2-9 外出日数

図2-9から、まったく外出しない方と、ほとんど毎日外出する方に分かれる傾向にあることが伺えます。外出をほとんどしないケースが半数近くを占めることがわかります。こうした深刻な状態から、親の会に参加できるような状態に移行しているものと考えられます。

(11) ご本人との会話

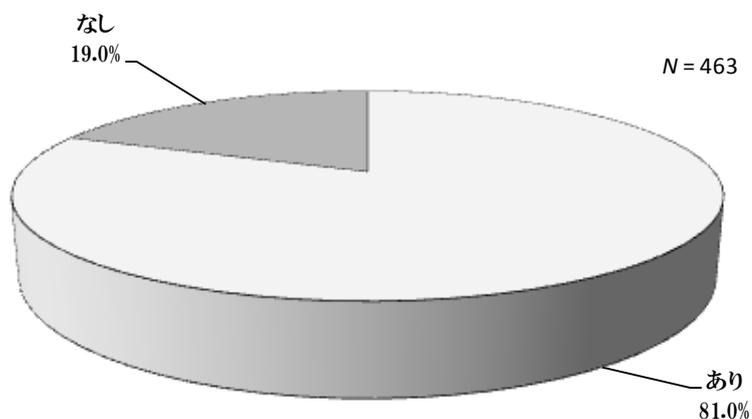


図2-10 会話

図2-10から、81.0%がご本人との会話があることが分かりました。

(8) 支援・医療機関の利用

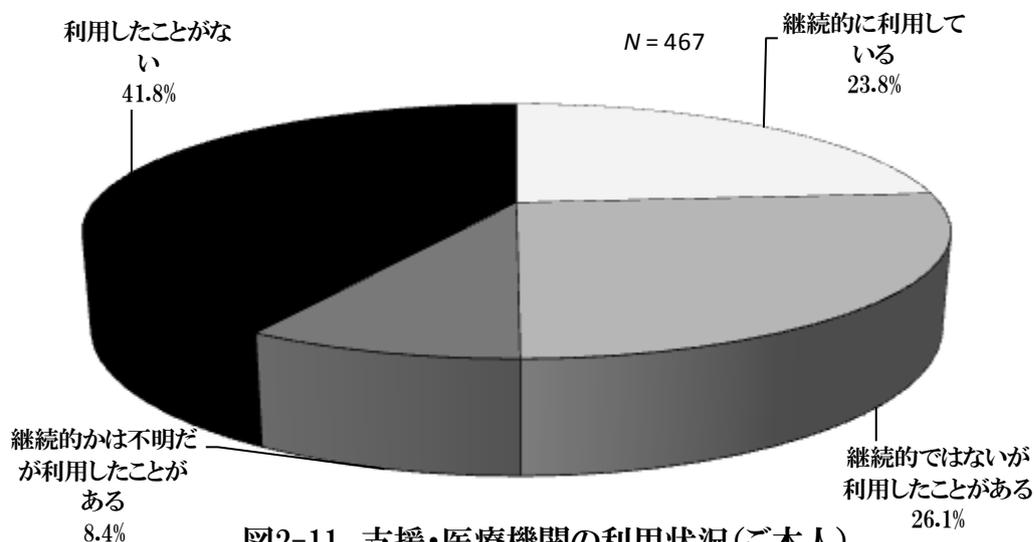


図2-11 支援・医療機関の利用状況(ご本人)

図2-11から、ご本人の支援・医療機関の利用は、継続的に利用している人が23.8%、過去に利用したことのある人が34.5%となっています。利用したことの無い人が41.8%となっており、家族回答者では、ご本人の多くが支援・医療機関を利用していないことが分かります。

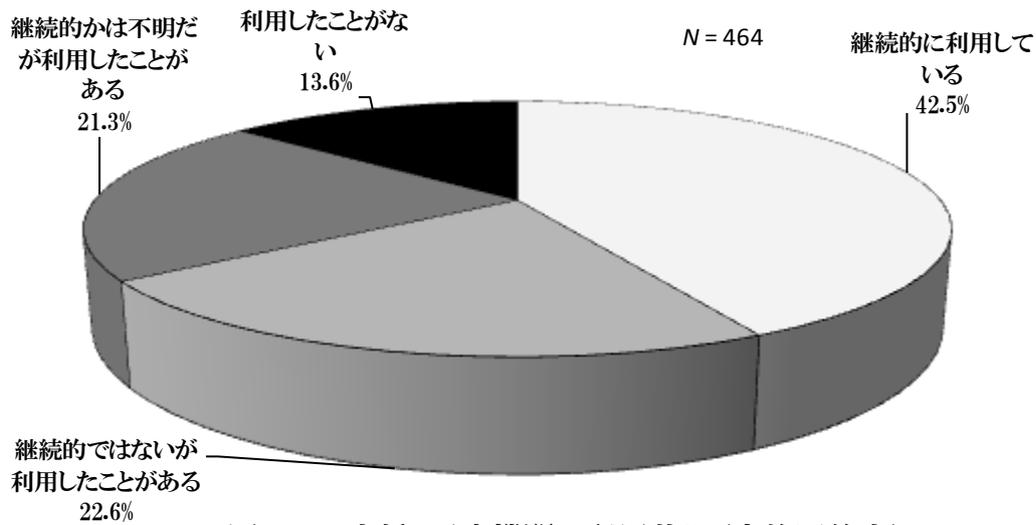


図2-12 支援・医療機関の利用状況(家族回答者)

その一方で、図2-12から、家族回答者の支援・医療機関の利用は、継続的に利用している人が42.5%、過去に利用したことのある人が43.9%となっています。利用したことのない人が13.6%となっており、家族回答者の多くが支援・医療機関を利用していることが分かります。

また、表2-2から、支援・医療機関を利用したことがあると回答した方のうち、ご本人の約7%、家族の約10%が5か所以上の機関を利用したことがあると分かりました。

表2-2 利用機関数

利用機関数	本人	家族
1	107	139
2	76	114
3	41	69
4	10	22
5以上	17	40
合計	251	384

(9) 兄弟姉妹

図2-13から、ほとんどの方に兄弟姉妹がいることが分かります。兄弟姉妹の人数については、一人が63.0%に上っています。本人調査では、兄弟姉妹がいる割合が77.9%であったのに比べて、高い値になっています。

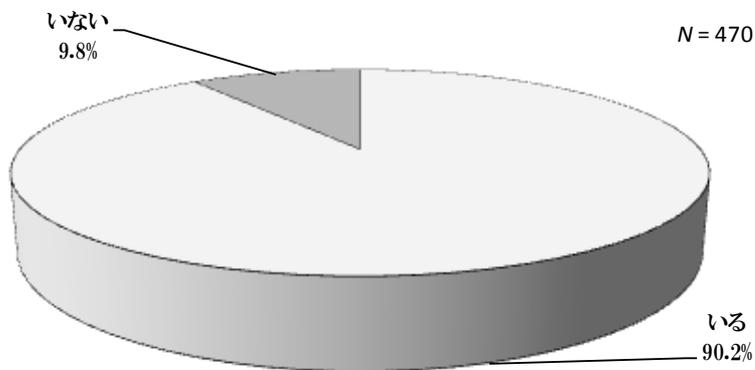


図2-13 兄弟姉妹の有無

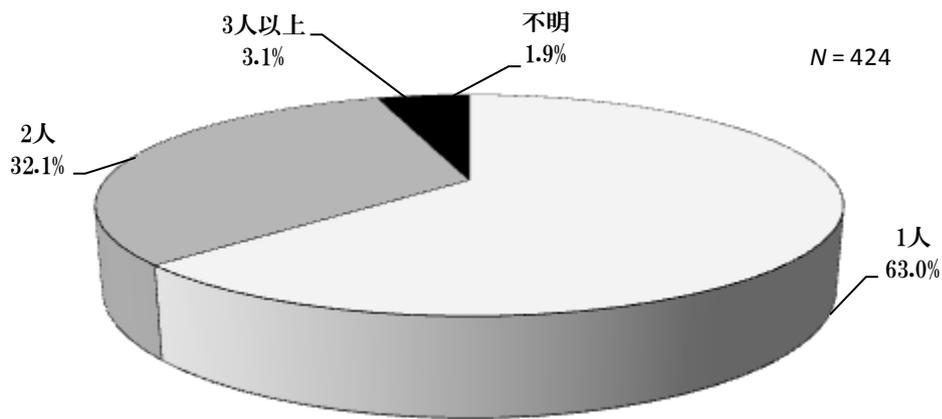


図2-14 兄弟姉妹の人数

(10) 経済状況

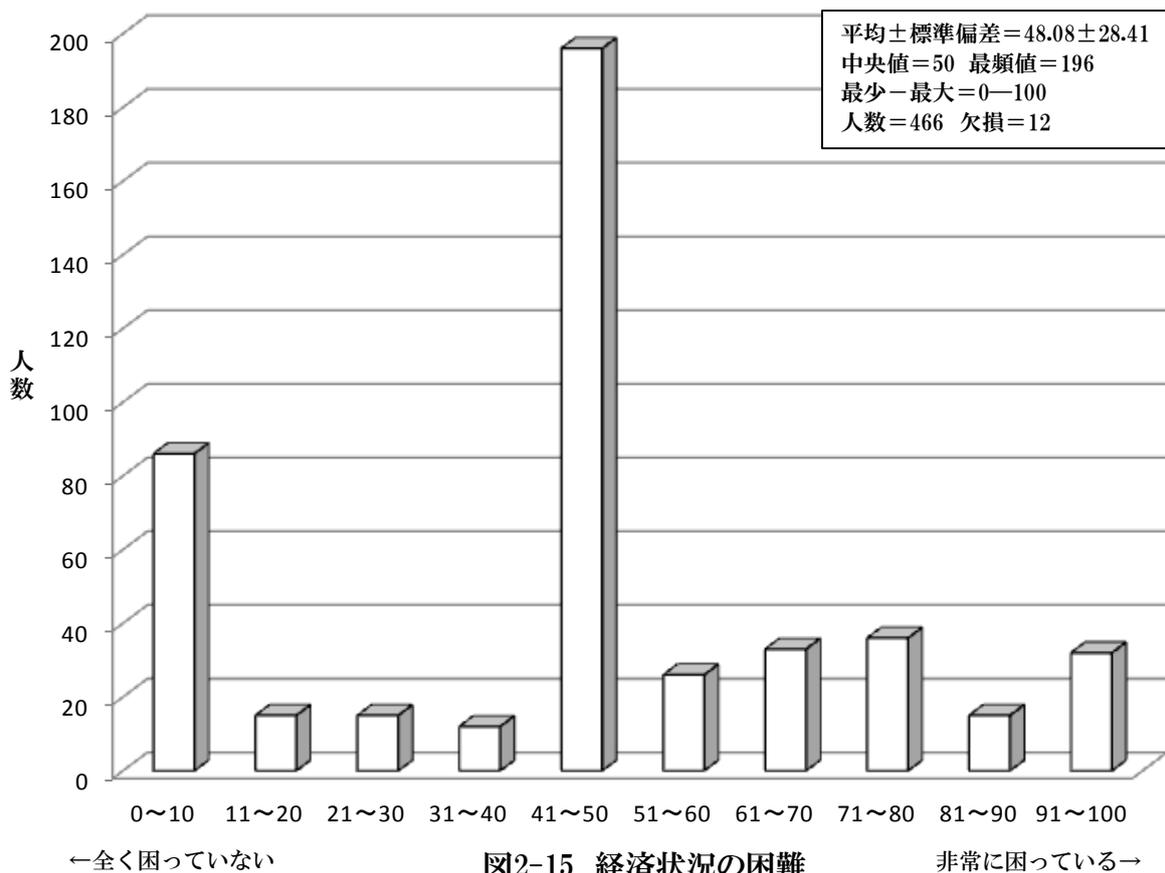
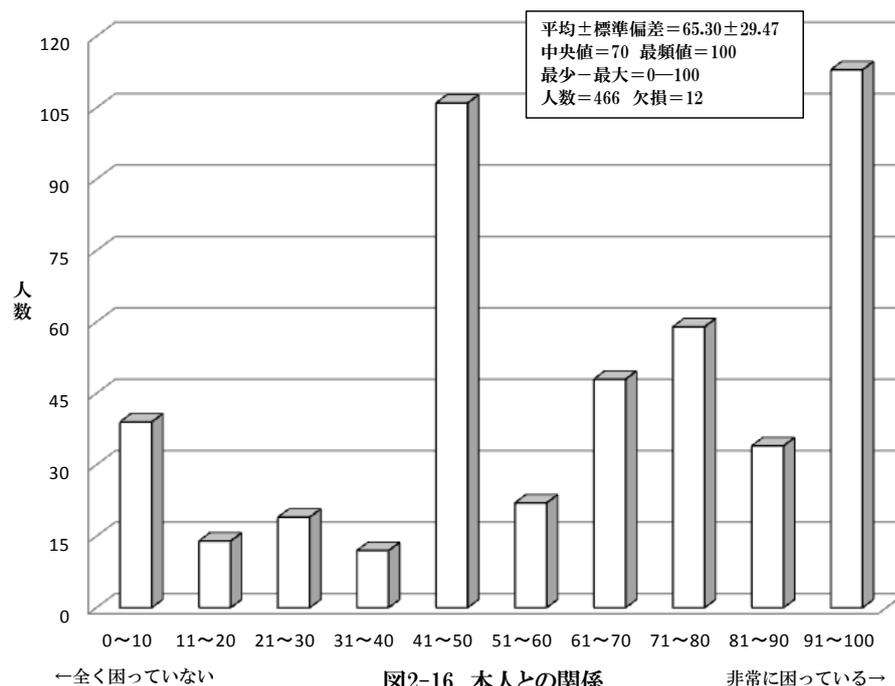


図2-15 経済状況の困難

図2-15から、家族回答者の約10%が経済状況の困難度が90以上であると答えました。この傾向は、本人調査の傾向とほぼ一致します。

(1 1) ひきこもり本人との関係



本人との関係は、家族回答者の約31%が90以上の困難度であると回答しました。本人調査では、家族との関係に困難を抱えている人が約14%でしたが、これと比較してかなり多くの家族が、ひきこもり本人との関係に困難を感じていると言えます。会話がある割合は81.0%と高い値でしたが、健全な関係を維持できているケースは少数であると言えます。

(1 2) ひきこもり本人以外の家族との関係

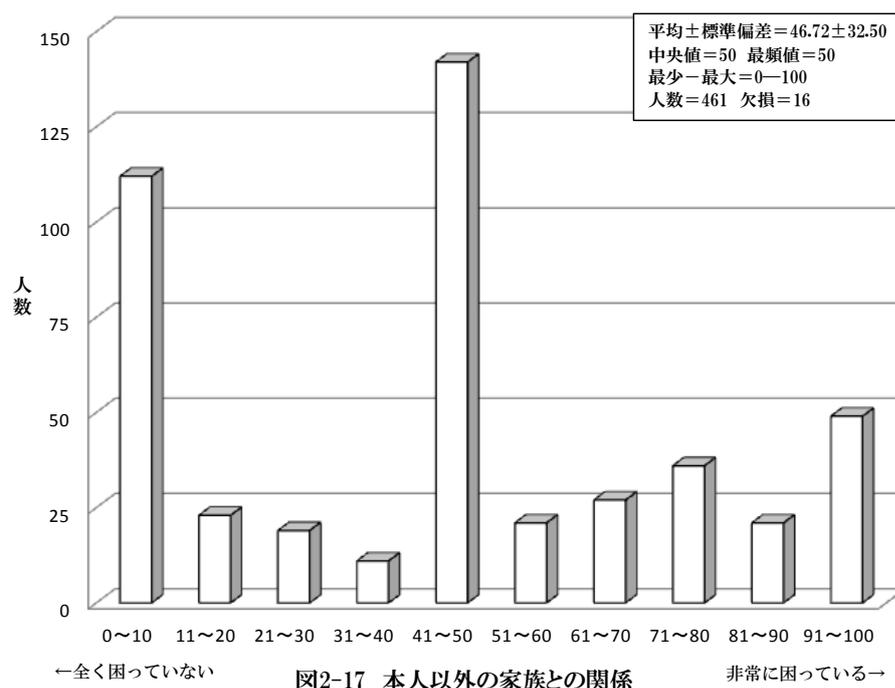


図2-17から、約15%の家族回答者が、本人以外の家族との関係の困難度を90以上であると回答しました。ひきこもり本人以外との関係においては、強い困難を抱えている人は少数であると言えます。

(13) ひきこもり本人への対応の自信

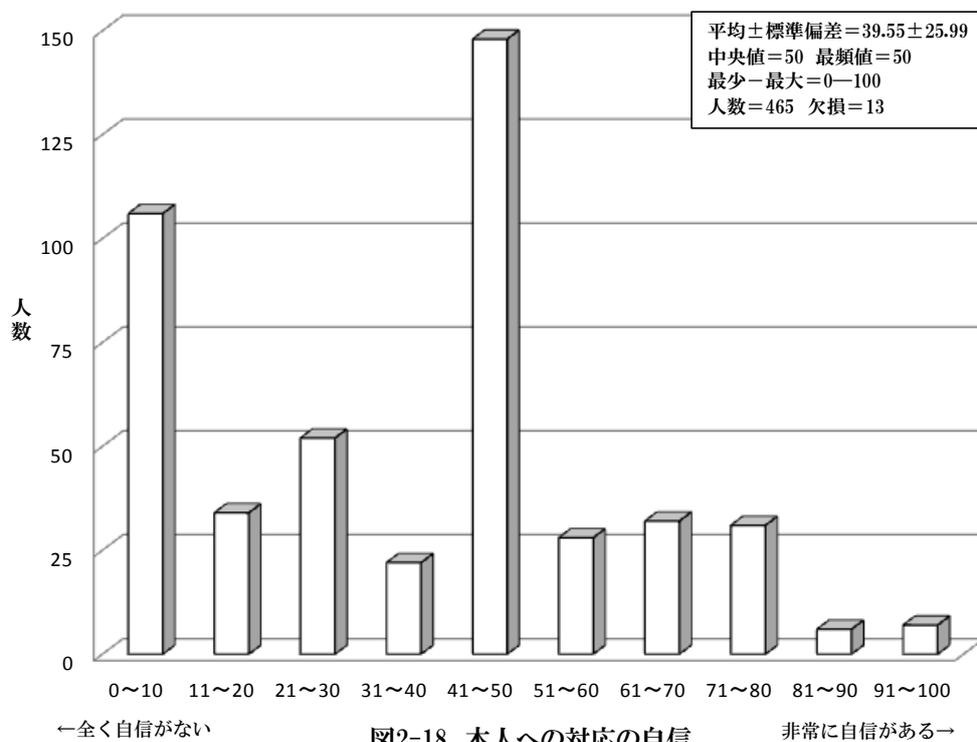


図2-18 本人への対応の自信

図2-18から、家族回答者の約23%が、本人への対応の自信について、10以下であると回答しました。自信があると答えた方はほとんどおらず、ひきこもり本人にどう対応したらよいのかがわからず、自信を失っている家族がほとんどであると言えます。

(14) ピアサポートを受けたい人

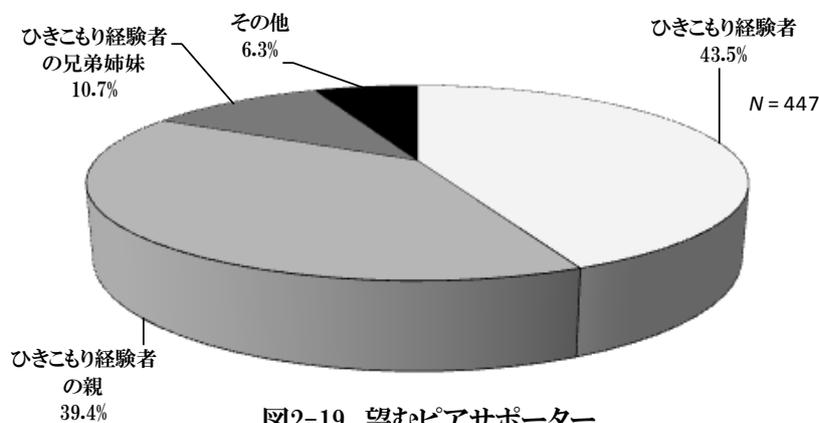


図2-19 望むピアサポーター

図2-19から、ひきこもり経験者のピアサポートを受けたい家族回答者が43.5%、ひきこもり経験者の親のピアサポートを受けたい家族回答者が39.4%であることが分かります。本人調査の回答者よりも、親からの支援を希望していることは、同じ立場の人からの支援を望んでいることを示していると言えます。

(15) ひきこもり経験者からの支援

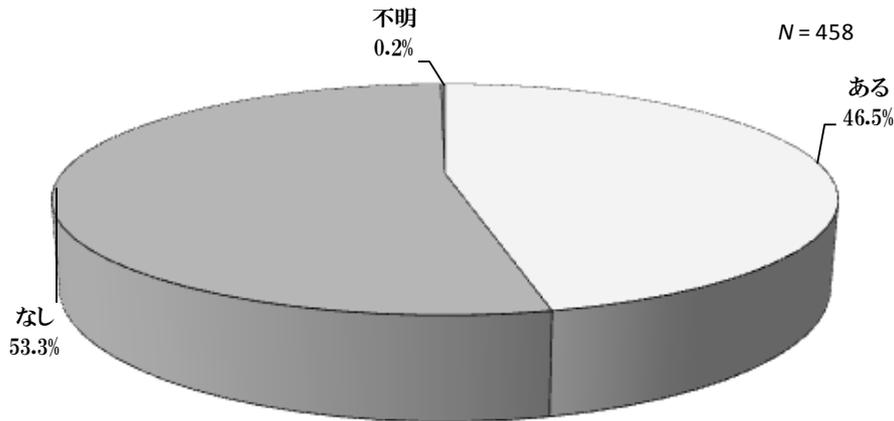


図2-20 ひきこもり経験者から支援を受けた経験

家族回答者の46.5%が、ひきこもり経験者からの支援を受けたことがあることがわかりました。

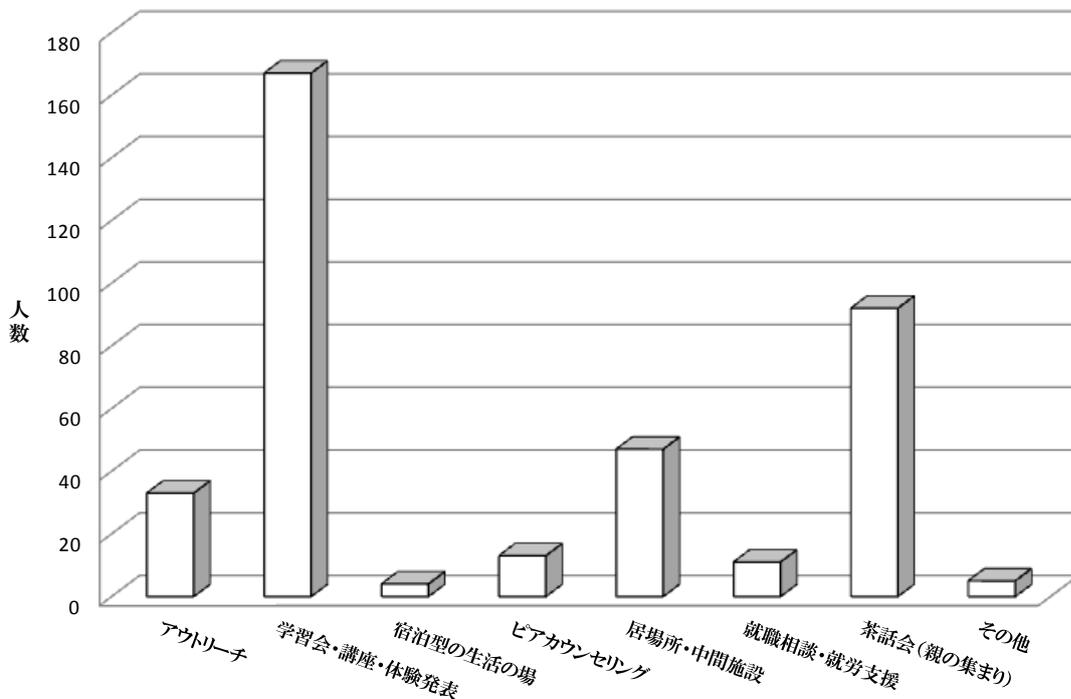


図2-21 ひきこもり経験者から受けたことのある支援

ひきこもり経験者から受けたことのある支援は、学習会・講座・体験発表と、茶話会（親の集まり）が多いことが分かります。本人調査では、居場所・中間施設でひきこもり経験者からの支援を受けている人が多く認められましたが、家族はひきこもり経験者の体験発表などを通して、支援を受けているケースが多いものと考えられます。

(16) ひきこもり経験者の家族から受けたことのある支援

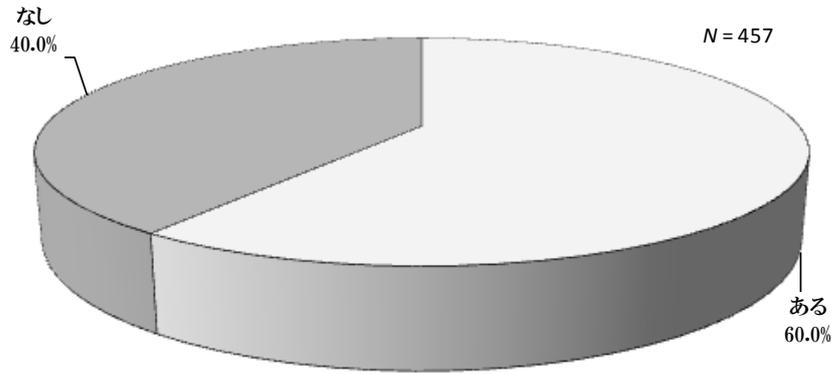


図2-22 ひきこもり経験者の家族から支援を受けた経験

図2-22から、家族回答者の60.0%がひきこもり経験者の家族から支援を受けたことがあることが分かります。この割合は、本人調査よりも明らかに多い値で、同じ立場の人からの支援を受ける経験が多いことを示していると考えられます。

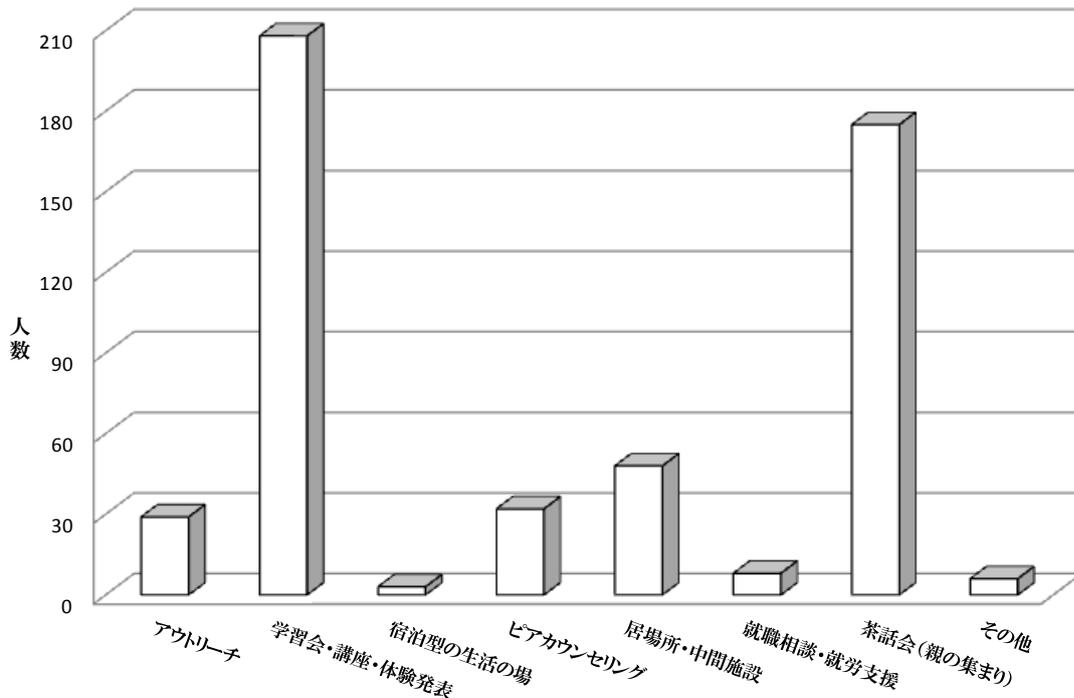


図2-23 ひきこもり経験者の家族から受けたことのある支援

ひきこもり経験者の家族から受けたことのある支援は、学習会・講座・体験発表や、茶話会（親の集まり）であることが分かります。親がピアサポートを受ける場として、学習会や茶話会などが中心になっていると言えます。

(17) ひきこもり経験者に望む支援

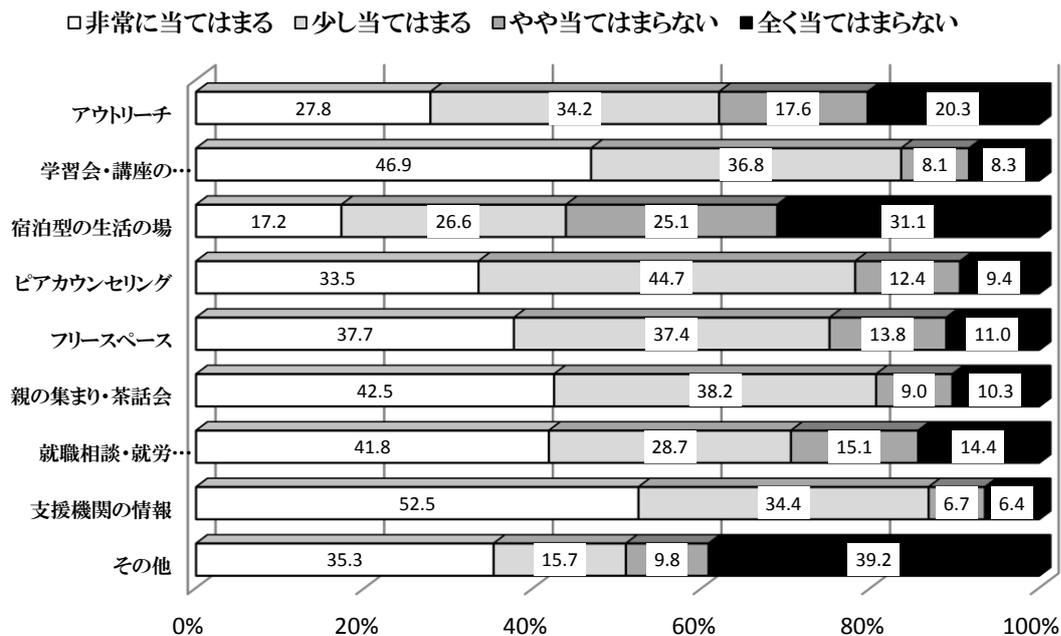


図2-24 ひきこもり経験者に望む支援

図2-24から、ひきこもり経験者に望む支援は、支援機関の情報や学習会・講座の講師、親の集まり・茶話会、ピアカウンセリング、フリースペースなど、多岐に渡ることが分かります。家族がひきこもり経験者に多くの期待を寄せている実態が伺えます。

(18) ひきこもり経験者の親に望む支援

図2-25から、ひきこもり経験者の親に望む支援は、支援機関の情報や学習会・講座の講師、親の集まり・茶話会を多くの人が望んでいることが分かります。親が家族に行うピアサポートとしては、この3つに重点を置くことが効果的であると考えられます。

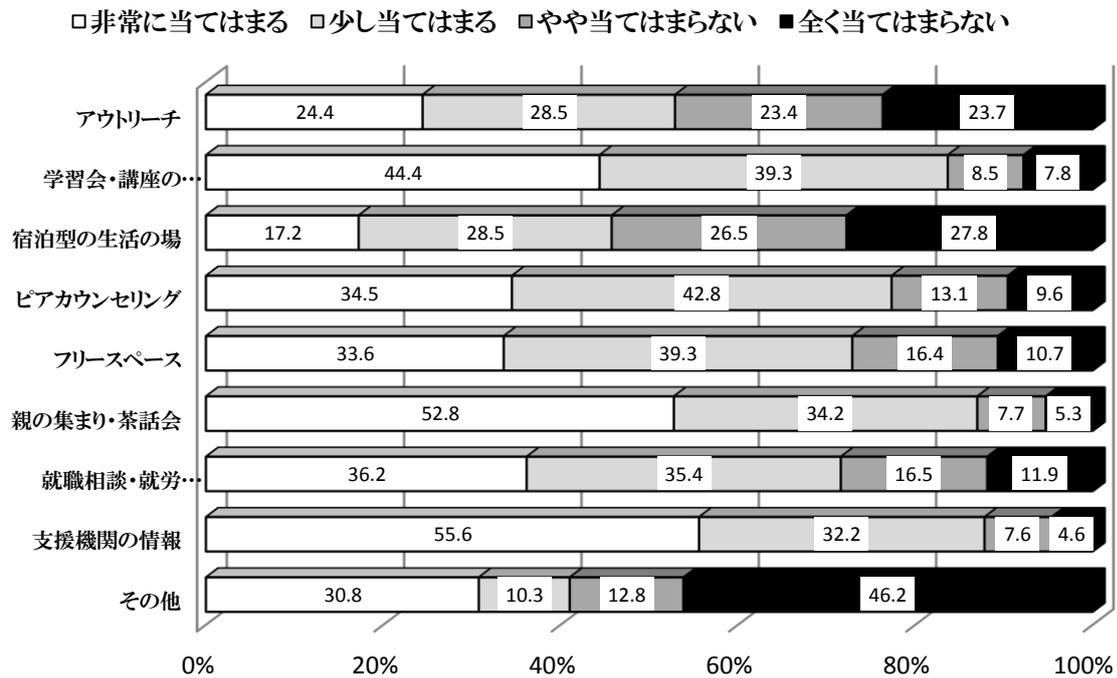


図2-25 ひきこもり経験者の親に望む支援

(19) ひきこもりピアサポーターに連携して欲しい支援機関

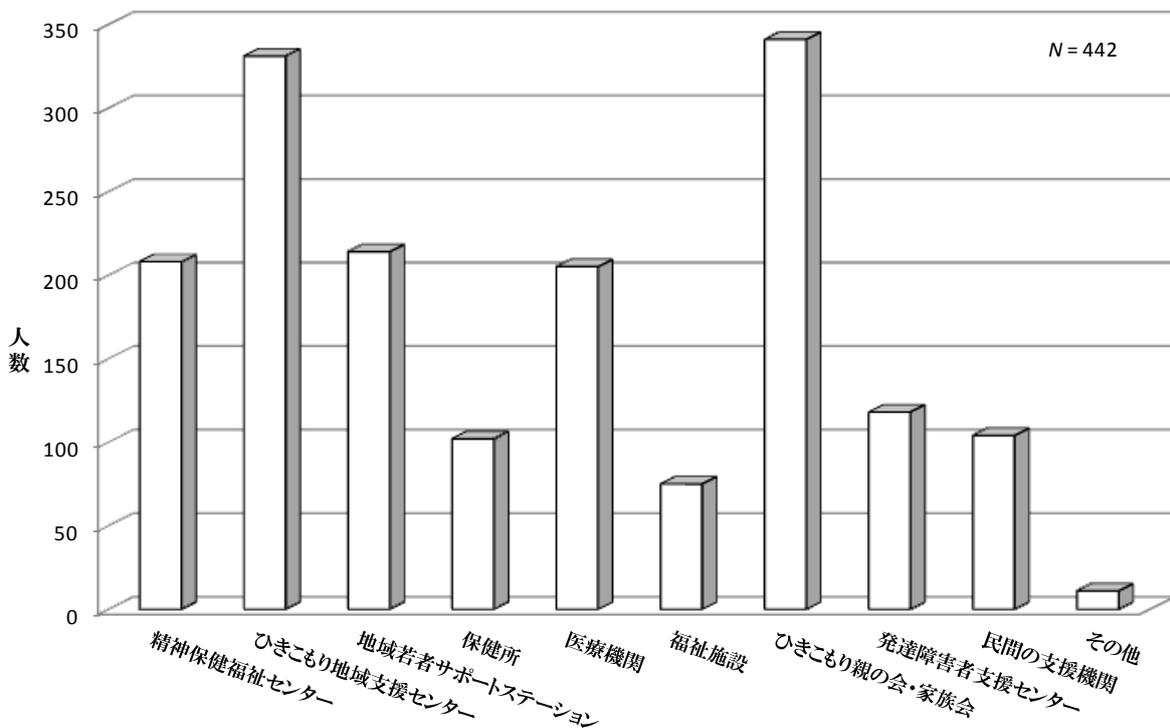


図2-26 ピアサポーターに望む連携先

図2-26から、家族回答者は、ひきこもり地域支援センターとひきこもり親の会・家族会との連携を望む人が多いことが分かります。まずはこの2つの機関との連携を強化していく必要があります。

(20) ひきこもりピアサポーターのアウトリーチに望む頻度

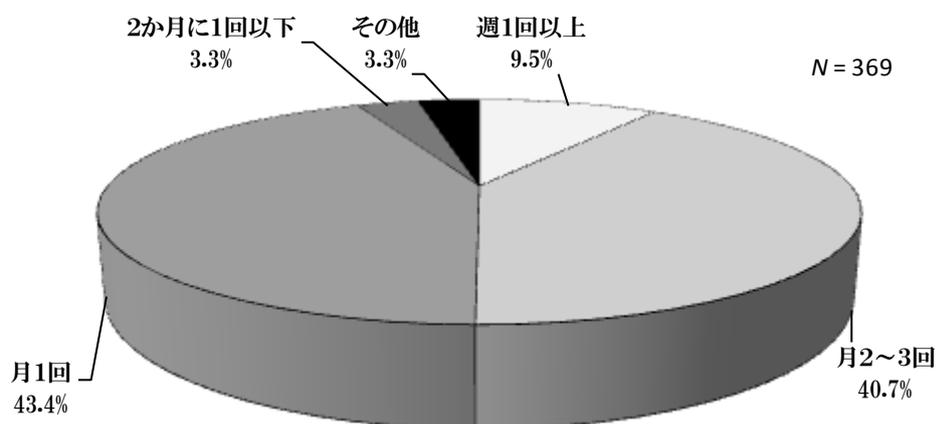


図2-27 アウトリーチを望む頻度

アウトリーチの頻度は、月1回を望む人が43.4%、月2~3回を望む人が40.7%でした。本人回答者よりも望む頻度が少ないところに特徴があると言えます。

(21) ひきこもりピアサポーターのアウトリーチに望む時間

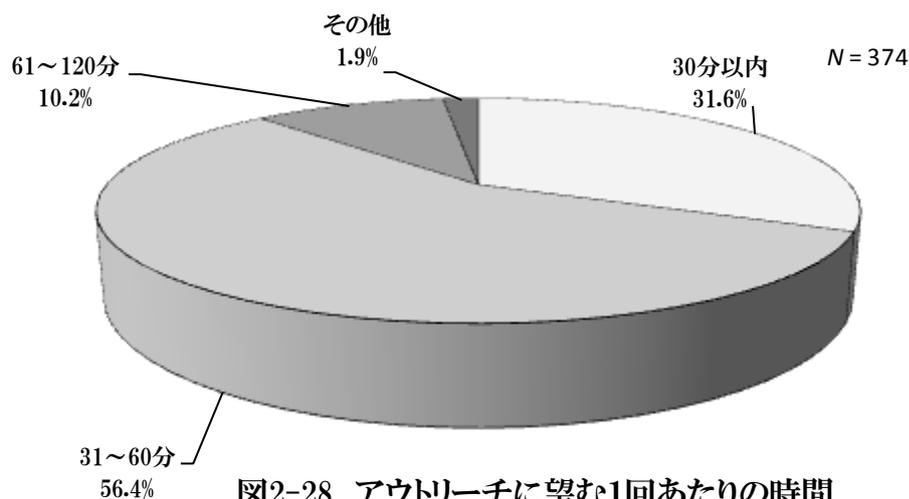


図2-28 アウトリーチに望む1回あたりの時間

図2-28から、アウトリーチの1回あたりの時間は、31~60分を望む人が56.4%、30分以内を望む人が31.6%でした。この結果は本人調査とほぼ一致して傾向でした。

(22) ひきこもりピアサポーターへの謝金

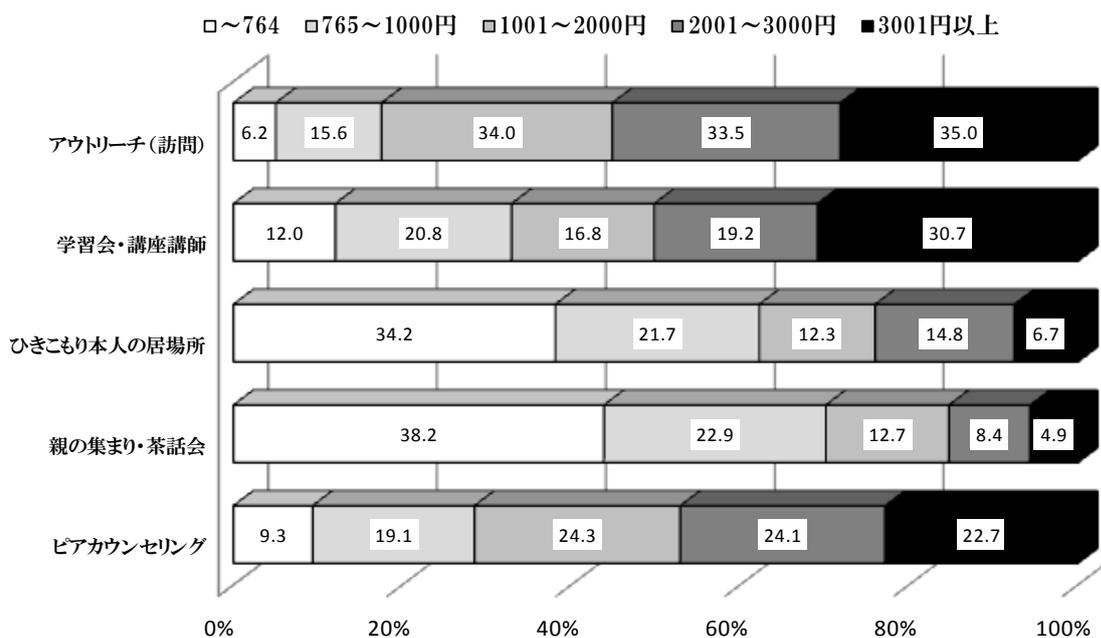


図2-29 ピアサポーターに対する1回あたりの謝金

図2-29から、ピアサポーターに対する謝金は、アウトリーチは時給1001～3001円以上、学習会・講座講師は時給3001円以上、ひきこもり本人の居場所と親の集まり・茶話会は、最低賃金の全国平均である時給765円未満、ピアカウンセリングは時給1001～3001円以上をそれぞれ出せる家族回答者が多いことが分かります。より高度な技術が求められる支援に関しては、それに相当する謝金を支払う意思が反映されていると言えます。

(23) アウトリーチをするひきこもりピアサポーターへの交通費

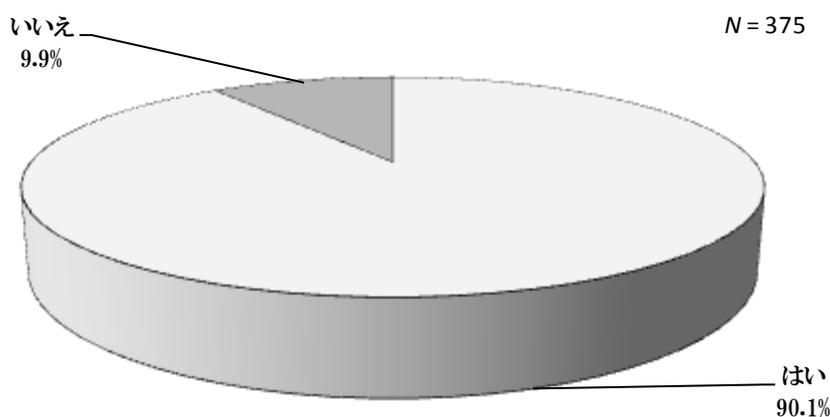


図2-30 ピアサポーターへの交通費(1)

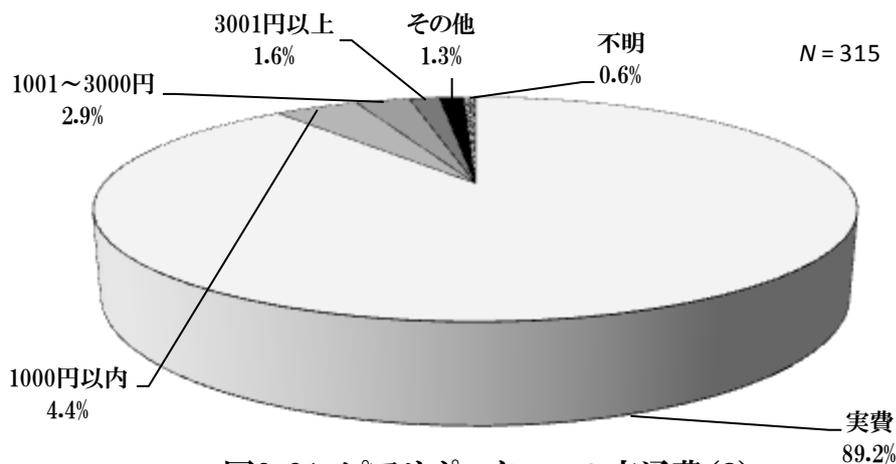


図2-31 ピアサポーターへの交通費(2)

図2-30から、ピアサポーターの交通費は出せると回答した家族回答者が多いことが分かります。

また、ピアサポーターの交通費を出せると回答した家族回答者は、実費を出せると回答した人が89.2%でした。ほとんどの家族が実費を払えると答えていることから、アウトリーチ、学習会・講座講師、ピアカウンセリングを担当できるようになると、一般のアルバイト以上の収入を得られる見込みがあります。

(24) アウトリーチをする期間の上限—本人に会っている場合—

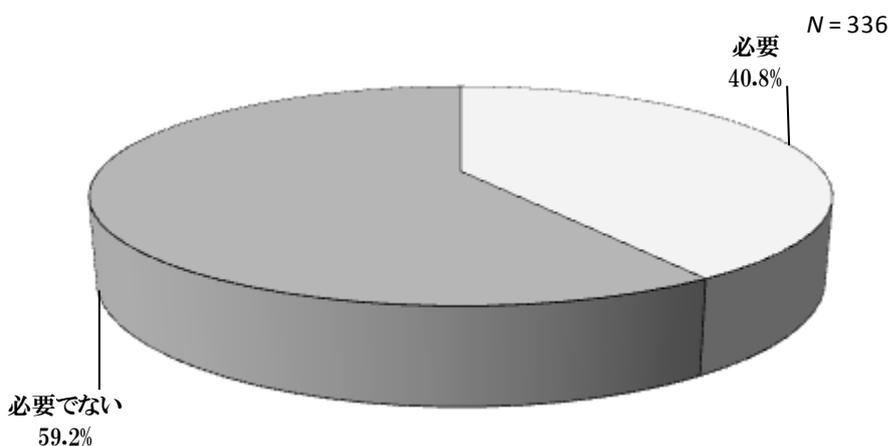


図2-32 アウトリーチ期間上限—本人に会っている場合(1)

図2-32から、本人と会っている場合には、アウトリーチの期間に上限は必要でないと回答した家族回答者が多いことが分かります。

また、上限が必要と回答した場合、上限を1年と回答した家族回答者が51.3%、2年が18.5%でした。家族調査回答者は、本人調査回答者よりも、上限の必要性、比較的短い期間で上限を設ける必要があると考えている可能性が示されました。

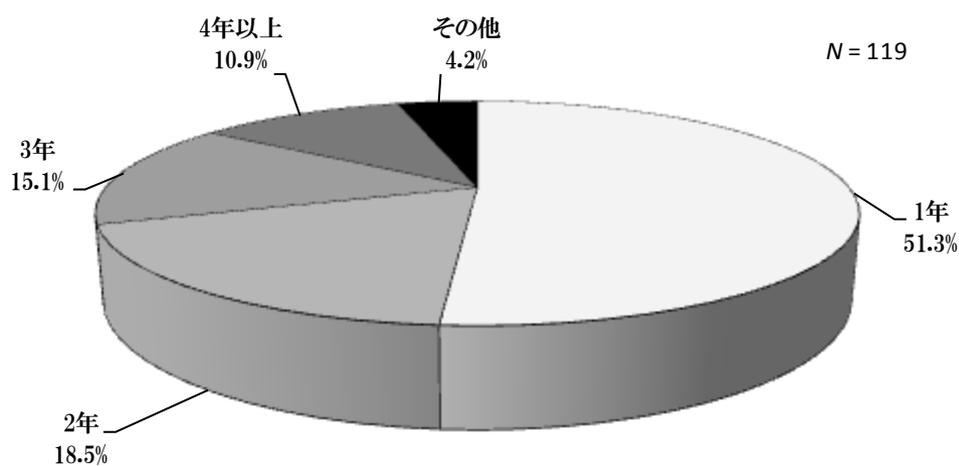


図2-33 アウトリーチ期間上限—本人に会えている場合(2)

(25) アウトリーチをする期間の上限—本人に会えていない場合—

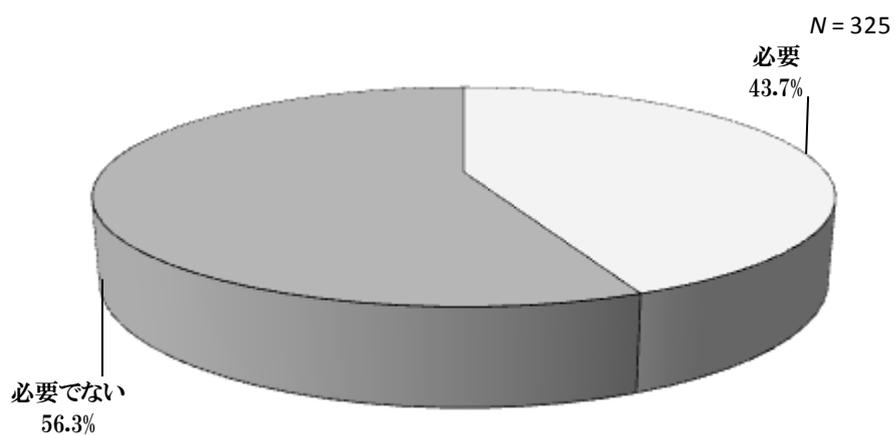


図2-34 アウトリーチ期間上限—本人に会えていない場合(1)

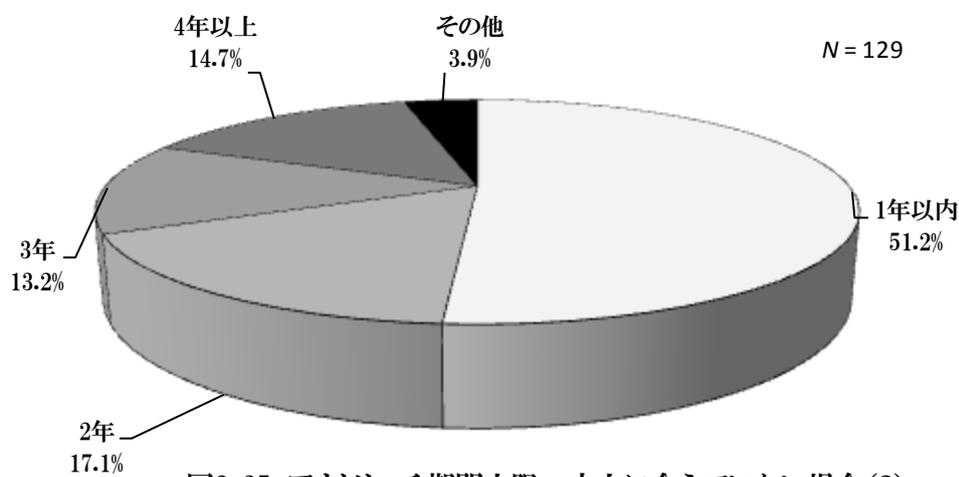


図2-35 アウトリーチ期間上限—本人に会えていない場合(2)

図2-34から、本人と会えていない場合にも、アウトリーチの期間に上限は必要でないと回答した家族回答者が多いことが分かります。

また、上限が必要と回答した場合、上限を1年以内と回答した家族回答者が51.2%、2年が17.1%でした。上限に必要性に関しては、本人調査回答者の倍近くの人が必要と感じていることが示されました。訪問支援には多くのマンパワー、費用が必要になるため、そうした点に配慮した回答になったものと考えられます。

#### (26) ひきこもりサポーターになりたいか

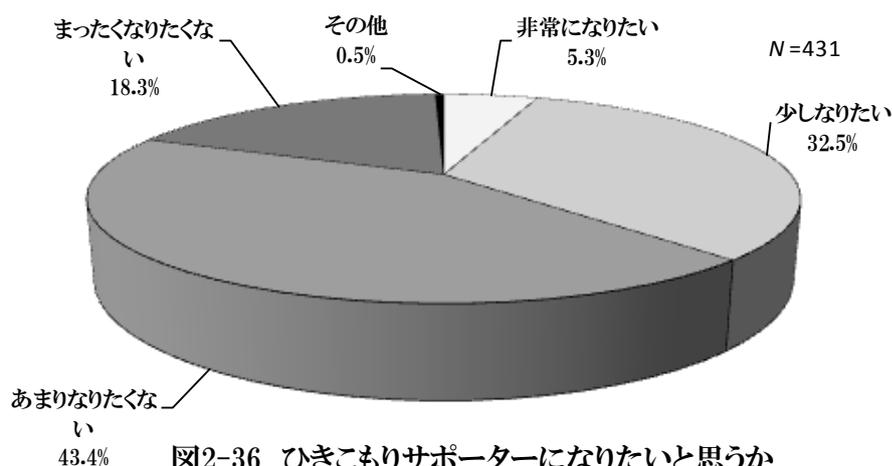


図2-36 ひきこもりサポーターになりたいと思うか

ひきこもりサポーターには、非常にになりたいと回答した家族回答者が5.3%、少しになりたいと回答した家族回答者が32.5%、あまりなりたくないと回答した家族回答者が43.4%、まったくなりたくないと回答した家族回答者が18.3%でした。この傾向は、本人調査回答者とほぼ一致していました。

#### (27) ご本人との接し方

ご本人との接し方に関する35項目のうち、非常に当てはまる、たまに当てはまると回答した家族回答者が90%以上だった項目は、「楽しい話をするときは、その場に合った明るい声の調子で話す」、「楽しい話をするときは、その場に合った明るい表情で話す」、「話しかけられたときには子どもを見る」、「話しかけられたとき、子どもの方に体を向ける」、「子どもが望ましい行動をしたときは、すぐに認めて褒める」でした。

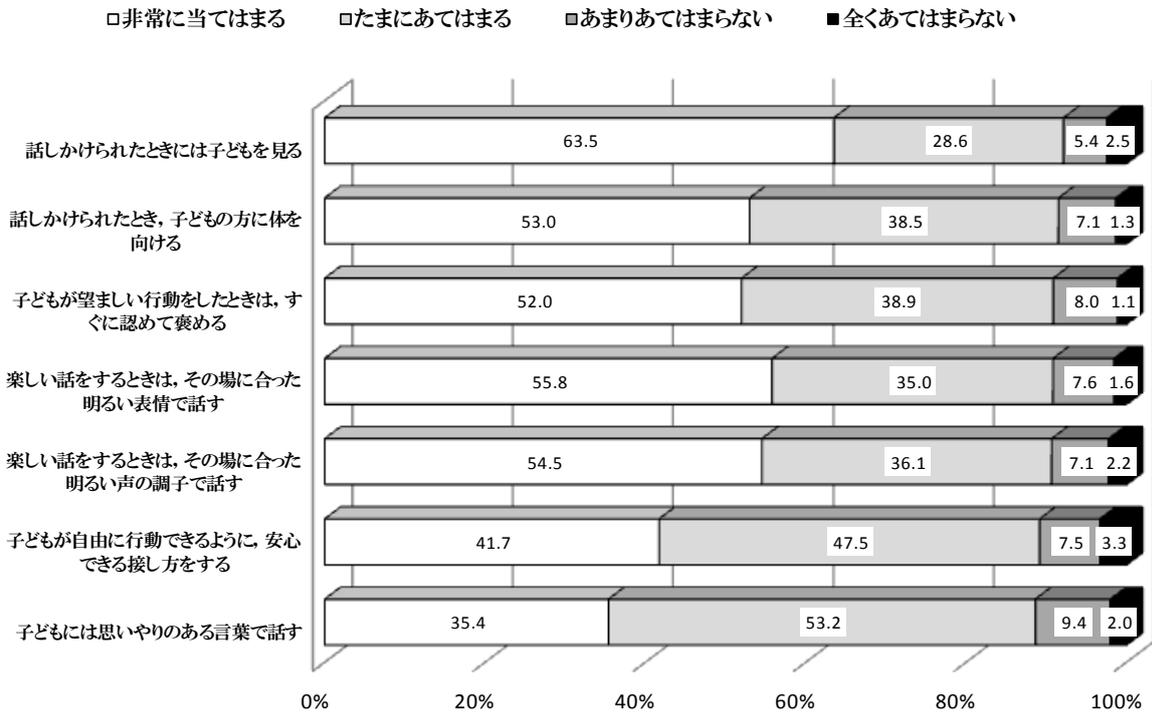


図2-37 ご本人との接し方(1)

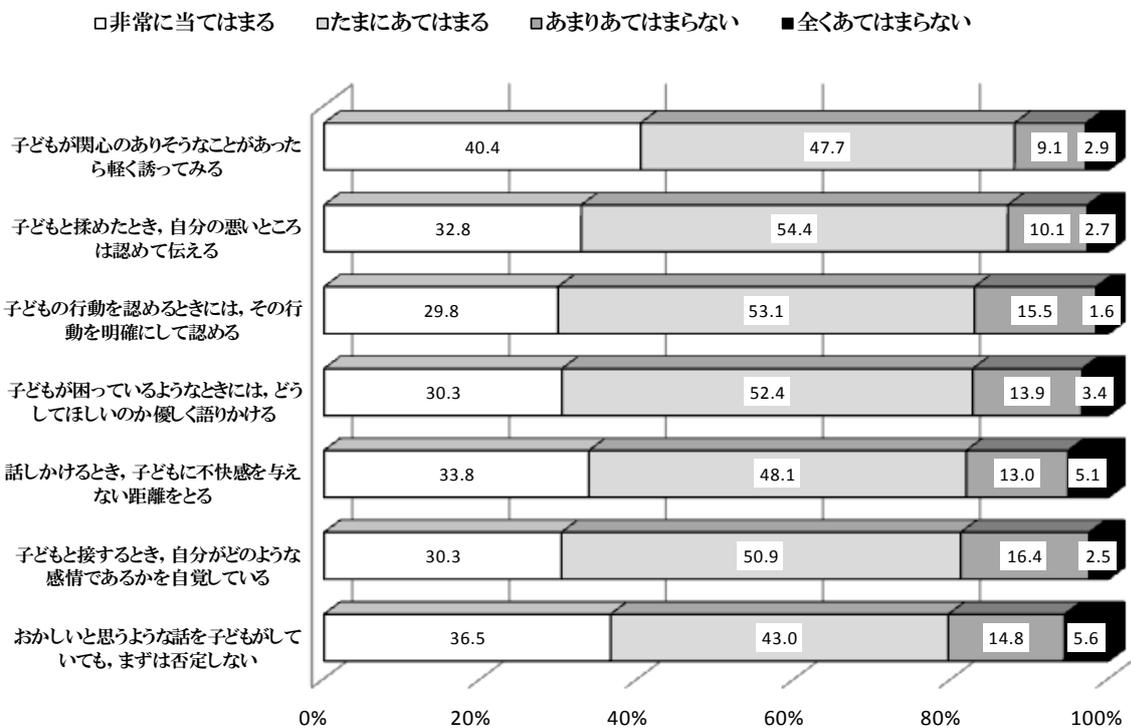


図2-38 ご本人との接し方(2)

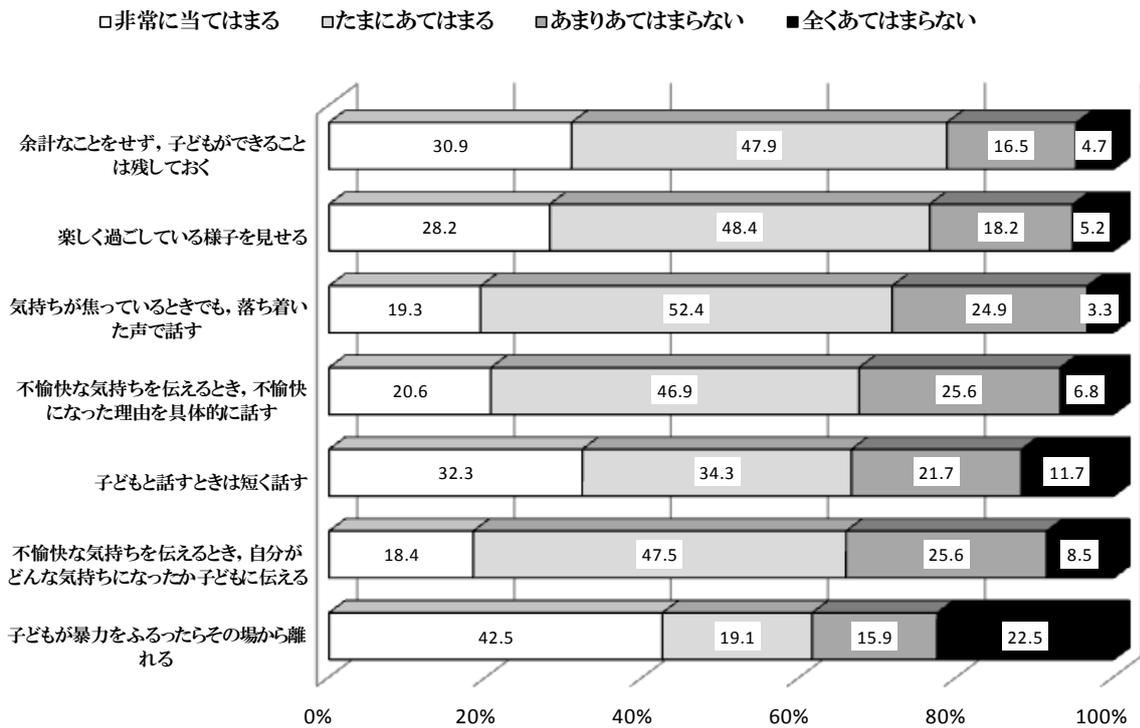


図2-39 ご本人との接し方(3)

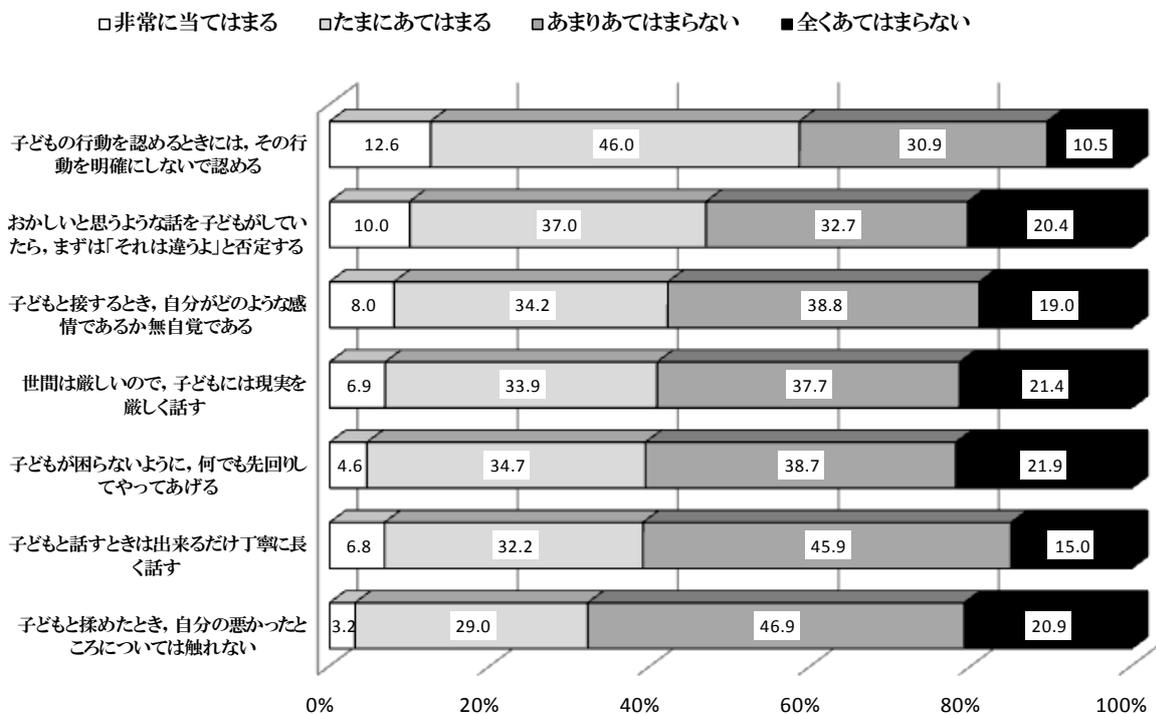


図2-40 ご本人との接し方(4)

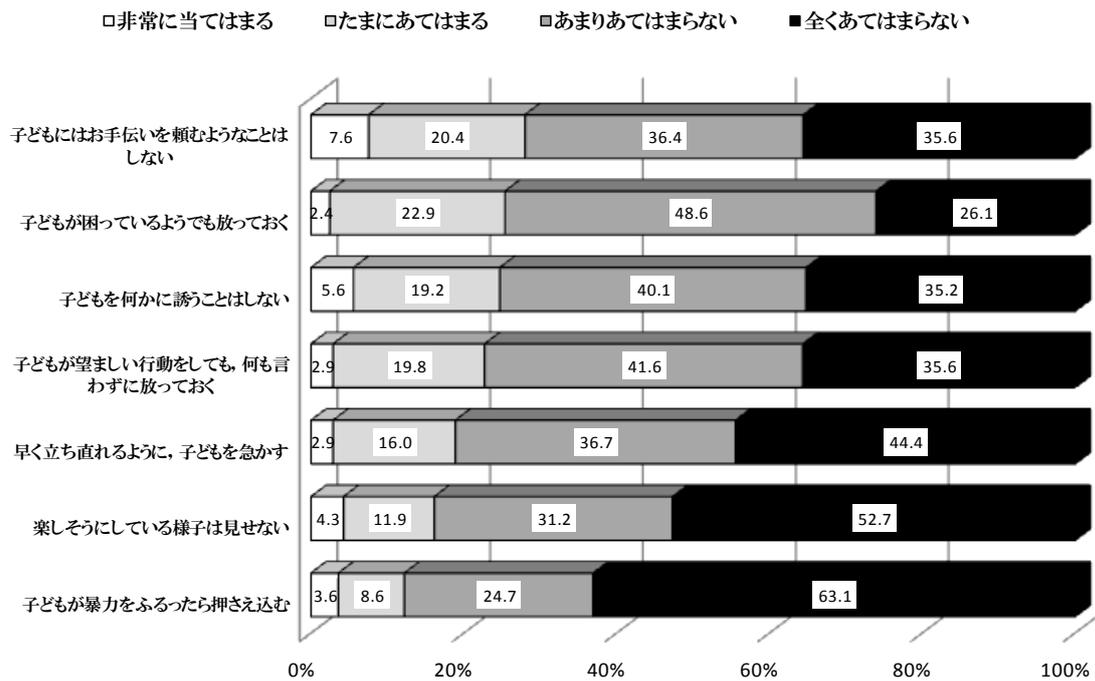


図2-41 ご本人との接し方(5)

(28) ひきこもりへの考え方

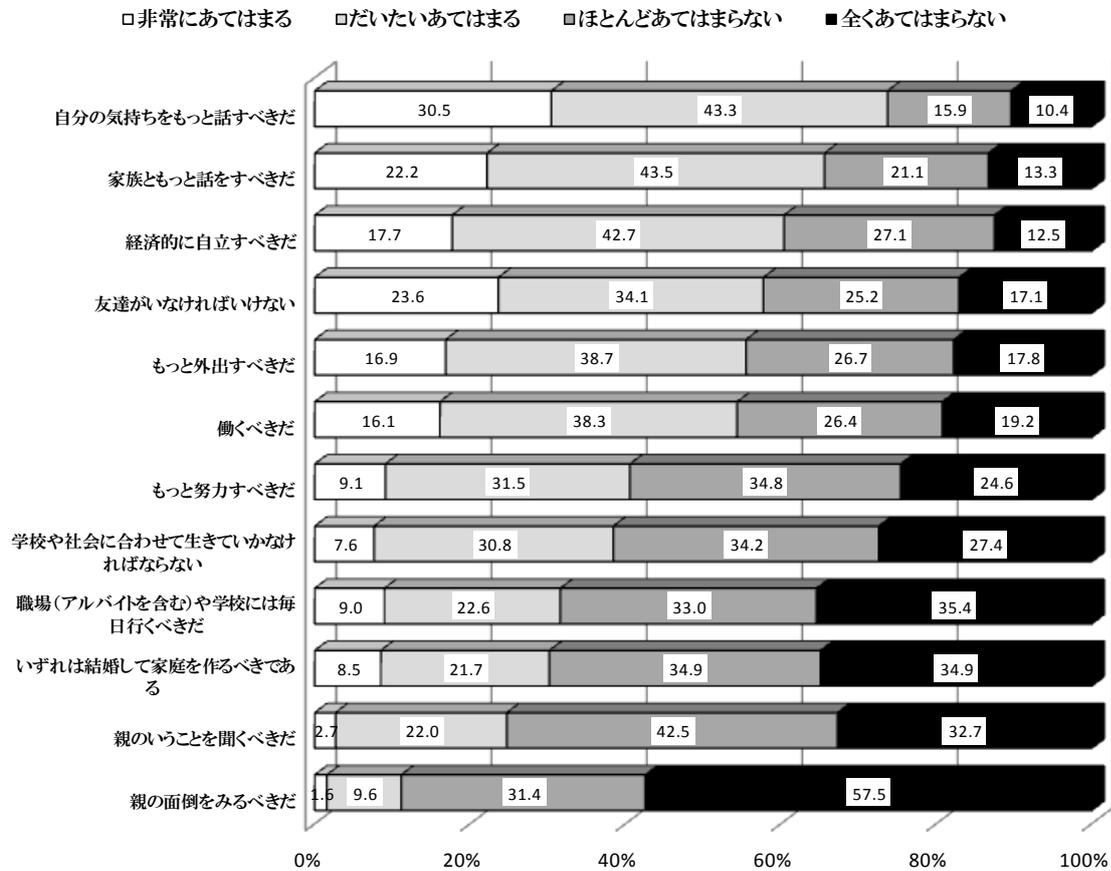


図2-42 ひきこもりへの考え方

図2-42から、「自分の気持ちをもっと話すべきだ」、「家族ともっと話をすべきだ」の項目について、非常にあてはまる、だいたいあてはまると回答した家族回答者が多いということが分かります。就労や自立よりも、家族とのコミュニケーションを求めている実態が伺えます。



## 第三部 支部調査

## 1. 目的

本調査においては、ひきこもりピアサポーターに求める支援について調査を実施しました。

## 2. 調査方法

### (1) 調査対象者

NPO 法人全国引きこもり親の会（以下、「親の会」とする）の支部に郵送による調査を実施しました。支部のうち、調査協力の得られた 26 支部の回答が分析に用いられました。

### (2) 調査内容（注：調査内容の詳細は、巻末の資料を参照してください）

①ひきこもりピアサポーター養成研修の現状

②ひきこもりピアサポーター活動の現状

③ひきこもりピアサポーターの活動における成功事例と失敗事例

④ひきこもりピアサポーター養成研修に求められること

⑤ひきこもりピアサポーターの活動に求められること

### (3) 調査手続き

調査の趣旨に関する文書を読んだ上で、調査協力に同意された方のみが調査用紙に回答をしました。調査の趣旨に関する文書は、調査用紙から切り離して、持ち帰ってもらいました。

ほとんどの回答者には、月例会において調査用紙を配布し、その場で回収をしました。しかし、各支部の運営上の問題から、後日記入の上で持参したものを回収した回答者もいました。

### 3. 結果

#### (1) ひきこもりピアサポーター養成研修実施

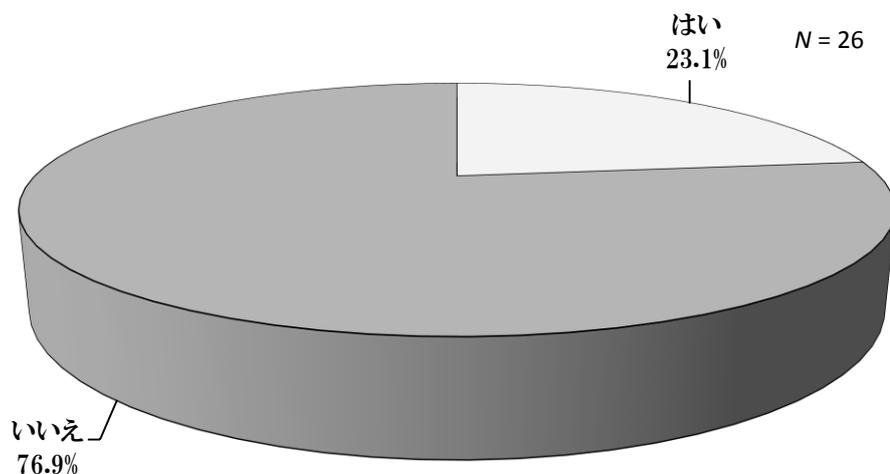


図3-1 ピアサポーター養成研修実施の有無

ひきこもり養成研修を実施している支部は6支部（23.1%）でした。

#### (2) ピアサポーター養成研修の参加者

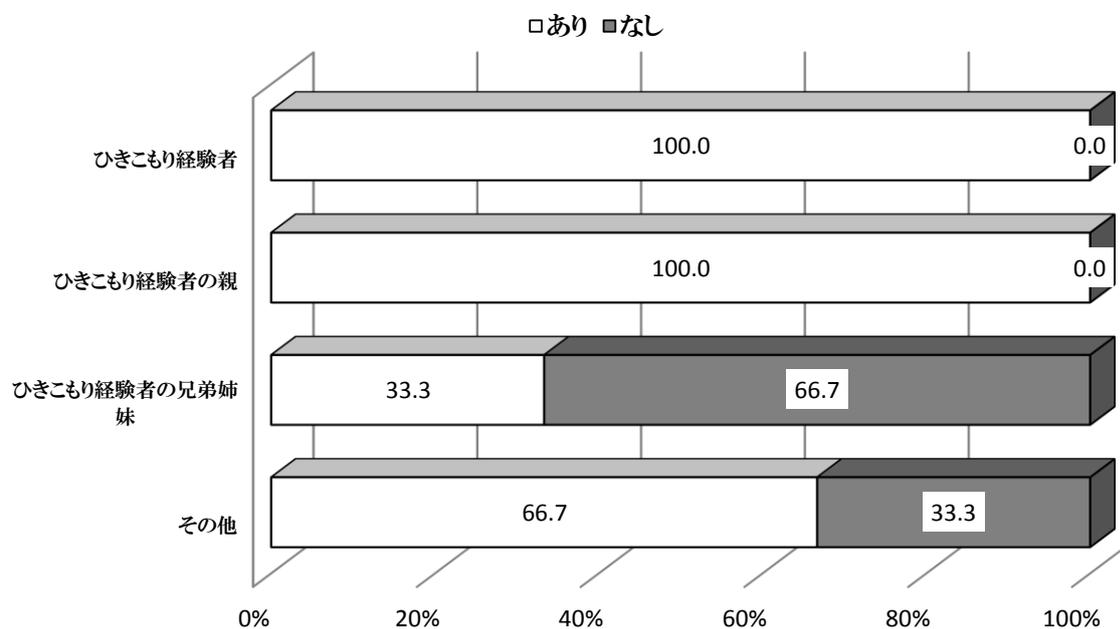


図3-2 ピアサポーター養成研修の参加者

ピアサポーター養成研修の参加者は、ひきこもり経験者とその親が多いことが分かります。その他には、支援者や民生委員、ボランティア、学生などが回答にありました。

#### (3) ピアサポーター養成研修の参加費

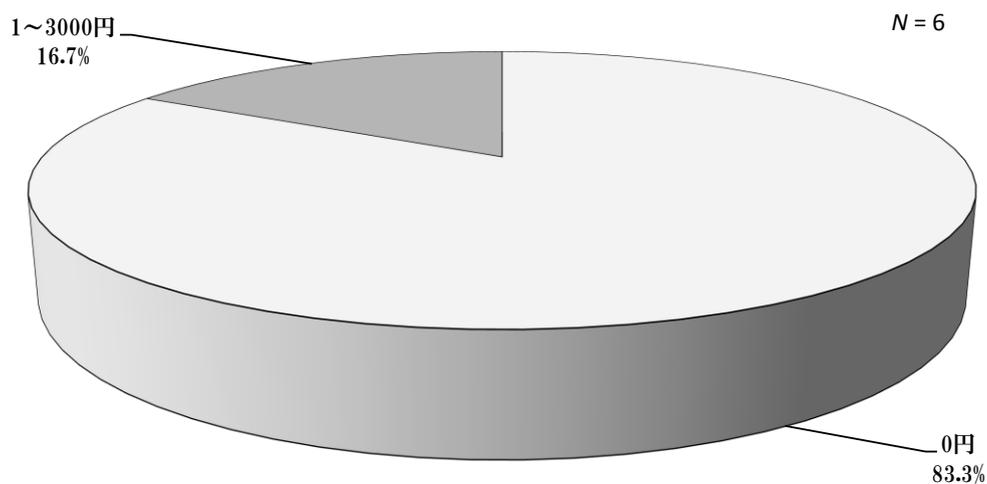


図3-3 養成研修参加費

ピアサポーター養成研修の参加費は、1支部を除いて0円であると回答しました。

(4) ピアサポーター養成研修の研修時間

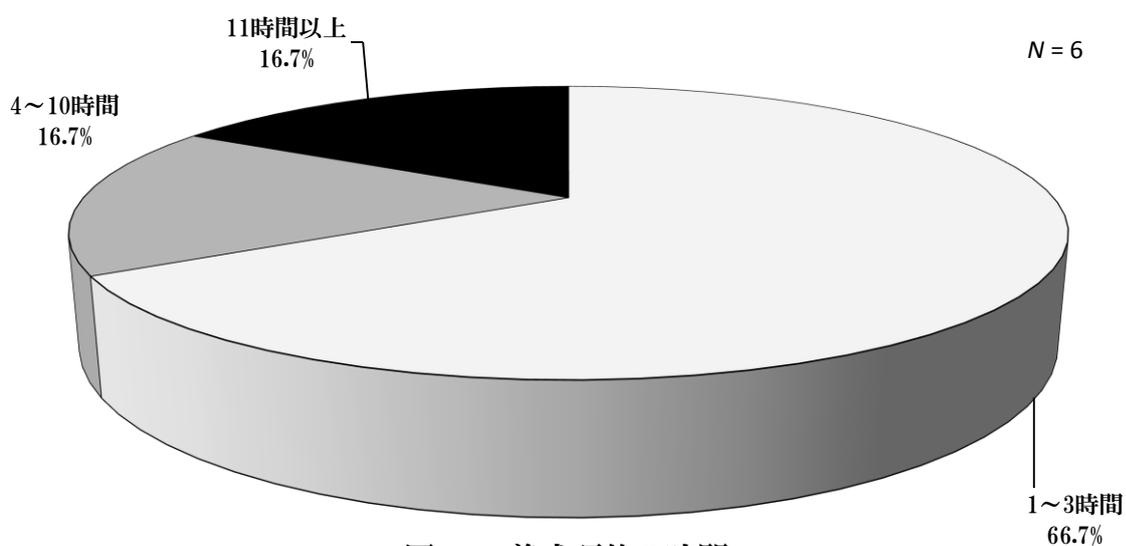


図3-4 養成研修の時間

ピアサポーター養成研修の研修時間は、1～3時間であると回答した支部が66.7%でした。比較的短い時間の研修でピアサポーターの養成を行っていると言えます。こうした場合、どのような人に研修を受けてもらうかの基準を設ける必要があります。

(5) ピアサポーターの活動状況

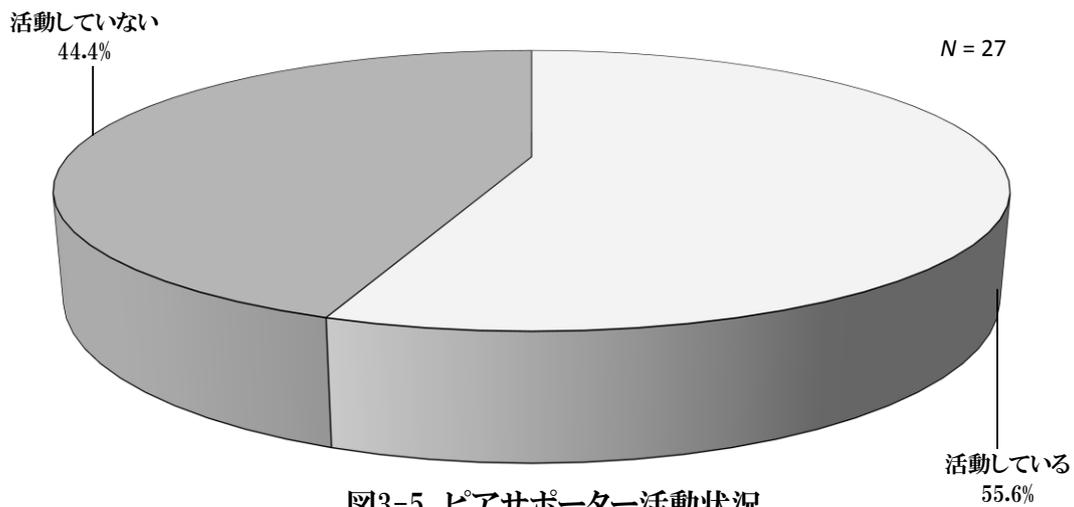


図3-5 ピアサポーター活動状況

ピアサポーターが既に活動していると回答した支部が、55.6%でした。半数以上の支部でピアサポーターが現在活動していることが分かります。

(6) ピアサポーターとして活動している人

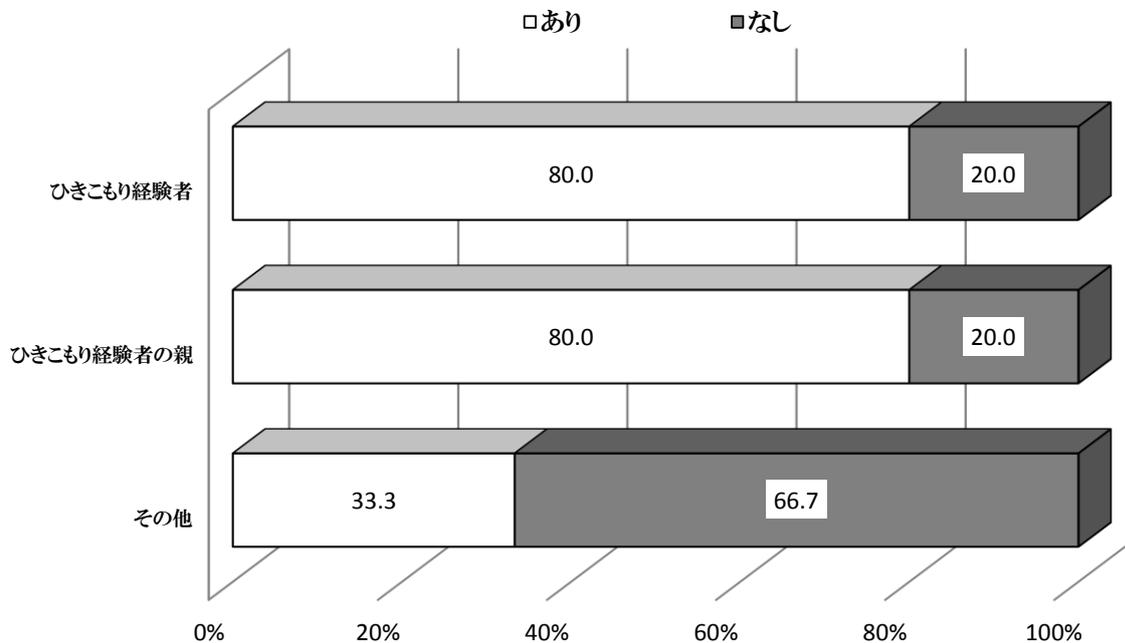


図3-6 ピアサポーター活動している人

図3-6から、ピアサポーターとして活動している人は、ひきこもり経験者とその親が活動していると答えた支部が多いことが分かります。

(7) 現在のピアサポーター活動人数

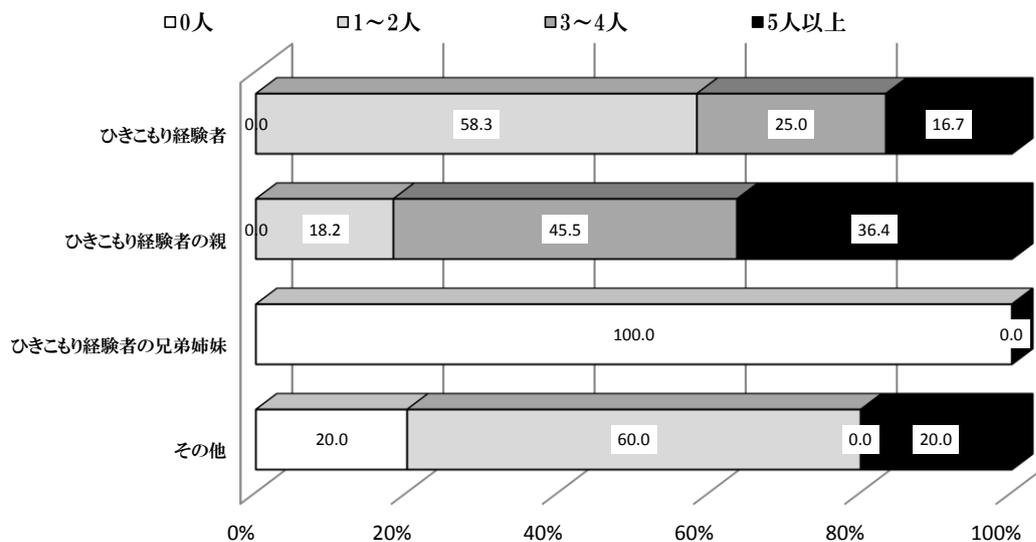


図3-7 現在のピアサポーター活動人数

図3-7から、現在ピアサポーターとして活動している人数は、ひきこもり経験者は1～2人、ひきこもり経験者の親は3～4人、ひきこもり経験者の兄弟姉妹は0人、その他は1～2人と回答した支部がそれぞれ最も多いことが分かります。ひきこもり経験者の親がピアサポーターの中心となっている現状が伺えます。

(8) これまでのピアサポーター活動人数

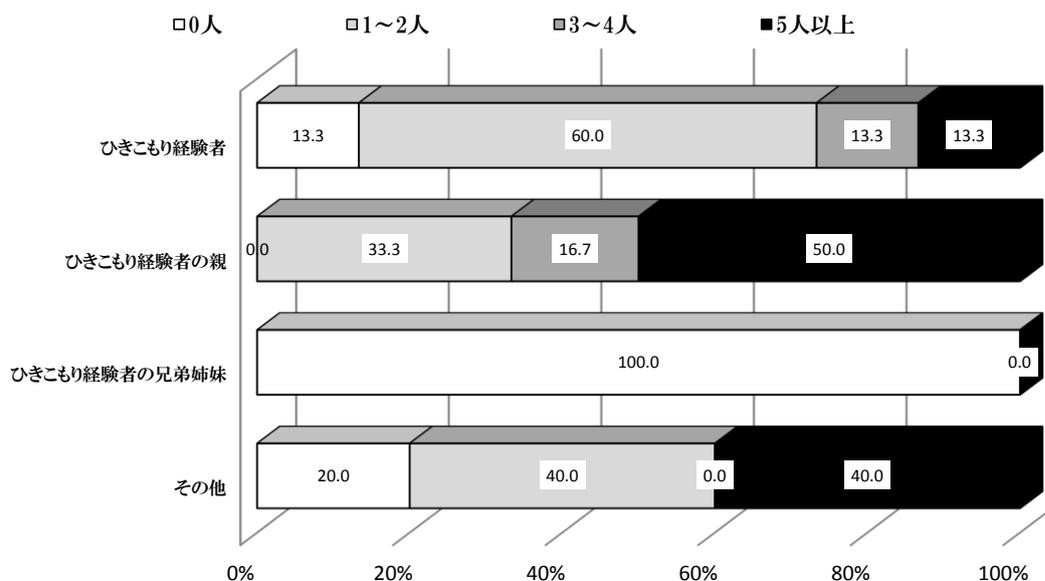


図3-8 これまでのピアサポーター活動人数

図3-8から、これまでピアサポーターとして活動してきた人数は、ひきこもり経験者は1～2人、ひきこもり経験者の親は5人以上、ひきこもり経験者の兄弟姉妹は0人、その他は1～2人および5人以上と回答した支部がそれぞれ最も多いことが分かります。

(9) ピアサポーター活動の交通費

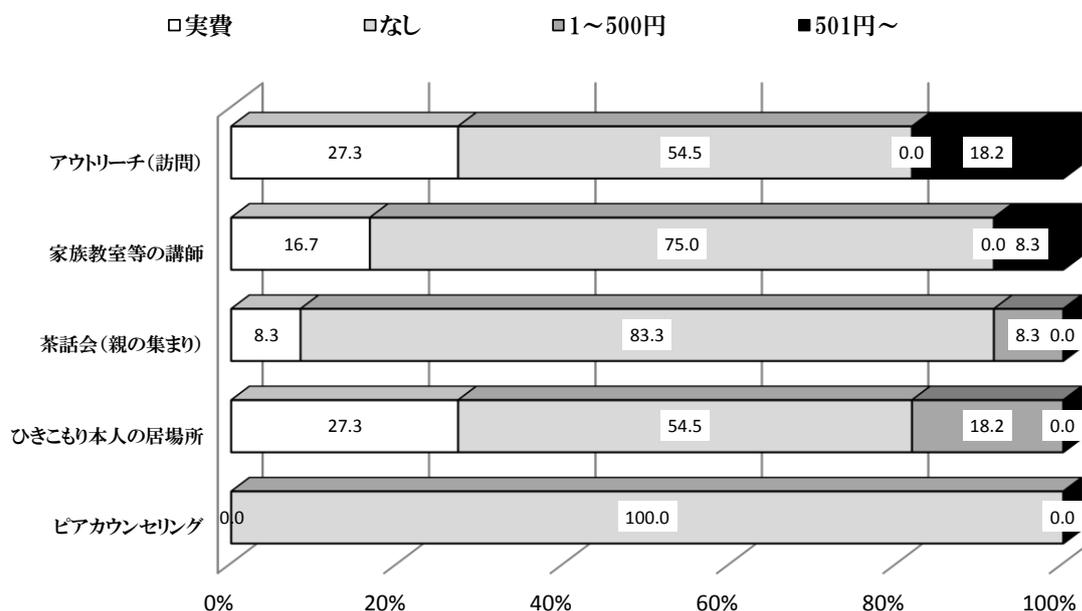


図3-9 ピアサポーター活動の交通費

図3-9から、ピアサポーター活動の交通費の支給は、アウトリーチ、家族教室等の講師、茶話会(親の集まり)、ひきこもり本人の居場所、ピアカウンセリングのいずれについても、なしと回答した支部がそれぞれ最も多いことが分かります。ピアサポーターの多くは、ボランティアで活動している現状が示されています。

(10) ピアサポーター活動の謝金

図3-10から、ピアサポーター活動の謝金は、アウトリーチ、家族教室等の講師、茶話会(親の集まり)、ひきこもり本人の居場所、ピアカウンセリングのいずれについても、なしと回答した支部がそれぞれ最も多いことが分かります。しかし、アウトリーチ(訪問)、家族教室等の講師、ピアカウンセリングと言った個別の具体的支援を行う活動に関しては、謝金を支払うケースが多いと言えます。

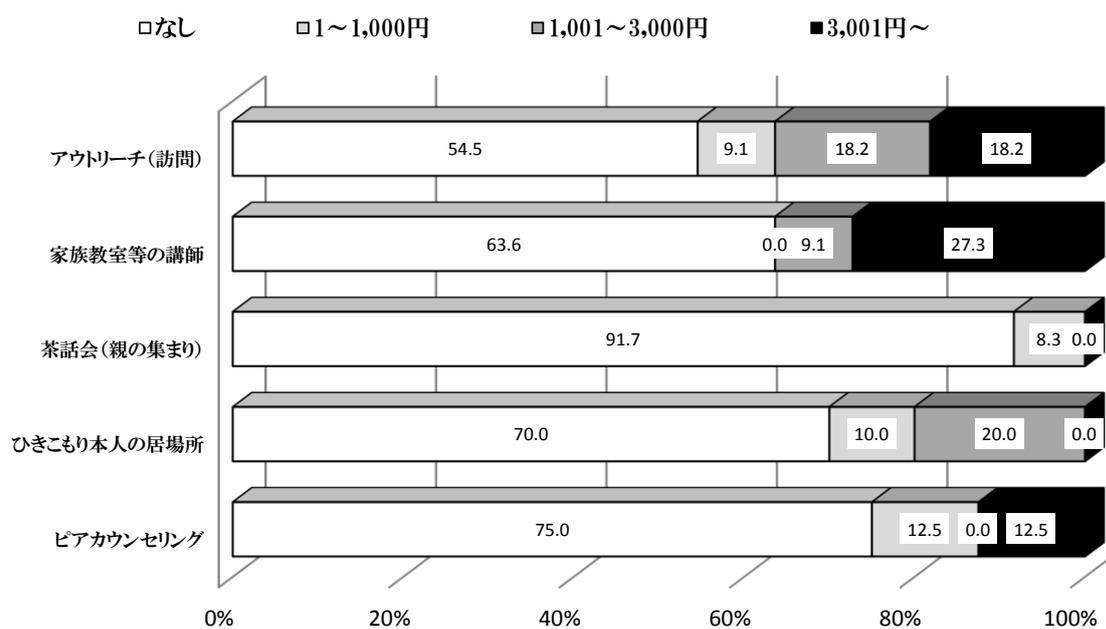


図3-10 ピアサポーターの謝金

(11) ピアサポーター活動の活用頻度

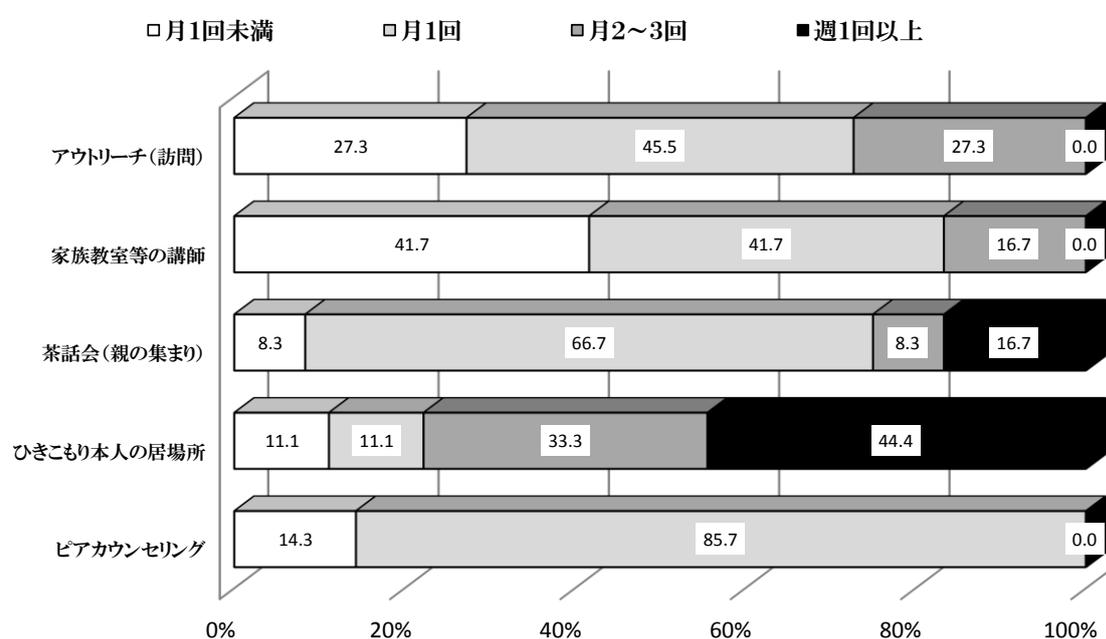


図3-11 ピアサポーターの活用頻度

図3-11から、ピアサポーター活動の活用頻度は、アウトリーチ、家族教室等の講師、茶話会（親の集まり）、ピアカウンセリングについては月1回、ひきこもり本人の居場所については週1回以上と回答した支部がそれぞれ最も多いことが分かります。

(12) ピアサポーター活動の活用人数

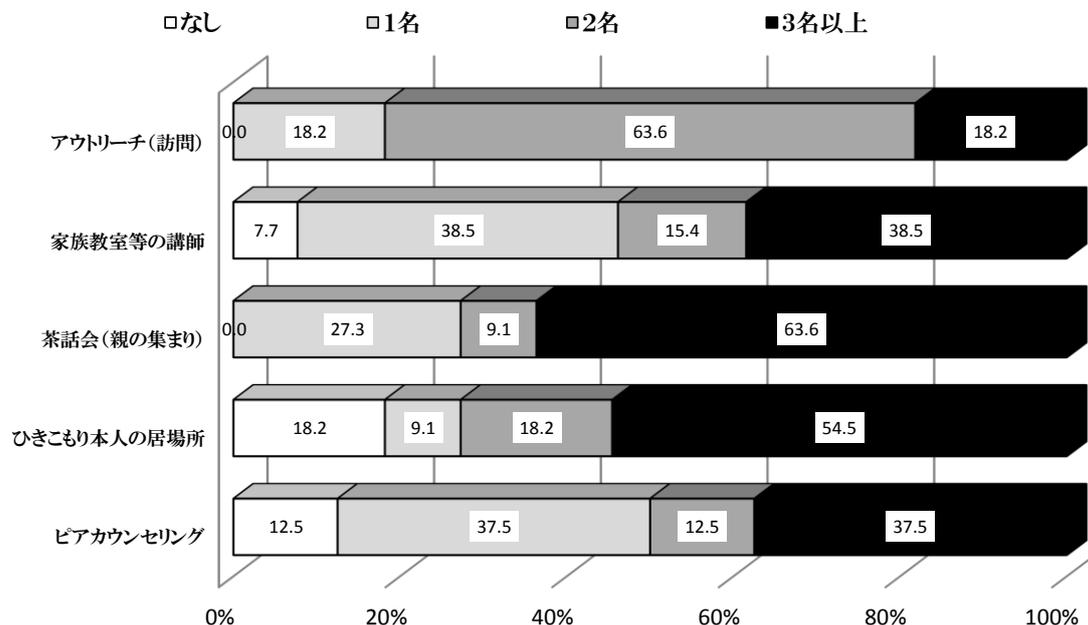


図3-12 ピアサポーターの活用人数

図3-12から、ピアサポーター活動の活用頻度は、茶話会（親の集まり）とひきこもり本人の居場所については3名以上、家族教室等の講師とピアカウンセリングについては1名および3名以上、アウトリーチについては2名以上と回答した支部がそれぞれ最も多いことが分かります。

(13) ピアサポーター養成研修の望ましい形態

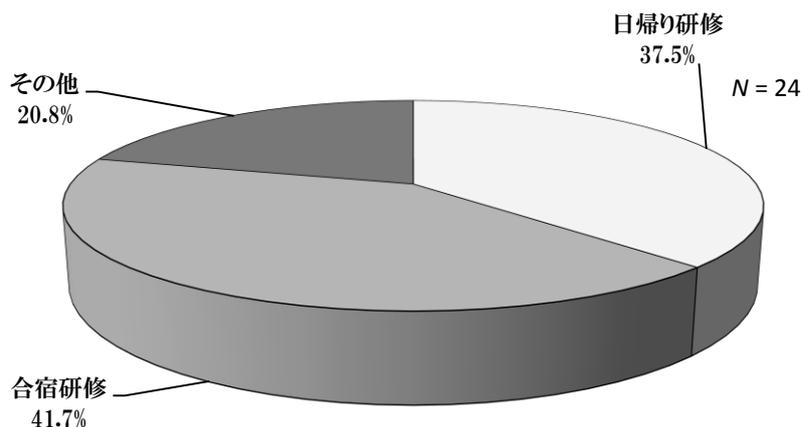


図3-13 養成研修の望ましい形態

ピアサポーター養成研修の望ましい形態については、日帰り研修が37.5%、合宿研修が41.7%でした。複数日に渡る集中的研修を望ましいと考えている支部が多いことがわかります。

(14) ピアサポーター養成研修の望ましい研修費用

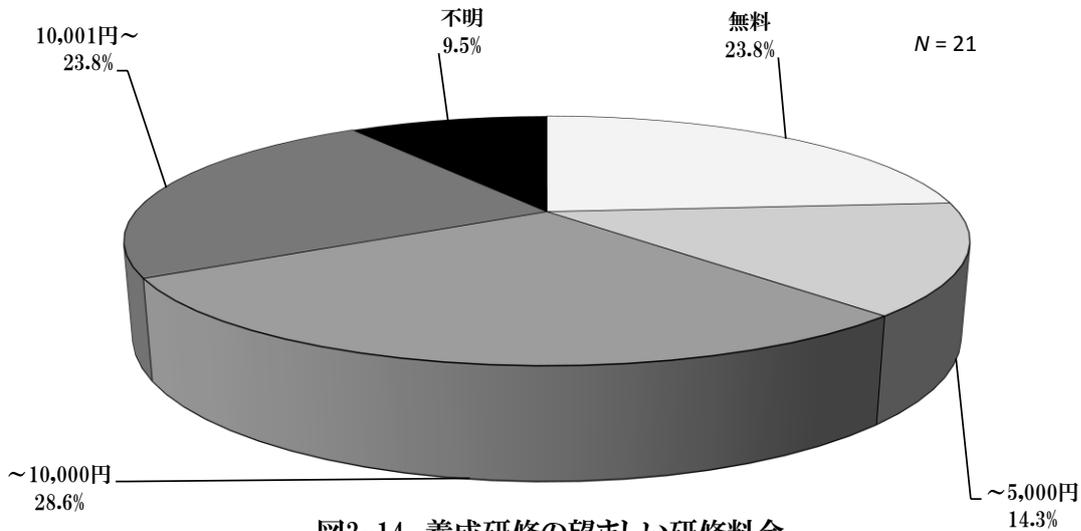


図3-14 養成研修の望ましい研修料金

ピアサポーター養成研修の望ましい研修料金は、無料が23.8%、5,000円以内が14.3%、5,001～10,000円が28.6%、10,001円以上が23.8%でした。無料とする回答は比較的少なく、有料が望ましいと考えている支部が大勢を占めるという結果になりました。

(15) ピアサポーターに求められる役割

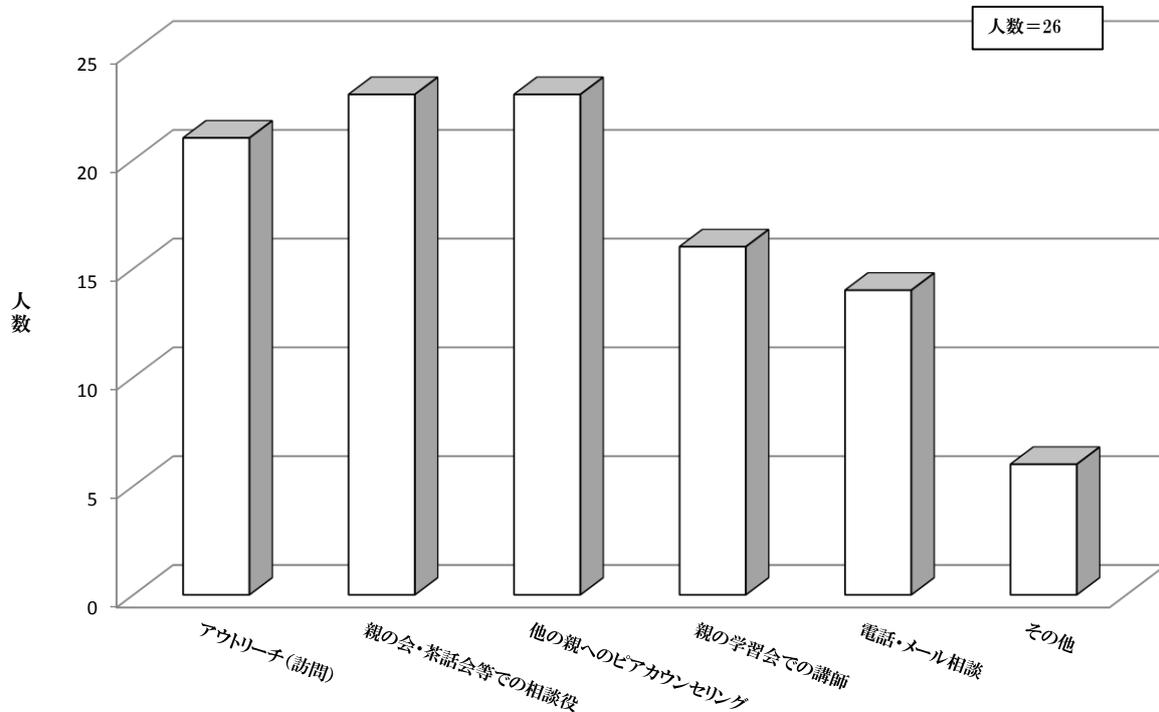


図3-15 ピアサポーターに求められる役割(家族)

支部がひきこもり経験者の家族であるピアサポーターに求めるものは、親の会・茶話会等での相談役、親へのピアカウンセリング、アウトリーチに多いことが分かりました。ひきこもり経験者の家族であるピアサポーターがまず身に着けるべき技術が親の会・茶話会等での相談役、親へのピアカウンセリング、アウトリーチであると言えます。

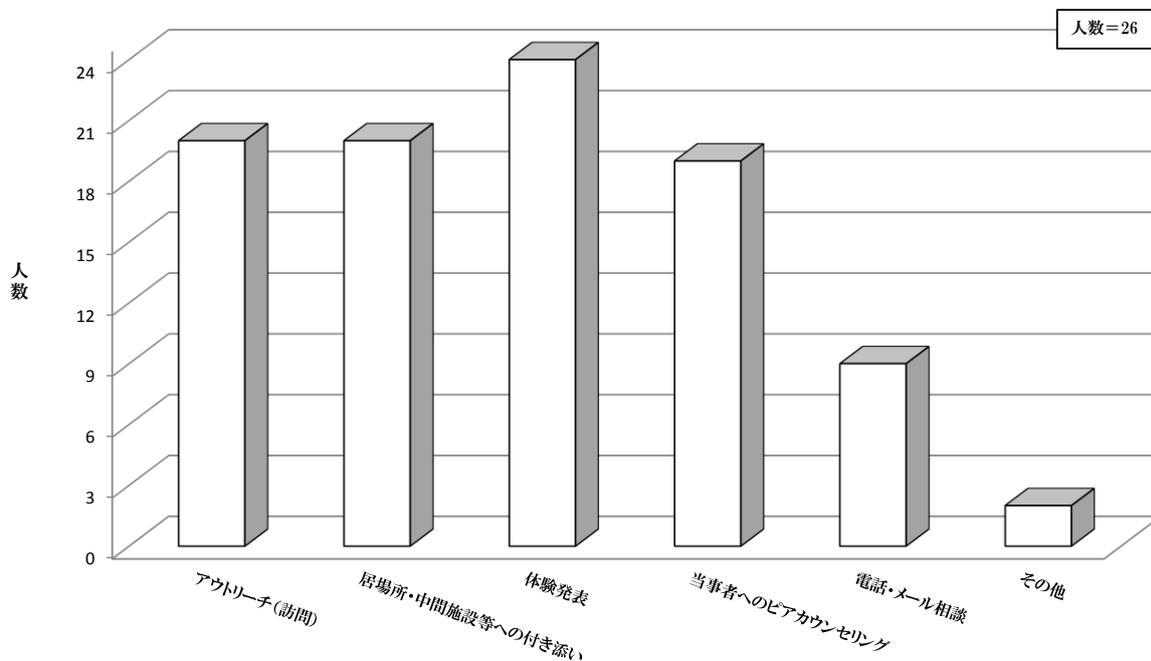


図3-16 ピアサポーターに求められる役割(経験者)

支部がひきこもり経験者であるピアサポーターに求めるものは、体験発表、アウトリーチ、居場所・中間施設等への付き添い、当事者へのピアカウンセリングに多いことが分かりました。ひきこもり経験者であるピアサポーターは、ひきこもり経験者の家族であるピアサポーターがまず身に着けるべきアウトリーチに加えて、自身の体験を語る技術、居場所・中間施設等への付き添い、当事者へのピアカウンセリングを身に着けることが有効と考えられます。

#### (16) ピアサポーターが活動可能なもの

支部がひきこもり経験者の家族であるピアサポーターに活動可能であるとするものは、親の会・茶話会等での相談役、親の学習会での講師に多いことが分かりました。ひきこもり経験者の家族であるピアサポーターに望む支援と一致しているものとして、親の会・茶話会等での相談役が挙げられます。

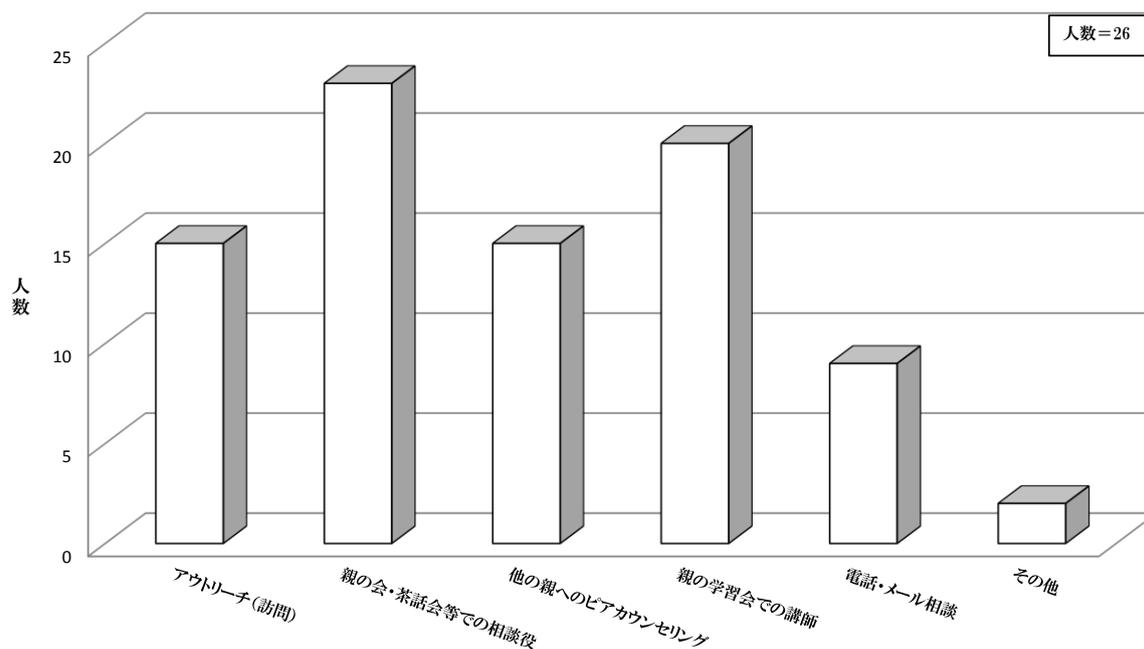


図3-17 ピアサポーター活動可能なもの(家族)

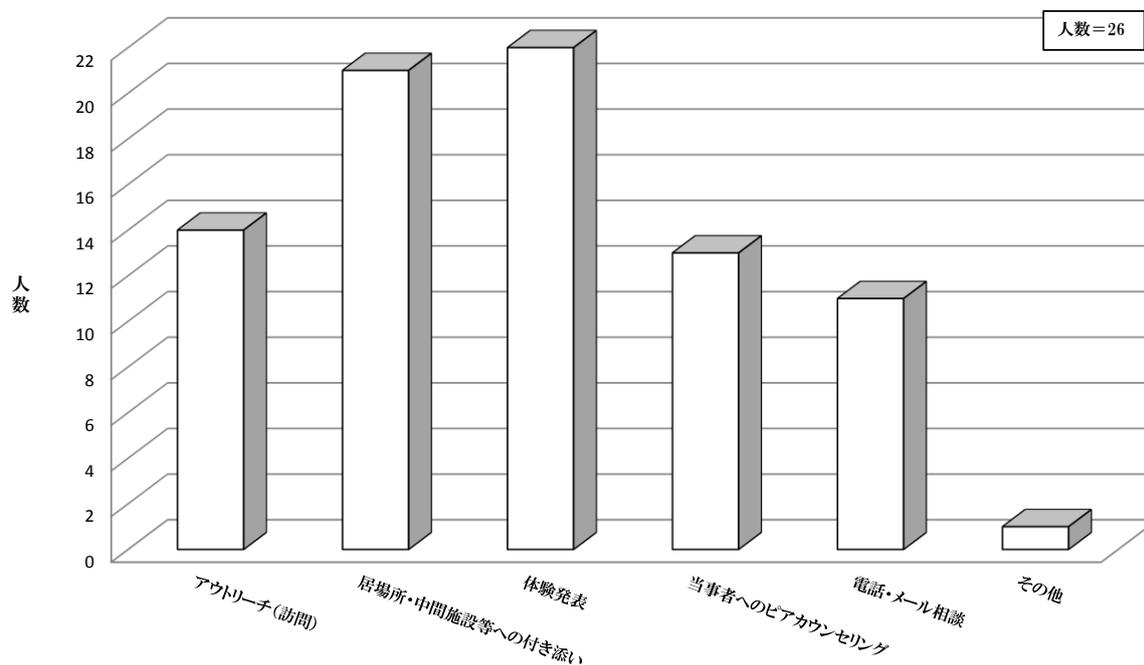


図3-18 ピアサポーター活動可能なもの(経験者)

支部がひきこもり経験者であるピアサポーターに活動可能であると考えられるものは、体験発表、居場所・中間施設等への付き添いに多いことが分かりました。ひきこもり経験者であるピアサポーターに望む支援と一致しているものとして、体験発表、居場所・中間施設等への付き添いが挙げられます。ピアサポーターがこの二つを身に着けることで、各支部のニーズに合った支援を行えるようになります。

(17) ピアサポーターに役立つ連携機関

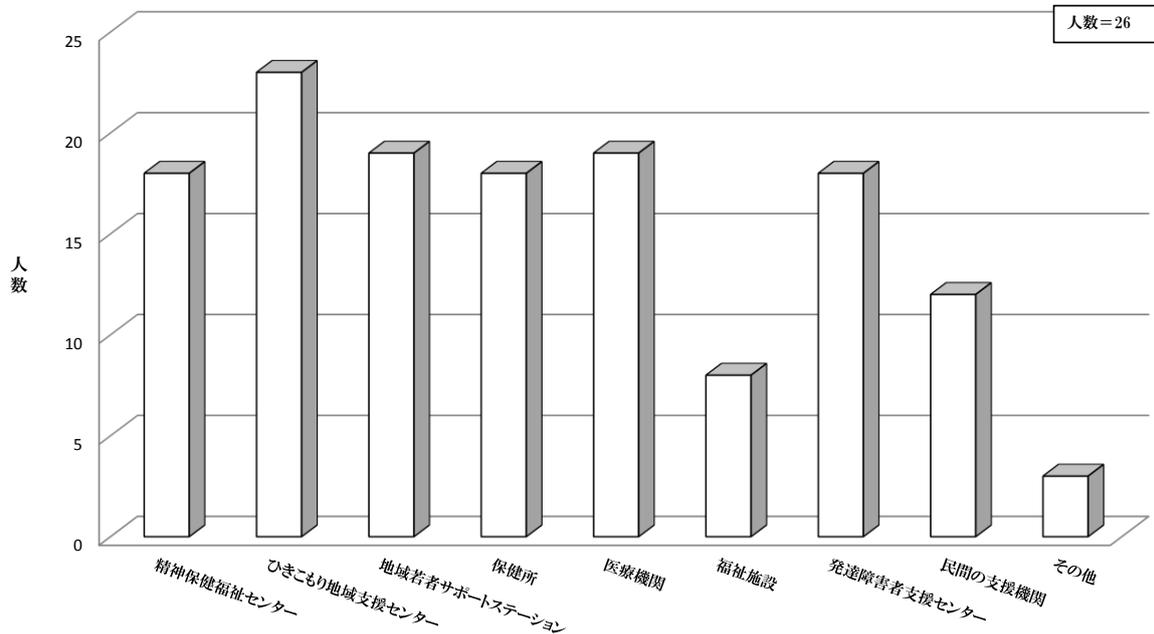


図3-19 ピアサポーターに役立つ連携機関

支部がピアサポーターに役立つと回答した連携機関は、ひきこもり地域支援センターをはじめ、地域若者サポートステーションや医療機関、精神保健福祉センター、保健所、発達障害者支援センターに多いことが分かりました。各地域のひきこもり地域支援センターとの連携が、ピアサポーターの活動においても重要になると言えます。

(18) アウトリーチをするときの望ましい人数

支部が適正であると答えたピアサポーターがアウトリーチに行くときの人数は、1人が24.0%、2人が60.0%でした。ピアサポーターの安全面からも、2名でアウトリーチを行うのが妥当と言えます。

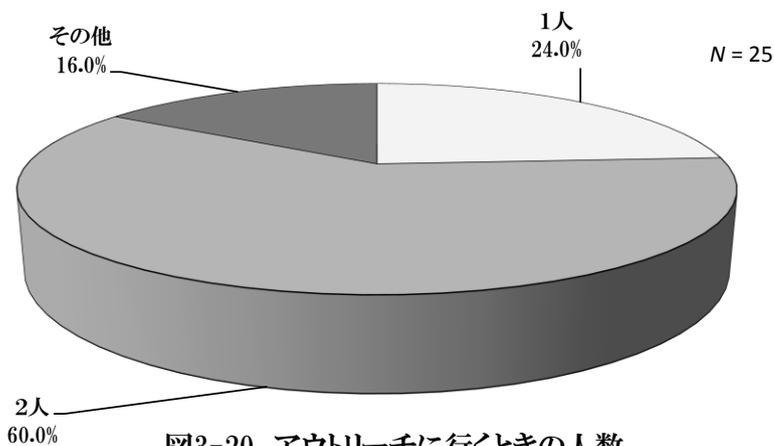


図3-20 アウトリーチに行くときの人数

(19) ピアサポーターのアウトリーチに望む頻度

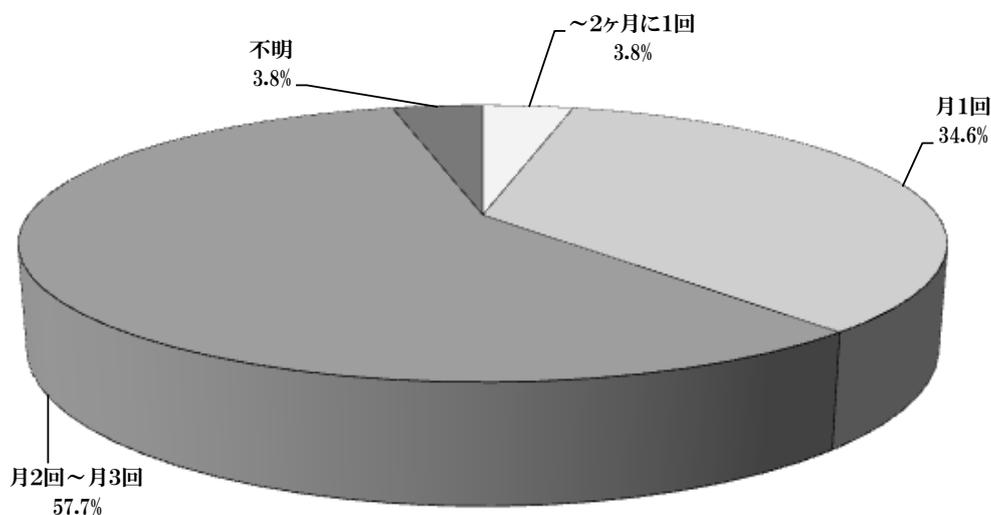


図3-21 アウトリーチを望む頻度

支部が望ましいと答えたピアサポーターがアウトリーチに行く頻度は、2ヶ月に1回未満が3.8%、月1回が34.6%、月2～3回が57.7%でした。本人調査よりも多くの頻度を望んでいる支部が多いことがわかります。

(20) アウトリーチをするときの望ましい一回当たりの時間

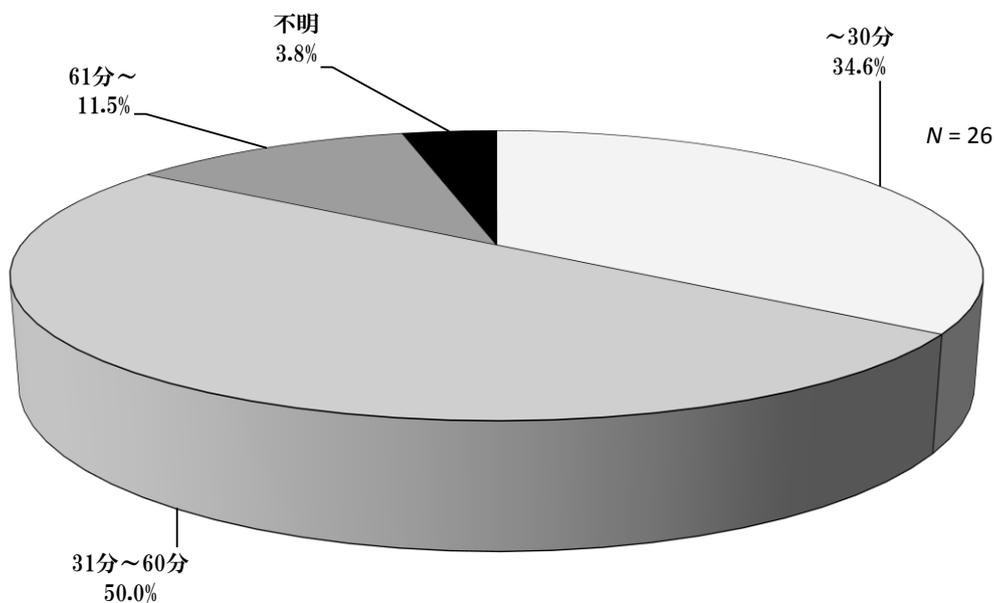


図3-22 アウトリーチの望ましい時間

支部が望ましいと答えたピアサポーターによるアウトリーチの時間は、30分以内が34.6%、31～60分が50.0%、61分以上が11.5%でした。この結果は、本人調査とほぼ同じ傾向でした。

(21) アウトリーチをする期間の上限—本人に会えている場合—

アウトリーチ期間の上限については、本人に会えている場合、必要が40.9%、必要でないが59.1%でした。

また、アウトリーチ期間の上限が必要と回答した支部のうち、上限の期間は1年未満の支部が22.2%、1～2年の支部が55.6%、3年以上の支部が22.2%でした。本人調査と比較して上限が必要という意見が多いものの、上限年数は本人調査回答者よりも長いことがわかります。訪問に上限を設けると言っても、長期的視点で支援を行う必要性は重視していると言えます。

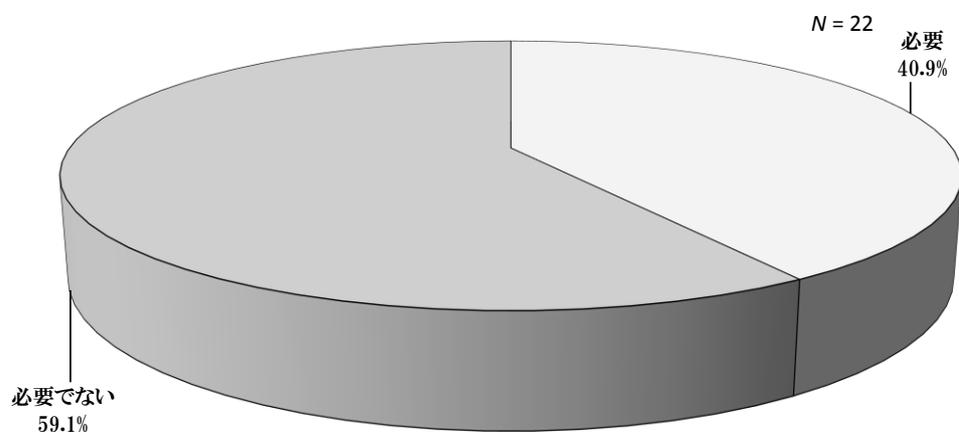


図3-23 アウトリーチ期間の上限(本人に会えている場合)

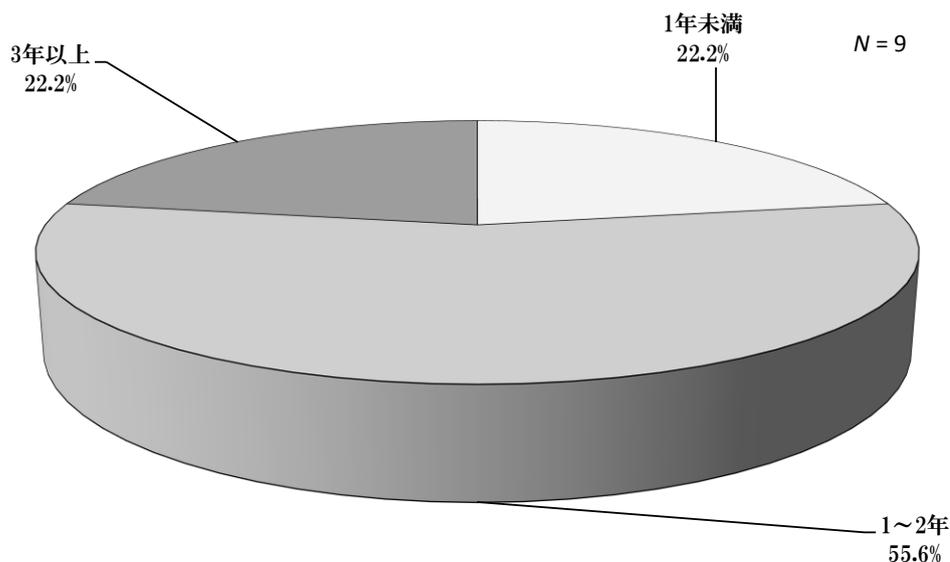


図3-24 アウトリーチの上限年数(本人に会えている場合)

(22) アウトリーチをする期間の上限—本人に会えていない場合—

アウトリーチ期間の上限については、本人に会えていない場合、必要が28.6%、必要でないが71.4%でした。

また、アウトリーチ期間の上限が必要と回答した支部のうち、上限の期間は1年未満の支部が20.0%、1～2年の支部が80.0%でした。上限を必要としている支部は、本人調査回答者とほぼ同じでしたが、上限を設けるにしても複数年という長い期間を想定していることがわかります。

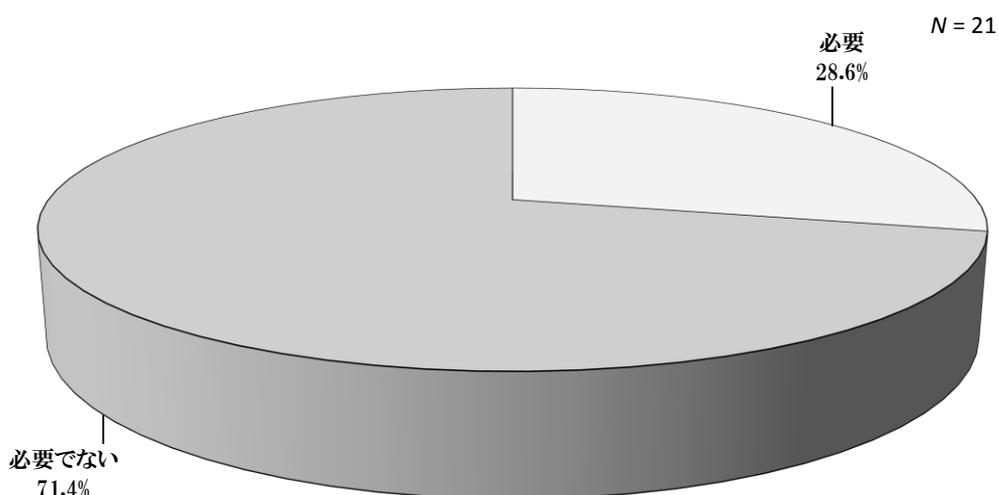


図3-25 アウトリーチ期間の上限(本人に会えていない場合)

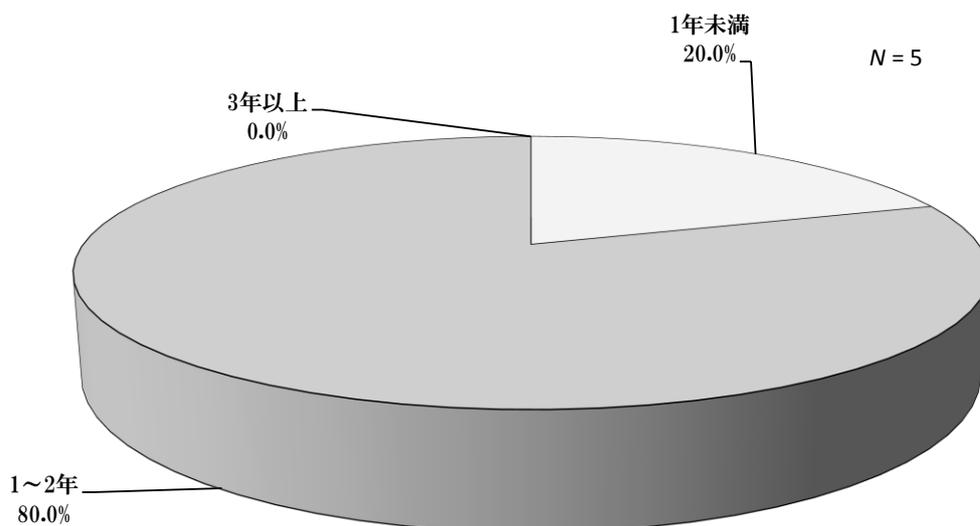


図3-26 アウトリーチの上限年数(本人に会えていない場合)

## 第四部 自由記述

自由記述では、以下のことについて回答を求めました。

本人・家族回答用

I. ピアサポーターによる支援への意見・要望をお答えください。

支部回答用

I. 研修内容はどのようなものですか？具体的にお答えください。複数回ある場合はそれぞれお書きください。

II. 研修の実施をして、困ったこと、課題や限界をお答えください。

III. ひきこもりピアサポーターによる活動について、成功事例の経緯と結果（効果）をお書きください。

IV. ひきこもりピアサポーターによる活動について、失敗事例の経緯と結果（効果）をお書きください。

V. ひきこもりピアサポーターにはどのような資質（経験・スキル）を求めますか？（家族支援の場合、本人支援の場合でお答えください）

VI. ピアサポーター養成研修として、望ましい内容はどのようなものですか？自由にお答えください。

VII. アウトリーチ（訪問）で、事前に本人の同意が得られない場合どのような点に留意しますか。自由にお答えください。

X. ひきこもりピアサポーターに期待するものを自由にお答えください。

XI. ひきこもりピアサポーターによる支援における限界、課題をお答えください。

以下には、それぞれの質問についての回答を本人回答者、家族回答者、支部回答者に分けて記載しています。自由記述の内容は、実態を示すため記載された内容を忠実に再現していますが、個人が特定できないように記述の趣旨が損なわれない範囲で編集しています。なお、大半の自由記述は掲載しておりますが、記述の量や重複を考慮し、掲載されていない自由記述もあります。

本人・家族回答用

I. ピアサポーターによる支援への意見・要望

本人回答者

① ピアサポーターの限界

- ・当事者自身がどう受け取るかが大切
- ・支援者としての力をいかぶりすぎると、何も効果を生まない。
- ・ピアサポートでも、自分ができることは限られている。自分ができることは、何かを見極めていくことが必要。間接的な気づきを促す。
- ・支援者として行うことで、上から目線(与えるという行動自体が)、(当事者が)になりはしないか。

② ピアサポーターへの期待・要望

- ・ピアの良さを活かしつつ、傾聴スキル専門知識など、自己学習の機会が必要
- ・ひきこもりの経験を生かして話を聞いてほしいです。
- ・ひきこもりも精神的な症状も、本人にとっても家族にとっても意味があることを前提に支援してほしいと思います。その意味に関わる全員が理解し、かけ違えたボタンをあるべき姿に戻さなければ、根本的に解決したことにはならないからです。
- ・ひきこもりをしている本人と親にたいして、ていねいに話しを聞いてあげることが大事だと思います。
- ・ひきこもり経験を生かして支援をすること自体が自信を付けることにもなるので、関心があります
- ・ひじょうによい
- ・家族のサポートはどうしても限界があるので、第3者(特にひきこもり経験者)によるサポートは本当に必要であると思う
- ・既存の障害者施設(移行A型、B型など)や、高齢者施設ともっと連携が必要なのでは。障害者の方とひきこもりの方、児童などが触れ合うことにより、各々単体ではできない支援に深水がでるのではないだろうか…

③ ピアサポーターの立場から

- ・研修に参加する予定です。お役に立てるか、全くわかりませんが、受ける限りは修了目指して頑張ります
- ・たくさんのケースを経験してみたい
- ・ひきこもりに限らずに、ピアサポーターで活躍することができるよう援助が欲しい。

④ 居場所

- ・居場所にもいてほしい
- ・居場所の情報がほしい

⑤ アウトリーチ

- ・なるべくなら、常に一人のひきこもりの人に対して、訪問は同じ曜日の同じ時がいい。ひきこもりの人は時間、曜日の感覚がおかしくなっているので、日々の生活の節目になります

⑥ ピアサポーターの制度

- ・”ピアサポーター”というものが何なのか、説明が不十分。分かりやすく、アンケートへの同意の説明の前にピアサポーターについての説明が必要
- ・ピアサポーターに対するスーパーバイザー的な制度を必ず作るべきと思います。
- ・ピアサポーター一人につき、何人のひきこもり当事者を受け持つのか、知りたい。

⑦ 自助グループ

- ・「ひきこもり経験者」のピアサポートも中々難しい仕事だが、「ひきこもり経験者の親」のサポートはかなりデリケートで難しいと感じる。まず当事者による自助グループへの参加を優しく丁寧にうたえる事につける気がする(一人で悩み続ける事が非常に過酷である為)

家族回答者

① 訪問支援について

- ・1年中どこへも1歩も外へ出掛けず、自分のほしい物は全部私に頼んで電話はもちろん宅配の人が来て自分がネットで注文した物でも、いっさい玄関迄出て来ませんし、私とも何を聞いてもほとんど無視されて言葉が帰って来ません。ピアサポーター 相談に来て下さっても、ぜったいに会わないと思います。私が本人の部屋に入るのもいやがりますので、地震がおきたら非難する時どうするのか聞くと死んでも良いで、避難はしないと云います。とにかく何年も外出していませんので何を言ってもムダですからどうしようも出来ません
- ・ピアサポーターの意味、仕事と云いますか、ハッキリ分らない所があります。どちらにせよ、アウトリーチは専門的な方、それに近い教育や経験の有る方をお願いしたいです。経済的には大変ですが、何でもお金で解決しなければならぬ世の中です。それなりに前進があり、ひきこもりから脱出できるならば良いと思っております
- ・ピアサポーターの方に訪問してほしい
- ・ひきこもりの人は外出できないでいます。誰か訪問してくれる人を本人(心中では)も、家族も待っています
- ・訪問をはじめる前に打ち合わせ
- ・一度、訪問カウンセリングでいく度か来て頂いてました。聞く耳もたない息子に、病院しかないと言われていましたが、まだ努力しようと思っております。経験者の訪問を期待したいと思っております
- ・家族訪問、本人との接触に話をしてほしい
- ・家庭外の空気や情報を運んでくれて、刺激を与えてくれることを期待。本人が家族以外の人と接する機会がなかなか作りにくいので、ありがたい
- ・現在訪問して頂いています。良く話を聞いて頂き、いつでも相談に乗って頂き、笑いも出て有難いです
- ・親のできる事に限界を感じています。細やかな訪問支援を望んでいます。
- ・同病相憐れむということでしょうが、体験者とはいえ、ひきこもりの状況や本人の置かれている環境や本人の意欲、親との距離感は千差万別であるとおもいますので、いきなり訪問活動をお願いするのは、やや抵抗があります。(現在支援機関の定期的訪問を受けています)

・訪問支援を待ち望んでいます。家族だけでは、どうにもなりません。会話が出来ない状態です

## ② 体験談

・ひきこもり状態から脱出できる道筋があるとすれば、それがどのように準備され、どのような条件が組み合わされることで可能となるのか、体験に基づく具体的な話を聞かせてもらいたい

- ・ひきこもりの時に感じたことを知りたい
- ・経験者の体験事例が参考になると思う
- ・自分の子供とよく似た症状をかかえていて、ひきこもりから脱け出せた人の話しをもっと聞きたい。参考にしたい。自分が会員になっている会の親の集まりは、木曜である。仕事がなかなか休めない

## ③ ピアサポーターの利用は考えていない

・私の息子は仕事の失敗からひきこもりになりました(40歳前位から)それまでは、順調な人生を歩んでいたと思うのですが…父親との敵対関係が強く、母親だけの努力ではどうにもなりません。サポーター支援などできる気もなく、今はできない状況です

・今ひきこもっていないので、ピアサポーターを必要としないので少しお答えしづらいのが実情です

・何をどうしていいかわからない状態です。私自身がトンネルの先の光をさがしています。何を支援していただくか今はわかりません

## ④ 就労支援

- ・就労支援につながる場を増やしていく必要あり、内職、手仕事、喫茶 etc
- ・就労支援を切に願っております

## ⑤ 親への支援

・本人の支援と言うよりも、さすがに20年近くなって来たら、親の会等から、引き込みの子供の気持とか、本人の為のアドバイスや講演を受けたりして、できるだけ本人の気持を重視して接してきましたが、最近親の方が疲れきって、死にたいと思う時がたびたびで、育て直してお話しも、もう同じ年数がたってくると、今から思うには、引き込みの年齢とかもありますが、最初はともかく、あまり理解のある親にならなかった方が良かったと思っています!!

## ⑥ 情報提供

- ・支援機関の情報提供をしてほしいです
- ・手紙とか写真とか、情報についてももう少し頻繁に郵送して欲しい
- ・発達障害者の支援者情報がもっと多くほしい

## ⑦ 本人に合わせた支援

- ・本人の状況に応じた個別の支援体制が出来ればいい(ステップ up して行く)
- ・本人のその時の状態に合ったサポートを望みたいのですが
- ・大変むずかしい仕事と思います。本人に応じた対応がほしい
- ・人それぞれケースが違うので支援される方がたいへんだと思いますが、その子に合った援助を願いたいと思います
- ・本人の状態をよく理解した上で支援すること
- ・ひきこもりは各々違うので、親の会に行っても我家と全然違うと思い、残念という気持ち。我家の話をしてる事が我子の悪口で親の気分転換として思えないので悲しい時があります
- ・支援、要望はなかなかむずかしいので個人が自分の子供の様子を見ながら必要な事を把握して指導してくれる方に託しています

#### ⑧ 気持ちの理解

- ・とにかく当事者の気持ちを、よく、よく理解出来るサポーターであってほしいです
- ・ひきこもり状態になった当初は、どうしても親は冷静さを欠き、本人への原因追求やもしくは放任(無視)してしまったりと、本人はもちろん、自分自身に対しても精神的に追い込んでいくことになりがちなので、まずそういう所から手をさしのべてもらい、穏やかに接していくことで自分を見失わないようなサポートができてもらえたらと思います
- ・何かを提供する!!どこかに繋がらせる!!という前に相手の気持ちをくみ取る。傾聴のやり方を学ぶ事の方が大事だと思います。
- ・子供の心の底にある思い、感情をひきだしてほしい
- ・私は自分が苦しいのはわかるのですが、子どもの苦しさがなかなかわかってやれません。でも会で気持ちを話すことができて心を持っていくことができました。ありがとうございます。
- ・私自身(たぶん本人も)、本当に心を許して話せる人は、経験者、そしてその家族です。そうではない人は、たとえたくさん勉強されている専門家の方でも、本当には分かってもらえていないだろうという思いを抱いてしまいます。今後、ピアサポーターの方々が活躍され、いつかは自分も息子もピアサポーターとしてお役に立てる日が来ることを祈っています
- ・親が声掛けしても無言のため、本人が望んでいる事を聞き出してほしい(声掛けで暴力行為が発生した事がある)
- ・本人に何を迷っているのか聞いてほしい

#### ⑨ ピアサポーターのマッチング

- ・ネットなので、ひきこもり本人がピアサポーターを指名できるといいと思います。ピアサポーターの略歴など載せてもらって必ず同性のひとが希望です
- ・ピアサポーターによっては合わないかもしれないという不安。見きわめが必要。誰でも良いとは思わない?
- ・ピアサポーターの方がどんな方か、とても気になります。子供、親がうまく接していけるのか心配です

・ひきこもり本人の性格、傾向にあったピアサポーターさんの支援が受けられると良いと思います

・息子は強迫神経症であう。単なる"ひきこもり"の経験が本人にとって、どれだけ影響を与えるか、疑問がある。強迫精神症には同じ経験を持つサポーターが必要である。その点を充分考えて、サポーターの人選を行う必要がある

・本人の年齢に合う年代の方、性格、趣味が合う友人のような存在の方がいたら、もっと前に出られると常日頃から思っている

#### ⑩ ピアサポーターの立場から

・ピアサポーター支援者になりたい

・ひきこもりの当事者への訪問支援の経験はないが、かなり厳しい状況と思う。相手を思い続ける一念と諦めない心を持ち続ける事。相手の心理状況を把握し、対応していくにはかなりの専門的な知識を要求されるので、自分に支援者としての資質があるのか悩んでいる

#### ⑪ 養成・研修について

・ピアサポーターと言っても、1. 一定期間の研修を受ける、2. 軽々な訪問はしない、3. ケースの報告とスーパーバイザーによる指導、4. サポーター自身の心のケア、5. 近くで定期的なフォローアップ研修をしていく。

・ピアサポーターになる人には必ずスーパーバイザーを付けてほしい。

・ピアサポーター自身に精神的余裕があるか?が大切だと思う。

・トレーニング(研修)などが必要と思う

・なかなか大変な事業だと思う。うまくいかない事の方が多いので、その対策や訓練をしておく

・ピアサポーターは実績のある、よく勉強している人になってもらいたい

・ピアサポーターの方々には、学習や訓練を継続していただき、ひきこもり当事者のより良い伴走者になっていただきたいと願っています

・ひきこもりサポーターは自身の経験に頼らず客観的に物事をみることができるよう、しっかりと学習してほしい。その上でピアサポーターとして働いてもらいたい。経験は大きな力であるが、それがすべてではないので

・受ける方も研修が必要か

・障害の経験や解決の経験だけでなく、それを表現して相手に伝えられる理論や知識の習得にも監視を持ってもらいたい

・長期的にそして定期的(計画的)なピアサポーター養成を願っています

・当事者(ひきこもり者)を大切に出来る人はもちろんですが、簡単に養成させないでじっくり勉強(経験など)した人になって欲しい

#### ⑫ ピアサポーターの心のケア

・ピアサポーターの支援は本当に精神的に大変だと思います。ピアサポーターに対するアドバイザーが必ず必要かと思います。又、時間的、経済的な援助が全体に必要です

・ピアサポーター自身の心の安定が必要。その人を支えるスタッフ構成を考えていくべき。

⑬ 同じ目線から見てもらえる

- ・同じ状況の中で話しができることはとても良いことだと思います。自分の思いを言語化できる場所(親の会)だと思います。
- ・ピアサポーターは必要だと思います。経験者の話は何よりも参考になるし、多分本人にとれば、心を開きやすいと思います。経験者以外は、上から目線になりやすいと感じます
- ・親が親を、当事者が当事者を支援することは同じ問題で悩みを抱えている仲間同士ですから、対等の立場での深い実感を伴う共感と理解が生じやすく、援助を特に効果的にするので、ピアサポーターによる支援は大変重要だと思います
- ・立場を理解してくれるピアサポーターの存在はとても大きいと思う

⑭ 制度・仕組み

- ・「ひきこもりピアサポーター」とはどんな「もの?」「ひと?」かを知りたい。来訪願ったが、本人が「僕はひきこもりじゃない」と言って追い返したことがあった
- ・ピアサポーター単独ではなく複数で支え合う(話し合う)仕組みが必要と思う。
- ・このような状況が長期にならないことを願っている。近い地域でのサポートがないので、遠くへ出かけなければならぬ。市町単位で動ける場所がほしい
- ・ピアサポーターと受ける側がうまくいかない場合も考えて支援を受ける側にアンケートや電話をかけるなどなんらかの方法を考えておくと良いと思います
- ・ピアサポーターをされる方に、有る程度の報酬を与え、生活に悪い影響なく、サポーターの家族の理解を得ながら長く携わって欲しい
- ・ピアサポーターを利用する時の手続きを、明瞭にして欲しい
- ・ピアサポーター活動に公的予算がつくのでしょうか。質問9のそれぞれの項目に対して単価が設定されれば活動もし易くなると思います。
- ・ひきこもりの方は、せんさいで傷つきやすい方が多く、思いやりやまごころのある方が多いと感じています。ひきこもり=悪ではなく、いいところを伸ばすような施策をお願いいたします
- ・ひきこもり経験者の仕事のひとつにしてほしい(収入源)。精神科医、臨床心理士等の相談できる人が必要
- ・ひきこもる人の事情は多種多様であり、さまざまな経験をもった人がチームを組んで対応してほしい
- ・気軽に相談出来る所
- ・経験者もしくは身内にひきこもり者が居る人がピアサポーターにふさわしいと思います
- ・支援は長期間を要すると思うので、2~3回会って止めるようなことにならないでほしい
- ・地域(地方)へのネットワーク必要
- ・電話相談があればなあと思う。ただ、難しいとも思う
- ・手弁当はムリで、世間的に実賃は負担の必要あり
- ・役立つスキームだと思う

・社会全体でひきこもりに対しての理解とひきこもる人たちを増やさない社会を作ること  
を期待します

・正直、9,10,11 の問いの答えは分らないです。勝手かと思いますが、ピアサポーターの方  
に来て頂き、嬉しい変化があれば、もっと、時給あっても…とか、頑張ってくださいでも、  
変わらなければ、違った事を考えてしまうかも…。本人はひきこもりピアサポーターの必要  
性を感じていないのです。親はお願いしてみたいと思っても、入り方が分からない。本人  
が嫌とハッキリ言えばピアサポーターはお願いしない方が良いのか。無視してお願いするの  
か?等

#### ⑮ 友達のような関係・気軽な声掛け

・いつもありがとうございます。話しのできる友達が出来たらいいなと思います。一緒に遊  
びに(運動)行けたり出来れば気持ちも前向きになれるのではないかと思います。何でも出来る  
事をさしていただきたい。よろしくお願いします。

・うちはサポーターを依頼しています。2年位前に社会人男性が自宅へ来て、会話してもら  
い、半年後からレストラン、大学巡り、映画などに出かけました。その後女子大生の方にも  
会っていただいたりしましたが、今年になって二人共会うことを拒否しています。本人が通  
信制の大学生なのですが「しょせん通信じゃん」と言われたのが原因と言っています。今は  
友人もいないので、話し相手がいたらいいと思います

・ピアサポーターという言葉は今、始めて聞きました。引きこもりという同じ苦しい経験  
をした事があったり、してる人と話ができたら又友達になれたら、本人も少し楽になれるの  
ではないかと思います。でも1つ心配なのが、息子は人とのつきあいが一番にがてなのが、困  
っている所です。

・自信満々の人より気軽な感じの方で、ひきこもりに理解がある近所のおばちゃん、おじさ  
んみたいな方がいいのではないかと。そんな方が月に2回ぐらい訪問、声掛けしてくれたら  
いいなと思ったりします

・本人が希望している時、話し相手になったり、楽しい時間を過したり相談にのったりして  
ほしい

・友達みたいな感覚で入ってほしいです

・一緒に、映画館とか、買い物に行ってほしい。(本人が望めば)

#### ⑯ 積極的に推し進めてほしい

・サポーターの養成を早急に行うこと。人的体制を充実する

・とても必要なことだと思います

・よいと思います。是非実現して下さい

・是非実現させて下さい

・積極的に推めるべき

・長期的にひきこもっている本人家族に希望を見いだせる様になったらと思います

・本人(経験者)、家族のピアサポーターとしての活動は急ぐべきだと思います。ひきこもり  
者各人、同じではないので難しいですが、専門的知識が不足していても、気持ちだけはより  
近くに寄りそえるはず

### ⑰ ピアサポーターへの期待・要望

- ・十分な事前調査とカレンダー的短期長期の見通しと目標を持って行動する必要がある(親と良く相談しながら)
- ・ご負担にならない程度で、お元気ですか…!という感じの簡単なメールであったら、ハガキであったり、または電話でも結構なのですが、なかなか会の方まで行かれないので、して頂ければ嬉しく思います。本人も自分の事を思ってくくださる方々がいらっしゃると思うだけで喜んでます。本当にご無理がなければ、して頂けると幸いに思います
- ・ピアサポーター、新しい試みに期待しております
- ・ピアサポーター間の情報共有を積極的に行ない、より良いサポートをお願いします
- ・家族とともに目標が決めれたら決めて行う。(家族との話し合いを行い)かつ目標は時系列で必要に応じて検討し直す。
- ・まずは自分に自信を持つように、成功体験をつんでいけるよう支援していただければ幸いです
- ・まず他人とのかかわりが、めんどーなだけでなく、楽しいこともある、とゆーこと、自然にわからせてもらえるような感じ
- ・家族ともつながりがもて、本人へのサポートが少しでも前に進めるきっかけ作りが対外人とつながりが出来る支援がほしいです
- ・講演会で話を聴くことで、参加した方とグループになって話し合いができること。
- ・経験者の体験、サポーターとのふれ合い等、みなが元気になる素になるのではないかと思います。慎重によい結果になりますように。
- ・高校を卒業して印刷会社に勤めて1年3か月職場の仲間は自分よりかなり高齢の為なじまず、孤立して退職。その後再就職活動するも不調に終わりその後徐々に引きこもり状態になる。第3者の方の支援で、まず会話のできる状況になればと思います
- ・子供の興味を共有してくれる人がいると、とても助かると思います。自分の子の場合、人を苦手とはしていても、どのように接すればいいかわからないだけで、普通に楽しく接してくれるとありがたいです。はれものにさわるような対応だと本人も敏感に感じるようです
- ・人間的な方に支援を望む
- ・人々は発達障害、精神障害、その他色々な原因でひきこもっている。個々の原因を見きわめた対応。自分の障害を自覚するまでに3年かかったという障害者本人から聞いた事がある。(2年前知り合った方)本人は障害ということばに弱く表情が暗くなる。自閉症スペクトラムなどへの対応のしかたなど指導してもらえたらと思っている
- ・必要としている人がいるなら、いい支援だと思う
- ・本人(ひきこもり本人)が支援の要望するようになれば非常に有効的手段と思われる
- ・本人が自主的に動く事が大切で外から押しつけでは、全く動く様子がみられず、自分自身に自信が持てない自己肯定感を持てない状態です。ピアサポーターによる支援で元気がとりもどせればと切に願う親の一人です
- ・本人が第三者と出会うまで、忍耐して来て頂ける方を切実に待っています。
- ・本人のやる気をひき出せるような対応をしてほしい

・未だ確立されていないので、ピアサポートの研修を深め、成功例を積み上げてほしい

#### ⑱ ピアサポーターの限界

・ひきこもりから抜け出した人の経験は貴重だが、サポーターとしてすべて適するとは限らないと思う。同様に親としてもです

・ひきこもりの子の心の闇は深く、のぞくことは難しいです。よほどの専門的知識、洞察力、覚悟、そして暖かい眼差しがなければ出来ないと自分の子を見ていて思います。

・少しばかり学習した人間がサポーターですと言って各家庭に訪問するような事は止めてほしい

・本人で協力能力的出来る人は少ないと思う。

・親は1人親もいて、家事本人ケアの手スキを利用するので専任はムリで、年齢もあり、本人の協力度も限度あり

#### ⑲ 興味・関心がある

・いろんな方のお話しをお聞きし、参考にしたい

・ピアサポーターになるならなにか関係なく興味があるので気軽に学習会に参加できると思う

・ひきこもり100人いれば100通りの当人、親がいるはず。歩み方も100通り。回復への道はマニュアル通りには皆いかないと思うので参考に話しはお聞きしたい

・支援をお願いしたいのですが、積極的になれません。まずお話ししたいと思います

・親としては支援を受けたい気持ちです。本人がその気にならず、その重要性、大切さを本人に伝えられず、良い方向に進みづらい

・誰にも会えない状況なので、どうしていいかわからない。それでも外へ出れるようになるのか支援して欲しい

・当家の本人は、引きこもり当事者であることを認めず、絶対に外に出ず、電話にも出ず、宅配便の対応もせず、医者にもかからず、この現状を動かす為にピアサポーターが力になってくれるのか大変興味があります

#### ⑳ その他

・アスペルガーについて知りたい

・いつもありがとうございます。皆様に感謝しております

・ひきこもりの最終ゴールが「就労」という考え方をやめてほしい。「就労」でなくても、自分が「生きる」事に楽しみを持つ事が最も大切。その後「就労」できれば、なおOK。まずは「生きる」事です。「生きる」事が楽しくなる事です

・ひきこもり当事者への〇印をつけるのみの簡単な好きなことのチェックリスト調査表があれば便利かなと思います。

・学生の時から人の中へ入っていきたく、ひきこもりになったが、友達もなく親から見ると、寂しいんじゃないかと勝手に思ったが、本人はその方が楽だったのだろうか、でも、人との関わりも求めていると思う。そのさじかげんがむずかしいと思う

- ・自分の子どもをどうしたらよいか?今、カウンセリングをしていただいているのですが、2ヶ月に1回で3回目なのですが、あまりこれに関しては進展がありません。まだ親しかできていないのでしかたがないのですが、具体的な対策をおしえていただきたいです。
- ・親(私)自身がまず行動を起さないと何も変わらない。このまま人生終わってしまうのか。サポーターへの行動が起こすかが問題だ。子供の青春を人生をだめにしてしまった
- ・親が頑張る以外ない。本人は、家にいてよく笑ったり、楽しそう。元々気が優しい子で、少しずつ親を助けるようになって、親の方も素晴らしく、ステキな子だと思えるようになった。本人の高い能力にも気付いた。後は、自分のやりたい道を見つけて、頑張って生きていってほしい
- ・調子のよいとき、人と接したことで不調になり、又、何年か外に出られなかったりするの  
で、(人や外への恐怖) 支援してもらえる体調によっていくかどうか、むずかしい
- ・当事者、当事者の家族療法への支援が必要では
- ・話したくても話せない本人や家族が沢山いると思います。もっと世間の目を気にせず、話しが出来る機会がたくさんあれば良いと思います。

## 支部回答用

### I. これまでに実施したピアサポーター養成研修内容

- ・ひきこもりの理解と対応, ひきこもりと訪問, ひきこもりと精神障害, カウンセリングの基礎
- ・訪問の心得, 傾聴, ロールプレイ
- ・①ひきこもり外来からの報告 ②ひきこもりを巡る心の病 ③訪問サポートをめぐる各地の取り組み, 私の訪問サポート体験から ④訪問サポートの基本と心得 ⑤ロールプレイによる学習
- ・1回目「相談員養成」(カウンセリングについて研修)対象は主に家族 2回目「ひきこもり支援員養成」(ひきこもりについての理解)対象は一般と家族 3回目「電話相談員養成」(キャリアカウンセリングを中心に学ぶ)対象は家族 4回目「発達障害サポーター養成」(発達障害への理解)対象は家族、当事者、一般 5回目「生活困難者サポーター養成」(生活困難に対しての支援活動をしている講師を招く)対象は生活困難当事者、家族
- ・講演会を月1回の割で行い、グループワークをとおしてピアの練習を進めています。
- ・講座形式で質疑・応答および相互の話し合いを取り入れてきた。①不登校・ひきこもり、ニートへの理解 ②自立に向けて(支援の実際) ③アウトリーチ(訪問支援)に関して ④カウンセリングの基本と実際 ⑤家族と不登校・ひきこもり ⑥親の会の役割、親の会のつながり ⑦発達障がい支援のあり方、その他各支援機関のスタッフを講師に招き学んできました。

### II. ピアサポーター養成研修の実施をして、困ったこと、課題や限界

- ・各参加者が、知識と技量をどの程度獲得できたのか不明瞭だった。当事者を持つ親として、「何とか助けてあげたい」という思いが強すぎるあまり、ロールプレイにて穏やかかつ柔軟

な姿勢を持つことが困難な時があった。親の「体験的知識」がいろいろな場面で参考になることもあるが、研究者も含め実践の中でどう活かすか。

- ・会場確保には苦労しました。年間5回の連続講座を4年間実施してきましたが、参加者が固定せず、新たなサポーターが育ちにくい。古くからの父母会メンバーと新しいメンバーとの新陳代謝の状態、そのよい面と新たに構築しなければならない難しさが同居している
- ・講師謝金、会場費などの経費がかかるため、助成金をもらうことが大変なハードルです。
- ・困ったこと 講師の選定、会場の確保、費用の捻出、広報など。 課題：その時期に必要な情報は何かをとらえること。 限界：こちらが研修に際して研修生の必要としていることを提供しきれないこと
- ・実際には訪問まで至っていない人がほとんどだと思う
- ・予算と講師

### III. ピアサポーターによる活動の成功事例の経緯と結果（効果）

- ・家族支援→・本人支援につながった。 1.10年以上の団体なので、月例会に参加されている方の子どもが分かるので、今迄ピアサポーターと意識しないで、お母さん同士仲良くなり、お互いに交流を持ち、その上で子ども同士も趣味が同じということもあり、若者の居場所への誘いかけ→居場所での同じ趣味をもった仲間との出会い→県外の元経験者、当事者などとの交流→公共の乗り物にも乗れるようになった。→自分の考えを仲間のいる場所で話すことができるようになった。→絵の展覧会にも出品、リーフレットのデザイン、市民活動センターなどにも出品、自信につながっていった。パソコン教室(若者サポートステーション)にも積極的に通うことができた。現在一人の若者はサポステのピアスタッフも勤めている。
- ・支援について消極的だった親が、ピアサポーターの励ましで前向きになった。御家族の意欲が支援に関して新しい視点を産む。支援者とインフォーマルな関係を築きやすくなる。
- ・1.家庭の中が、落ちついた。(家庭内暴力の場合。 2.本人に会えた場合(数ヶ月から1年くらい)居場所に来る事が出来る様になり、家族関係が改善した。 3.自傷行為が治まり、専門学校に行くようになった。 4.外泊が出来なかった当事者が居場所に来る事で、対人関係が改善し、外泊も出来る様になった。
- ・30代前半、ひきこもり年数10年以上のAさん宅へ、ひきこもり経験者のピアサポーター1名が、昨夏より月一度訪問を重ねている。 訪問にあたり、スタッフ(社会福祉士)が、家族とインタビュー面接を実施した。そこで、Aさんがひきこもり状態になった経緯、Aさんの人となり、過去の精神科診断、家族の希望など詳細なアセスメントを行った。家族からは「家族以外の人と話ができるようになって欲しい」と希望が出されたこと、Aさんには強い対人緊張・対人不信の様子があったことから、始めの支援として訪問サポートを実施するに至った。アセスメントの結果、①Aさんが日常でよくインターネットを利用して、疑問点を家族に聞いてくることがあった。 ②家族もパソコン操作を習いたいと考えているに着目した。そこで、左記の状況を活かすことができる訪問担当者のマッチングを図ったところ、ひきこもり経験者のピアサポーターが適任となった。ピアサポーターは、事前に訪問目的(家族にパソコン操作を教える)を、家族を通じてAさんに伝達いただき了解を得た。訪問では、Aさんの質問が記入されたメモが家族に託されるようになった他、ピアサポーターが訪問から帰る折、窓越しに眺めるなどの変化が生まれている。

- ・時間をかけて当事者と話せるまで、あわてなかったことが、毎月1回の訪問につながった。
- ・震災復興ボランティア活動を実施し、その支援員として随行し、若者とボランティア先とをつなぎ、間に入って調整し、うまく機能しています。
- ・中学3年から不登校に成り、ひきこもり状態に成る。本人の生活状態は、ほとんど外出せず、親子の会話はあまりなく、部屋でテレビを見ているか、ゲームをしている。(強迫行動が有る、手洗など)平成21年11月から月2回程度のアウトリーチを行う。当初はドア越しでの一方的な会話で有ったが、平成22年の9月より会えるようになり、平成23年の1月より、本人がラーメンが好きという事が分かり、アウトリーチの時にラーメン屋に行くことにした。それにより外に連れ出し(母も同行)サポステ、居場所等を案内した。現在は母とは普通に会話が出来るようになった。(父とはあまり出来ない)最近では父母とラーメンを食べに行けるようになった。今後、これをきっかけに親子のコミュニケーションが取れ、家での手伝いから始め居場所等につなげていく。
- ・まだ成功例なし

#### IV. ピアサポーターによる活動の失敗事例の経緯と結果(効果)

- ・当事者視点での寄り合いが辛いなどの報告はよく受ける。要するに、周りには成功者がたくさんいるため気が引けてしまう。落ち込む
- ・当事者を抱えていた親(現在は解決している)による一方的な支援、成功した人は、自身の経験を押し付けようとする傾向がある
- ・本人支援 1.ピアサポーターとして同世代の若者に、積極的な誘いかけをお願いし、主に携帯メールでのやり取りであった。居場所での行事→パソコン教室→花見→カラオケ→食事会→クッキー作りと元気になり、お母さんも大変喜ばれていた。そして、自分でバイト先を見つけて行くことができ、居場でも後片付けが出来、「お茶入れましょうか」「掃除手伝いましょうか」と自分からハキハキ出来ていたが、バイト先では「遅い」と言って叱られ、3ヶ月程でダウンしてしまった。
- ・引きこもり状態から居場所に来る様になり、働きたいという事でサポートステーションにつないだのですが、体験場所でうまくいかず、リバウンドしてしまいました。現在、本人は居場所に来られる様になりました。
- ・30代後半、ひきこもり年数10年以上のBさん宅へ、親のピアサポーター2名が半年ほど訪問した。Bさんには、対人緊張、および対人不信の強い様子が見られ、親子間の対話も筆談に限られていた。従って、ピアサポーターが訪問する同意がBさんから得られないため、ピアサポーターはBさんの親友達としてお邪魔するという前提で実施した。当初3か月ほどは円滑に訪問できたものの、Bさんの変化が見られなかったため、ピアサポーターがBさんに差し入れを持参、帰り際にメッセージと共に置いてくるコミュニケーションを試みた。すると後日、Bさんから不要との返信があった。その後も数か月訪問を実施したものの、依然として変化が見られなかったため、Bさんのご両親から訪問中断の希望があり、訪問サポートを終了した。
- ・幼い時から落ち着きがなく、やんちゃな子で普段集中力が無いが、好きな事になると没頭して抜け出せない。授業中も椅子を揺らして授業に集中出来なかった。不登校を繰り返すが、中3で担任と合わず11月より不登校に成り、不登校子が行く機関に通いその友人の影響でパソコンにはまる。高校1年はそれなりの通学するが、高校2年の夏休み後完全に

不登校に成り、1日パソコンをしている。母が中退後に「働いたら?」と言うと「殺すぞ」と包丁を突き付けた。母はそれ以後怖くて何も言わない。現在は全く外出せず1日中パソコンをしている。依存症にどのように接したら良いか良く分からず、これから勉強が必要。

- ・とくに失敗という事例もない
- ・支援内容、範囲を守って活動し、それほど問題は生じていない。

#### V. ピアサポーターに求める資質（経験・スキル）

・家族支援の場合=ひきこもり当事者との関わりがあり、親の会での活動1年以上。本人支援の場合=ひきこもり体験をもつもの又は居場所等での支援活動経験のあるもの。カウンセリングの専門知識のある者が望ましい。

・家族支援の場合は、親の会での経験年数3年以上かつ産業カウンセラーなどの資格を持っており、共感的な態度を持っている人　・本人支援の場合は、ひきこもり経験者が上から目線にはならない人

・家族支援の場合は、親の会での経験年数5年以上　・本人支援の場合は居場所での若者との交流経験が豊富な程、良いと考えられる。いろいろな個性があるので広く、深く、又若者に好かれる性格であれば尚よろしいと思う

・相手、相談者に対しての気持ちをよく理解出来る力が必要　・親の会に4~5年関わっている方　・やる気の有る方

・当事者性がはっきりしている事　・上から目線でないこと　・カウンセラーの訓練を受けている事(自己覚知を経験している事)　・ソーシャルワークがある程度はできるとこ

・本人や家族の話に耳を傾けつつ、自身の意見や考え方を一方的に押し付けない姿勢。例えば、本人や家族が三言話したら、ピアサポーターがひと言返すといった要領　・専門職スタッフと協同で支援を行う認識。　・親の「体験的知識」が力になるので、いろんな所(月例会・親のグループワーク・研修会など)へ参加することも大切。(待つこと・聴くこと・ほめること)

・1)あるていどの見極めが出来る人(本人支援)　2)ネットワークを多く持っている人(本人支援)　3)親の会での経験3年以上必要(家族支援)

・1.家族支援の場合(ひきこもり経験者の親)　親の会での経験年数(資質によると思うが3年位)　押しつけがましくなく、ひきこもりを余り引きずってない人。　2.本人支援の場合　親の会でも体験など話せる人。居場所活動にも参加し、明るい人。きちんと自分を受け入れられた人。自己開示のできる人。向上心のある人。

・1.(茶話会)親御さんの会では、4~6人くらいの少人数なので話しやすいということで利用。月例会、学習会は人数が多いので十分に話せないけれど、親御さんの会は3時間あり、1人1人の話がゆっくりできています。2.親父の会は隔月で8~10人くらいの方が利用。主に役員さんが中心になっていますが、新しい方が来ると役員に誘い役員さんが増えていきます。結束力もあり、テーマを決めて話し合い最後はお酒で交流しています

・ある程度の知識を得て、自分の家族を客観的に見えるようになるまで

・ひきこもりの理解と対応、その学習。経験にこだわる必要はないと思う。どんな内容を、どの程度まで→その経験をつんでいくことが大切

・家族支援)相談支援員を兼ねるスタッフ 本人支援)相談支援員を兼ねるスタッフ。ピア講習会に最低6回参加した人。

・家族支援、本人支援)・家族、当事者の立場に立って、傾聴の技術を修取した者 ・臨床心理士の知識がいるのではないか

・家族支援:親の会での経験年数2年以上及びに保温ピア・サポート学会による「ピア・サポートに関する研修」KHJによる研修等の受講 本人支援:親の会での経験年数2年以上及びにピア・サポート学会による「ピア・サポートに関する研修」KHJによる研修等の受講

・家族支援では、親の会に休まず2年以上、そして、研修(メンタルヘルス等)にも参加出来た人。 本人支援では、居場所での関りはもちろん、本人の立場でも理解出来る人。

・家族支援では学習会で2年以上学んだ方、子がひきこもりからある程度回復し、精神的に多少余裕が持てること。親自身に協調性等で問題があるとピアサポーターとして不適切。

本人支援では上記の他に、社会資源の情報量が多いことが重要

・家族支援の場合、親の会での経験年数は1年以上あれば、特に長さ3年という枠は不要。本人支援の場合は居場所スタッフや親の会、他での相談支援経験者

・家族支援の場合、親の立場を十分に理解し得ると、明らかに言える心情を持つ人 本人支援の場合、さまざまな状況や状態を示す本人を適切に理解し、ともに対応を考えていける人。

・家族支援の場合…保護者と同等程度の人生経験を積んでいる大人で親の会での経験を数年以上積んでいること。 本人支援の場合…ひきこもり元当事者や居場所などでのスタッフ経験

・家族支援の場合は、親の会での経験1年以上、意欲+学習+自己覚知(ピアサポーターに向かない性格もあり) 本人支援の場合は、居場所等での経験1年以上 学習+自己覚知

・家族支援の場合も、本人支援の場合も親の会の活動内容や居場所の内容によってレベルがわからないので経験だけでは判断できない。親の会、居場所のレベルが支援者を育てられるレベルにあるかが問われると思います

・家族支援—親の会での経験5年以上 本人支援—居場所、家族月例会各3年以上

・自分の役割を認識していればOK

・多方面から助言できる人、1つの考えに凝り固まっていない人

## VI. ピアサポーター養成研修の望ましい内容

・(例)の他、ピア・サポート概論、自己理解、他者理解、動機付け他、ピア・トレーナー養成研修・内容

・ひきこもりの概要 ・当事者への支援方法 ・支援上の注意点 ・ピアサポーターに対する支援体制 ・支援に継がる社会的資源

・ひきこもり等、若者(思春期)の心理状況についての理解 ・認知行動療法等のカウンセリングの専門知識 ・ピアサポートの具体例

・今のところ特にありません ※親御さんの会は少人数のせいか、利用する人が同じ人で新しく来られた人の定着率が悪いように感じます

・実地研修を行う

・落ち入りやすい心や体の病気についての理解と対応 ・関係法制度の理解 ・緊急時の対応

・話を聴く時の聴き方 ・ロールプレイ ・ひきこもりを受け入れられない親に対応するために考えなければならないこと ・若者が来てほしくないという時の対応

・※人間という生き物の理解(心理)そして自分の心を理解する講座 ※日本の庶民の歴史講座(歴史を学ぶ)

・1)インテークのやり方 2)ひきこもりの理解

・1.事例の検討と実習。そのなかでの留意する点などの洗いだし。 2.サポーターのメンタルケアなどの仕組みづくり。(してくれる人、場所)

・ソフトよりも枠組み作り、制度設計

・ひきこもっている若者の心理状態の勉強

・ひきこもりの原因と対策 資源の紹介

・ひきこもりの理解、ピアサポーターとしての姿勢、専門職との協同方法 ロールプレイ(役割演技)、親の「体験的知識」を聴く、当事者の「体験」を聴く

・ひきこもりの理解と対応として CRAFT の学び、心理的アプローチ～医療的アプローチ～社会資源(多様な)の活用のしかた

・ひきこもりへの理解、対応に近い領域の関係団体 ひきこもり家族の理解、対応 関係する疾病の症状、薬 家族のメンタルヘルス 福祉行政 事例に伴う具体的対応や実体験者の話

・ひきこもりへの理解と対応 家族理解 親の会の役割 ひきこもりと社会との関係 カウンセリングの基本

・ひきこもりへの理解と対応について、ロープレを通して学ぶ。勇気を持って粘り強く訪問しなければならないと思うので、モチベーション維持の仕方などメンタルケアについて。

・一定の研修を経て、面接的体験を行った上で「KHJは認定」とされる事が良いと思います

・家族支援、本人支援)・家族、当事者の立場に立って、傾聴の技術を修取した者 ・臨床心理士の知識がいるのではないか ・多種多様な支援機関との連携。

・常に「寄りそう」姿勢を基本に、「傾聴」を徹底して練習すること。

・不登校、ひきこもりへの理解と対応。発達障害等のことについての理解と対応、就労支援の現状、サポーターのメンタルケア

## VII. アウトリーチ(訪問)で、事前に本人の同意が得られない場合の留意点

・もし、若者の了解をえられていない場合は親と面談、元気になられるように対応していく(親が)。 ・親自身が面会をことわっている場合、より立場のいたる人の話がきけるように働きかけてみる。(例えば、一人親だったら一人親の人と話ができるように)

・家族の人達と交流を深め、信頼関係を築く。 ・本人に関する情報を集める。(趣味など)

・無理強いをしない ・ケースによって他の専門機関と相談する

・※風の様な存在になれば、心を許してくれるのではないかと思う。 ※訪問した事が伝わる様な、物を残しておく。

・1.本人に若者の集いの行事など、簡単なお知らせのハガキを出しておく。 2.家族と会って、世間話など15~30分して帰る。(その後、暴れたりされた時は、止める。)それがない場合、2~3回続けてみる。 3.その後、ドア越しに本人に自分のことを伝えて帰る。(2~3分)

4.拒否反応を見せなければ、次回も続けてみる。(会えなくても継続が大事。) 5.訪問する数日前には、家族から本人の状態をよく聞いてからする。(状態が良くない場合は、訪問は止めておく。)

・これというのは答えにくい。同意なしでの成功事例が殆ど、同意得られるのは全体の一割、残り九割も場合によっては会える

・ピアサポーター養成研修等を受講してイメージを作りたい

・家族(両親)とじっくりと話し合いをもち、家族の友人として、家を訪問していることを、本人に伝えるのがよいと思う

・家族との出会いも大切なので、親だけと話をし退室する。

・家族に訪問という形で5~15分くらい滞在して無理やり引き出したりする者でない、安心できる相手だと何となくわかってもらえるようにする。挨拶と名のりを簡単に伝える

・家族のサポートができればよいと思います

・強い働きかけはせず、手紙を置いて帰る。家族と楽しく会話し、さりげなくサポートしている雰囲気を感じてもらおう。家族に月例会、学習会に参加をすすめ本人への共感的理解を学んでもらう

・強引に本人の部屋に立ち入る等しないこと。ドアの前で、自己紹介程度にとどめ、帰ること。本人の興味、趣味がわかれば、例えば「次回は〇〇の漫画本を持って来るよ」「△△ゲームがおもしろい」と一言添える。メモを残すのも有

・事前に両親もしくはどちらか母親の場合が多いと思うが、本人の様子を聞き出しておく。又、当事者と同じくらいの年頃のサポーターが出向いたり、手紙でのやりとり。返事がなくとも月1度ぐらいの割で「いつも気にかけているよ」といった内容の文章を直筆手紙又はときにハガキで出したりする。あきらめないことが必要

・親のひきこもりへの理解度を上げてもらう為、学習会や親の会への参加をすすめる

・当事者の家族の方の支援をしながら、ゆっくり状況が良く成るまで待つ。家族の方としっかりコミュニケーションを取る。当事者の様子を見ながら同意を得られる良いタイミングを計る

・当事者を尊重し、保護者側の立場とは一線を設ける。

・同意が得られなければ成立しない。家族および知人等を通じて、あるいは、当団体の紹介を通じて、同意をはかる努力を行う。

・本人に話しに来た。会いに来たではなく、お父さん、お母さんが親の会で知り合って、友人になったので来てもらっているのでもいいでしょうと伝える。その場合、けして本人に手紙を出したり、声かけなどはしない事。(しかし、本人は、親がどんな話をしているのか興味を持つと思われる回数を重ねるうちに、害はないと感じ、会える場合がある)

・本人の事前同意を取るのはむずかしいと思う。親が同意ならば訪問していただきたい。ピアサポーターと本人の相性にもよるが、少しでも話しができるようだったら、定期的に訪問していただきたい。

・本人の同意が得られない場合が多いが、家族を通してアウトリーチを始めることをしっかり伝えておいてもらうことはとても大切です。親の都合だけでなく、子供(当事者)の将来を思っていることであることをしっかり伝えておきます

・本人の同意一意見表示(嫌と)があったか。反応ないのか等によって対応は変わる。いづれにしても本人とのコミュニケーションが取れるように接することを考えることが大事。何の反応もないことも反応(嫌と言っていない)かもしれない。状況を読みとるかも大切。メッセージを伝えることも大切

・無理せず、軽いノリで。会う事にこだわらず、家族と接する事も大切な要素になると思う

## X. ピアサポーターに期待するもの

・ピア(仲間)でないとわからない事、体験などがあるのでそれを話し合えるそして本言で話ができる。ネットワークをより多く作り、ピア出来る場所を作る

・ピアサポーター同士の横のつながりや事例について話し合う会が必要のよう思う。スーパービジョンを受けること。グループスーパービジョンなども受けれるようになるというのではと思う。カウンセリングや家族教室に通った経験者の援助を受けることは大切だが、必ずしも、家庭の状況などにより援助を頼めるとはいえない(介護など)

・ひきこもりについて、かつて同じ悩みを持ったことがあったり、現在も少なからず悩んでいるという、同じ経験を持つ存在として、ひきこもりに悩む本人・家族の気軽、かつ心強い話相手を期待している。親の「体験的知識」から他の親、家族が主体的・自主的に何かを発見して、そのことが当事者への援助になればと思う。

・ひきこもり家族、当事者と接することによって家族、当事者の孤立感の解消に役立つ。他の支援機関へどの様につながっていくか。

・ひきこもり本人に家族以外の第三者の風をおくることは、とても大事だと思います。あせらず、じっくりと働きかけを行なうべきと思います。

・※御家族や本人にそっと寄り添い、混乱した状態から普通の関係の御家族になれる様、日に影になりながら、支援を続けていける存在になってほしいと思います。

・1,スキルを身につけた専門家ではないが、実体験から話ができるので、共感して聞いてもらえる。 2,信頼関係を築きやすい。 3,選択肢が沢山あったことを、実体験から伝えられる。 4,また失敗した実体験も伝えられる。 5,若者が力を付けて、ピアサポーターになって欲しい。

・1人でも多くの若者がひきこもりから脱出できて、社会復帰とまでは行けずとも、その人らしい(生まれてきて良かったと思える)生活ができるようになれば、親として嬉しいと思えるので、期待したい

・しっかり研修を受け、経験と学びを積み、更に日々研鑽しながら積極的に取り組んでほしいと思います。人生の集大成を社会への貢献として生きてほしいです。それだけの価値ある事業だと思います

・とにかく、第三者の風を入れ、一人でも今の状態より元気と成って貰い、人生を楽しんで欲しいし、そう云う事が出来る方にピアサポーターに成って欲しい

・ピアサポーターを養成することと同時に、スーパーバイザーを地域でどのように確保するか。

・ひきこもり経験者で、同苦という視点で粘り強く接していただきたい。声が大きい、上から目線、異常に元気だしている人ではなく、逆におとなしく声は小さく、自信なさげな人の方が、共感的な話しができそうだ。

・一度始めたら、拒絶されない限り、10年でも20年でも続ける事、途中で別の人と一緒に訪問も工夫してみる

- ・何かをしてあげたい、外に出してあげたい、といった考えを捨ててほしい。
- ・家族であればこそ当事者といちばん身近にいる存在として細かな気づきが得られると思います。カウンセラーとちがった目線で見てもらおう事も重要と思います
- ・各家族に何らかの風穴をあける
- ・自分の資質の見極めと役割りの認識
- ・親は親の会への積極的な参加としての協力をしてほしい 当事者には若者の会のサポーターとしてやってほしい。 アウトリーチは経験を積んでいる人、他団体とのかかわりをたくさんもっている人、常識と強さを心の平静さを合わせもつ人に、続けて止めないでやってほしいと思っている
- ・当事者のコミュニケーションをうまく取って欲しい
- ・当事者の寄り添い、明るい未来が期待できるチャンスの到来
- ・当事者の気持ちに寄り沿うこと 自分の支援の範囲、できることとできないことをわきまえる おせっかいではなく、お互いの気づきを積み重ねる
- ・同じ体験をした者であるので、本人、家族も関わりを持ちやすいと考える。すぐに、結果がでなくとも必ずつながると期待したい
- ・八戸などを中心とした青森県南地域で行えないかを検討していきたいと思います
- ・福祉のいわゆる **self-help group** の有用性は近年広く認められている。双方向的あるいは多方向的援助は、エンパワメント **empowerment** の最適手段であると考え。 援助をする人が最も援助を受ける **helper-therapy principle** ヘルパーセラピー原則やメンバー間のわれわれ意識を生み出す。下記10のような問題点、課題をはらむものの、ひきこもりピアサポートに期待するものは大きい
- ・本人も家族(親)も会に入ったばかりの人にとって先輩の会員さんにサポートしてもらおうと心強く継続利用につながると思う。それは親も子も元気になる道筋でもある

## XI. ピアサポーターによる 支援の限界, 課題

- ・どうしても親や若者が心を開くことができない場合が非常にあるのではと思う。自らの問題等が持続していたり、あらたに出てくる場合もあるだろうが、素直に対応できるかが問題でないかと思う。ピアサポーターのカウンセリングは必要であると思う。
- ・ひきこもりについて悩んだ経験のある分、対象者の悩みや課題を自らの経験と重ねあわせる機会が多いと思われる。 その折、ピアサポーターが自身の経験や改善への方法を、対象者に強く伝える(対象者の困難を受容・共感するよりも、自らの意思を伝えることを優先する)余り、対象者が課題解決により消極的になったり、あきらめてしまう事態がみられてきた。ピアサポーターは、自身の経験が起点となる。一方、専門職によるアセスメントや長期的支援計画に沿って、協同で支援を実施する姿勢が不可欠と思われる。ピアサポーターと専門職がどの程度連携できるか、ピアサポーターが自らの支援姿勢について常に見つめることができるか、活動の成否を握ると思われる。ピアサポーターを行っていても、相手がそこで何を掴むかは、その人自身が主体的に何かを掴んでくれるようなサポートが必要。そのためには、できるだけ二人で行うことがよいのではないか。サポーターが一方向的に自分の考えを

押しつけてもいけないが、二人ですと調整もでき相手の気持ちを正しく掴むことができるかもしれない。

・別の仕事を持ちながら、サポーターを行うには時間的な制約が有る。専従で行うには、家族の理解、生活費の問題。当事者の方が関わる事で今以上悪く成った場合の責任問題

・※自己メンテナンスを忘れずに「燃えつき」にならない様に、気を付けてほしいと思います。 ※1人で抱え込まない事が大事です。(自分の為、被支援者の為)

・1,重い状態の場合、スキルを身につけた専門家に任せる。2,決して過信しないで、無理して引き受けない。 課題 1,ピアサポーターが、つぶれないよう、ケアも必要。2,困難な事例を、長期にわたり抱え込まないで、スーパーバイザーにお願いする。

・サポーターの資質しだい

・サポーター派遣で、本人や家族が経済的負担にならないよう、また単年度事業や政権が変わったから事業打ち切りということにならないように、国は本腰で取り組んでいただきたい。

・ピアサポーター1人ですべてをかかえこまないこと、他の周りの人をまきこみ、課題解決に向けて行動すること

・ピアサポーターの限界:自らの経験が誰にでも通用するものではないことの自覚。先行く者ではあるが、教え導く者ではないことの自覚。出来ることと出来ないことを自ら明らかにしておく態度。ひとりよがりにならず、他に相談する。助けを求める等が出来ること。

・ひきこもりの若者の心にどこまで寄り添えるか。いつ心を開いてもらえるか、同じ人間としての悩みが深まり、サポーターとしてやっつけていけるか自問自答の日々が必ずくると思うので、課題としてサポーターに対する心の支援が必要になってくる(時々会合を持ち、サポーターのストレスの軽減を計ることも必要かと思います)

・ひきこもり経験者の家族がピアサポーターになる事は家族自身の覚悟がいる事もあり、責任も伴うものであると考えます。現実的になかなか人数を揃える事はむづかしいと思いますが、その為にも認定制度があれば望ましいと思います

・私たちが生きている社会で本人の特性を取り入れて就労が出来る社会

・時間がかかるのではないか

・自分の体験以外は未知のこと。状態によっては、難しいこともある。又、サポーター自身の心身の負担もあり、養成講座で学んだだけでは、長期・重度な者への対応は限界がある。サポーターの心身のストレスの緩和が課題。記録もやらなければならない。その必要性和処理力も課題

・自分一人でのサポートには限界があるので必ずスーパーバイサーが必要(支援者会議などを利用した方がよいと思う)

・自分自身のことや子どもが未解決のままサポートするのは相手にとっても自分にとっても、負担が大きい1,2 ケースと少ないと負担も少なく相乗効果が得られるのかもしれない。

・重度の病気、暴力のある人は難しいと思います

・親→自分の子供の問題が未だに解決できていない場合は自分に自信が持てない態勢(情態)でサポートをすることになるので難しいのではないかと。 何らかの変化があったとして、どう次へつなげてゆくかをしっかりイメージしておかないと失敗してしまう。又、専門家のよ

うに自信がないのでお金をもらいにくい。 当事者→どの程度の人になってもらうのか?仕事をできるようになるとなかなかサポーターはできなくなる

- ・生活保護、障害手帳取得など医療との連携が必要なときに、行政の動きが遅いとき。
- ・相談の状況にもよるので、これとは答えにくい
- ・他者、他団体機関との連携 支援者支援の要請 自団体組織への報告、連絡
- ・年齢的なもの。私自身あと何年やれるか疑問。(あと 5年で 70 歳)多くのピアサポーター、特に支部の代表や役員が育ってこないと、支部はやがて衰退してしまいます
- ・本人が社会復帰するためには、他の専門家や専門機関との連携が必要不可欠だと思います。臨床心理士や医師、ソーシャルワーカー、ハローワークなどとの連携のあり方についても学びたいと思います。

## 第五部 全体のまとめ

## 1. ひきこもり本人の年齢の推移

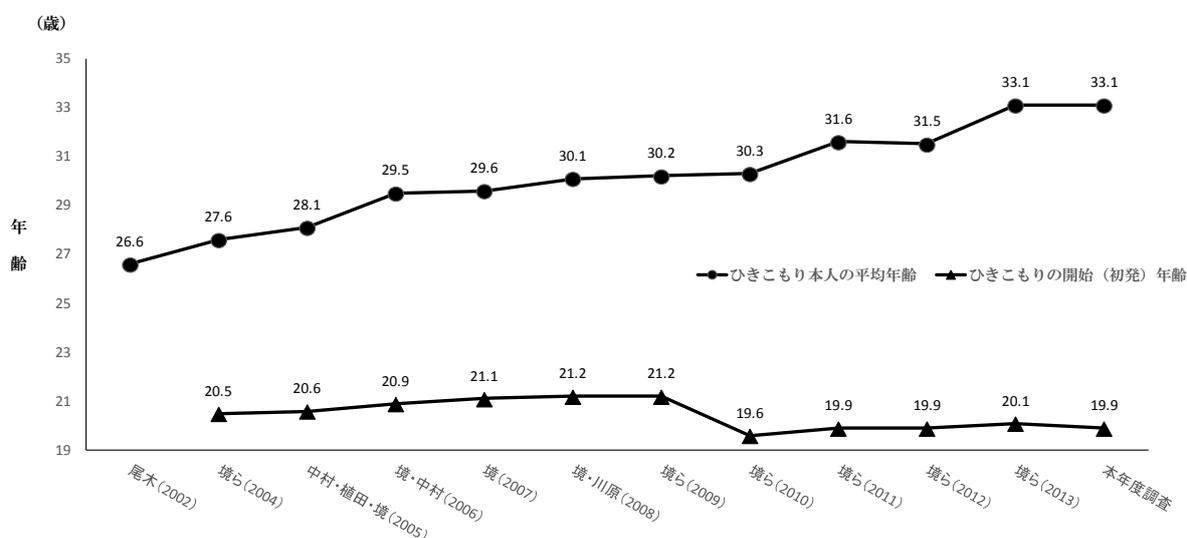


図5-1 ひきこもり本人の年齢の推移

当会の調査を開始した2002年以降のひきこもり本人の年齢の変化を図5-1に示します(境ら, 2004; 境ら, 2005; 境ら, 2011; 境ら, 2013; 境ら, 2008; 境ら, 2007; 境ら, 2006; 境ら, 2012; 境ら, 2010; 境ら, 2009)。ひきこもり本人の平均年齢は、本年度33.1歳となり、昨年度からの年齢の上昇は認められませんでした。2012年においてもひきこもり本人の平均年齢が横ばいになっていましたが、その翌年2013年に一気に2歳平均年齢が上がっています。こうしたことから、来年度にひきこもり本人の平均年齢が大きく上昇する可能性もあります。更なる高年齢化を見据えた支援が必要と考えられます。

ひきこもりの開始(初発)年齢についても、従来とほぼ同様の年齢でした。ひきこもりの開始年齢に関しては、中学校入学から20代のひきこもり好発期における予防的対応の重要性を一貫して示唆しているものと考えられます。

## 2. ひきこもりピアサポーターなることについて

ひきこもりピアサポーターになりたいかという質問について、本人と家族の回答を並べたものが図5-2です。「非常になりたい」または「少しになりたい」と回答した人は、家族が37.8%、本人が40.7%でありほぼ同様でした。その一方で、「あまりなりたくない」または「まったくなりたくない」と回答した人が、家族が61.7%、本人が44.3%と、ピアサポーターになりたくない人は、家族よりも本人の方が少ないことが分かりました。

こうした背景には、本人がピアサポーターを自身が自立する職業としてとらえている可能性があります。もしそうであれば、ピアサポーターを職業として成立させていくためのシステムを構築する必要があるでしょう。

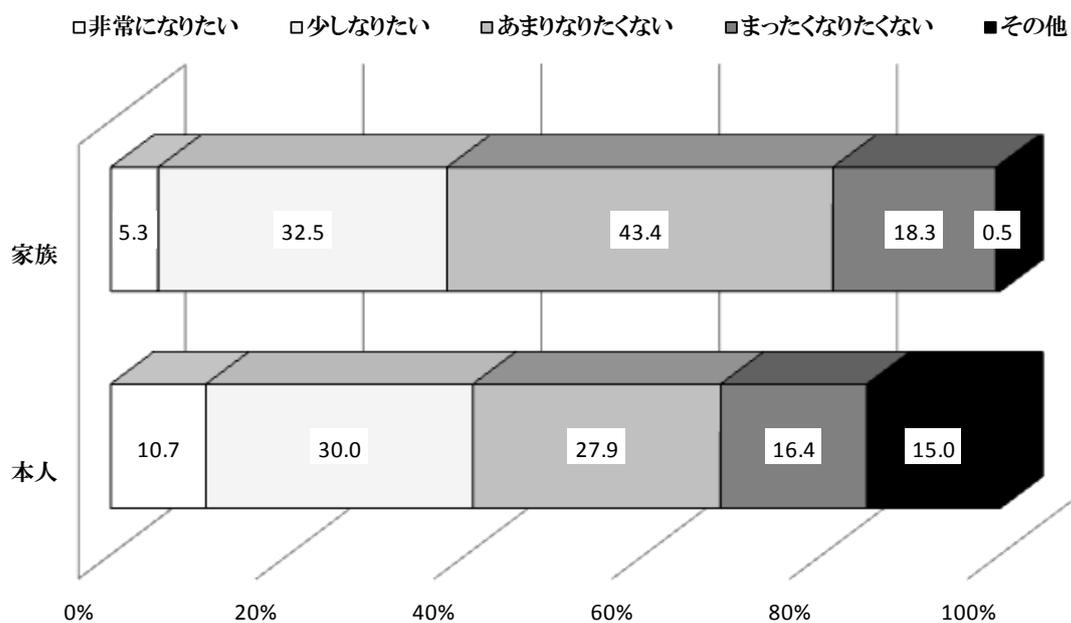


図5-2 ピアサポーターになりたいか

### 3. ひきこもり経験者に望む支援

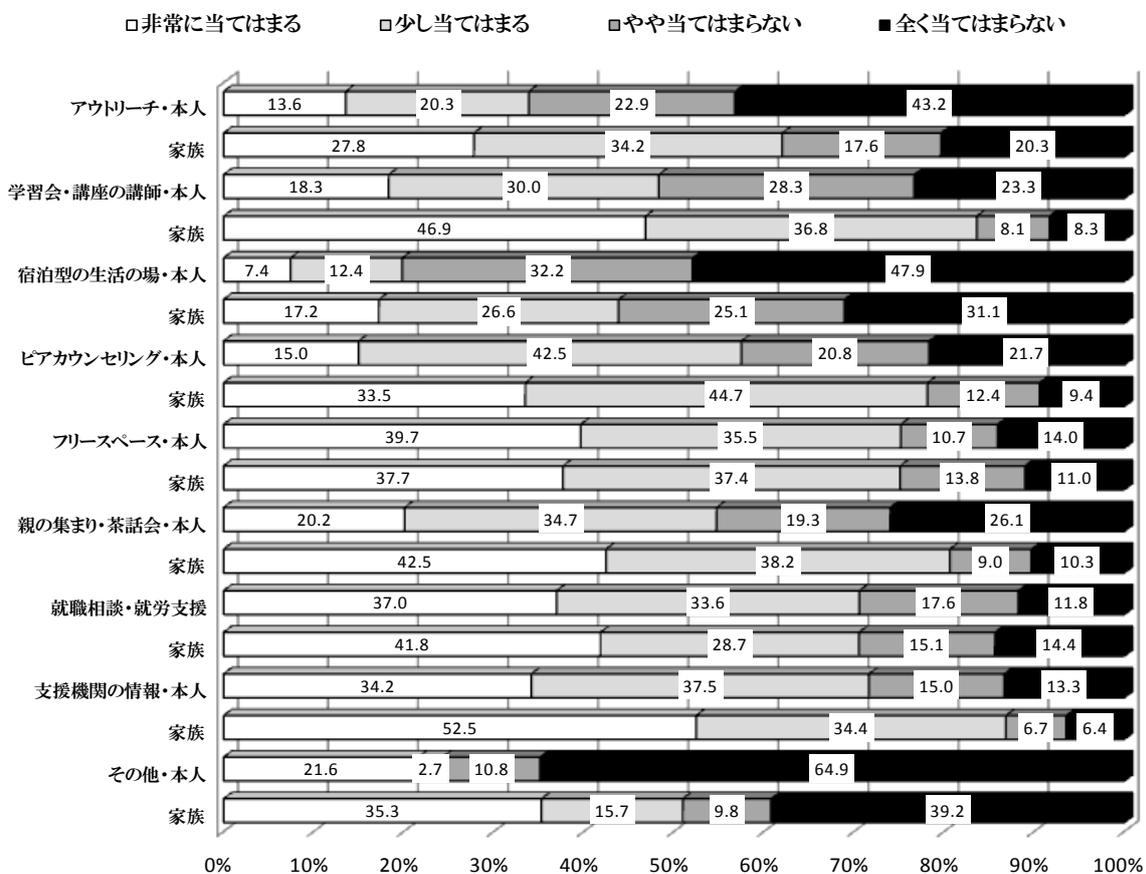


図5-3 ひきこもり経験者に望む支援の比較

ひきこもり経験者に望む支援について、本人と家族の回答を並べたものが図5-3です。フリースペースと就職相談・就労支援については本人も家族もほぼ同様の割合ですが、その他の支援については本人よりも家族の方が望む割合が高いことが分かります。このことは、ひきこもり経験者に対して家族の方がより強く期待していることを示していると考えられます。ひきこもり経験者が行う支援としては、本人が望んでいるピアカウンセリング、フリースペース、就職相談・就労支援、支援機関の情報といった支援から従事するのが現実的であると考えられます。

#### 4. ひきこもり経験者の親に望む支援

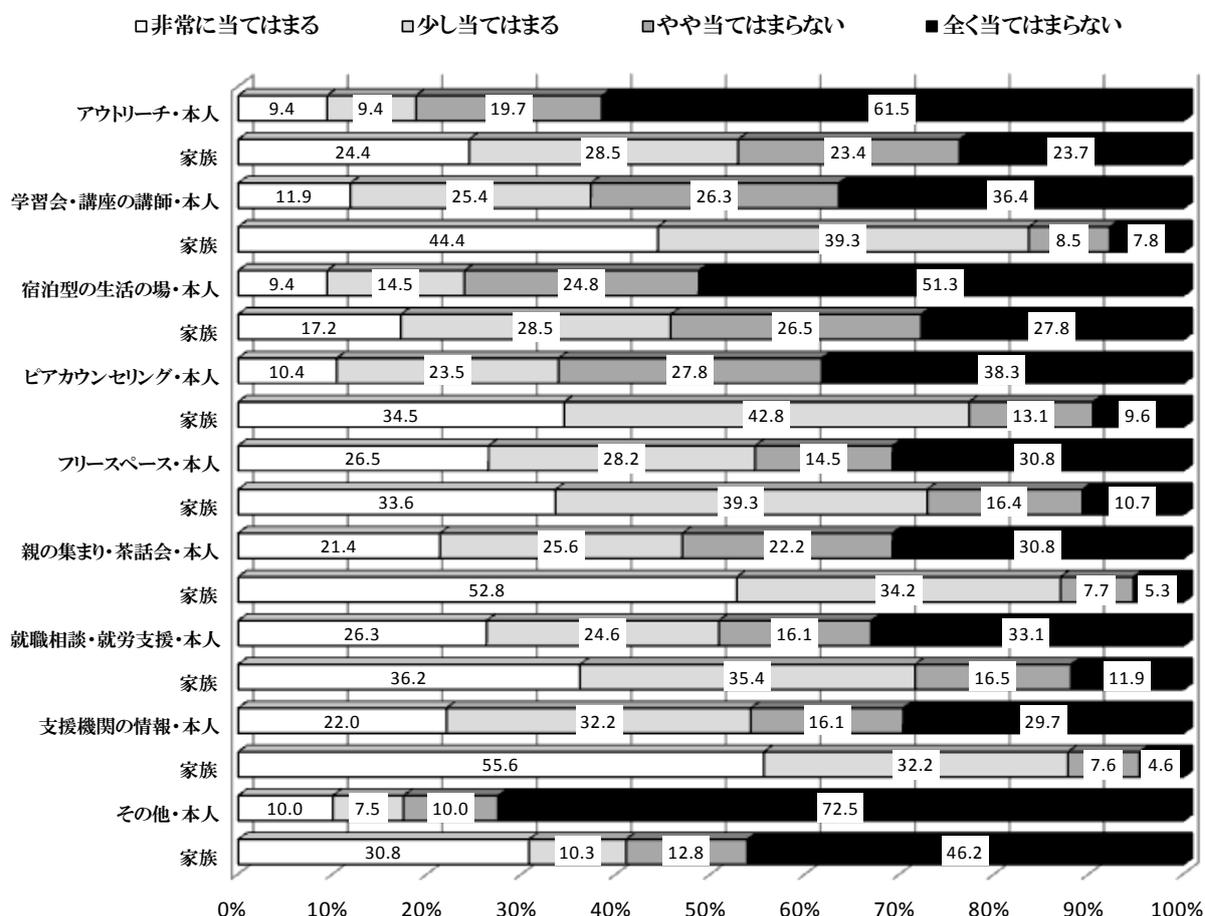


図5-4 ひきこもり経験者の親に望む支援の比較

ひきこもり経験者の親に望む支援について、本人と家族の回答を並べたものが図5-4です。いずれの支援についても、本人よりも家族の方が望む割合が高いことが分かります。また、本人はひきこもり経験者の親に対してあまり多くの支援を望んでいない可能性が考えられます。ひきこもり経験者の親が本人にできる支援としては、フリースペース、就職相談・就労支援、支援機関の情報が挙げられますが、本人のニーズに合わせてひきこもり経験者の

親が関わることが望ましいと考えられます。基本的には、ひきこもり経験者の親は家族の支援に従事するのが効果的と考えられます。

#### 5. ご本人との接し方と経験者と経験者の親に望む支援の関連

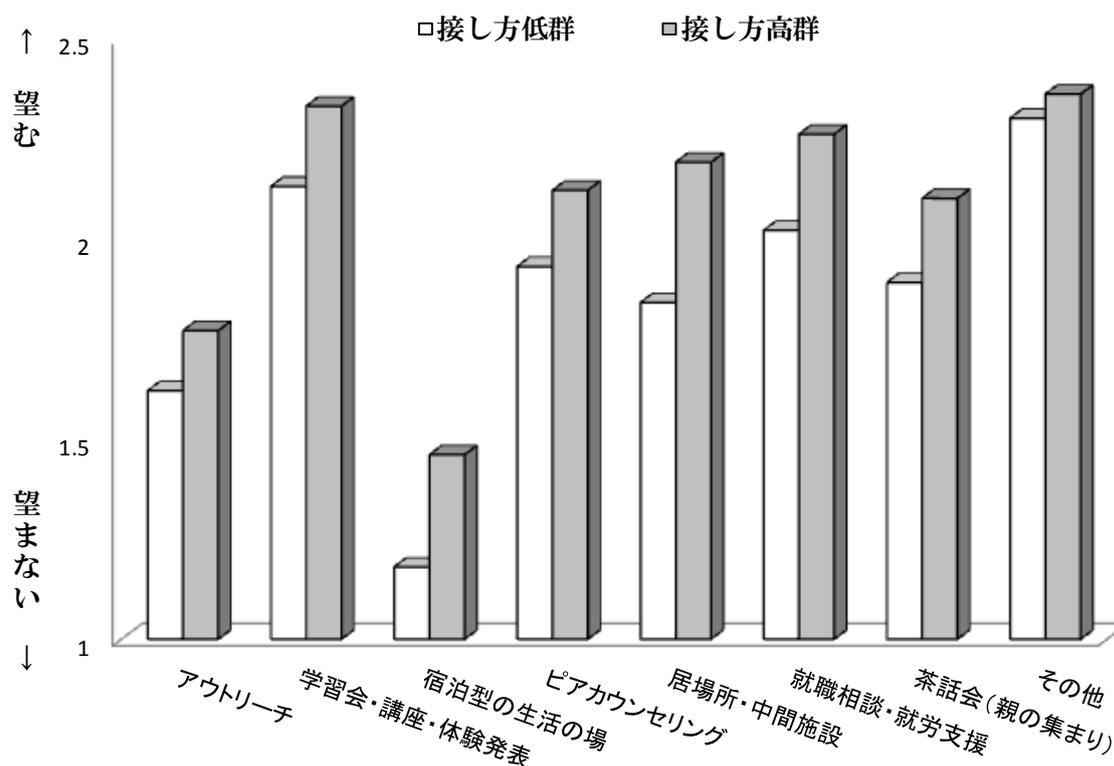


図5-5 ご本人との接し方と経験者に望む支援の関連

図5-5は、家族回答において、ご本人との接し方の得点と経験者に望む支援の関連を示したものです。接し方の得点が高い群は、低い群よりもさまざまな支援を望む割合が高いことが分かります。

図5-6は、家族回答において、ご本人との接し方の得点と経験者の親に望む支援の関連を示したものです。接し方の得点が高い群は、低い群よりもさまざまな支援を望む割合が高いことが分かります。

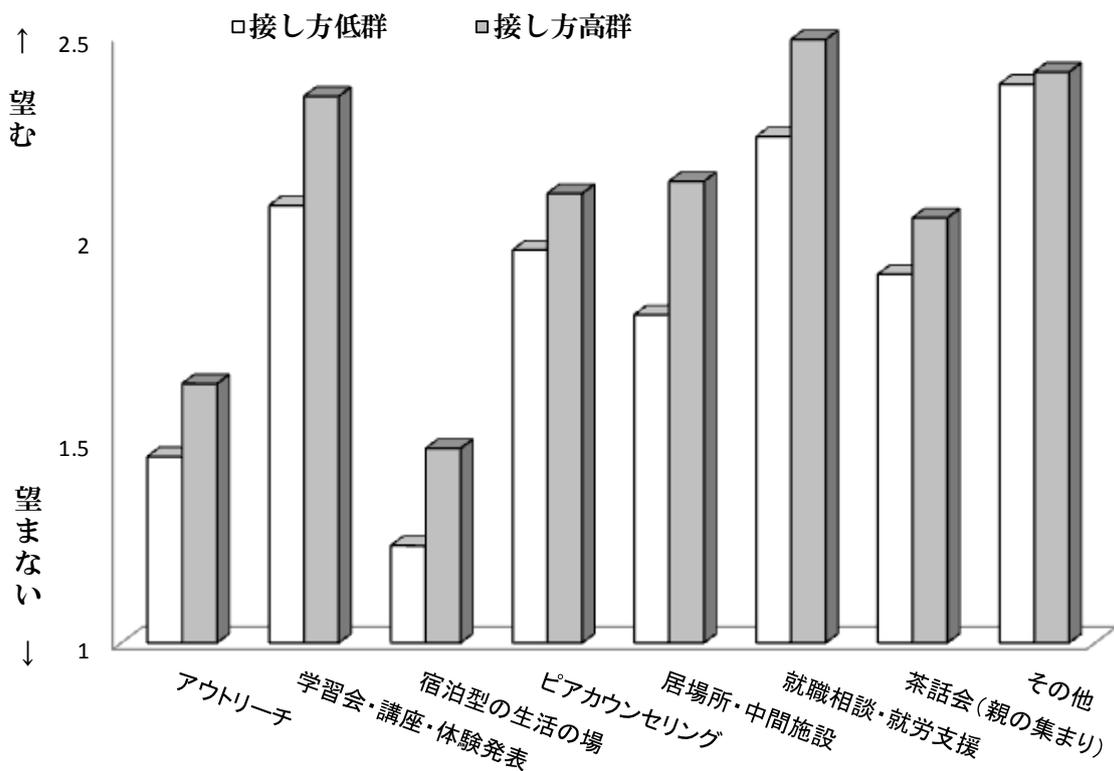


図5-6 ご本人との接し方と経験者の親に望む支援の関連

## 6. ピアサポーター養成カリキュラムのあり方

支部調査のピアサポーターに求められる役割、ピアサポーターが活動可能なもの、に関する回答から、ひきこもり経験者がピアサポーターになる場合と、経験者の親になる場合では、養成カリキュラムを変更する必要性が示唆されました。

ひきこもり経験者の家族であるピアサポーターがまず身に着けるべき技術が親の会・茶話会等での相談役、親へのピアカウンセリング、アウトリーチであると言えます。しかし、ひきこもり経験者であるピアサポーターは、ひきこもり経験者の家族であるピアサポーターがまず身に着けるべきアウトリーチに加えて、自身の体験を語る技術、居場所・中間施設等への付き添い、当事者へのピアカウンセリングを身に着けることが有効と考えられます。

また、実際に活動可能かという点を踏まえると、ひきこもり経験者の家族であるピアサポーターに望む支援と一致しているものとして、親の会・茶話会等での相談役が挙げられます。一方で、ひきこもり経験者であるピアサポーターに望む支援と一致しているものとして、体験発表、居場所・中間施設等への付き添いが挙げられます。ひきこもり経験者のピアサポーターはこの二つを身に着けることで、各支部のニーズに合った支援を行えるようになると言えます。

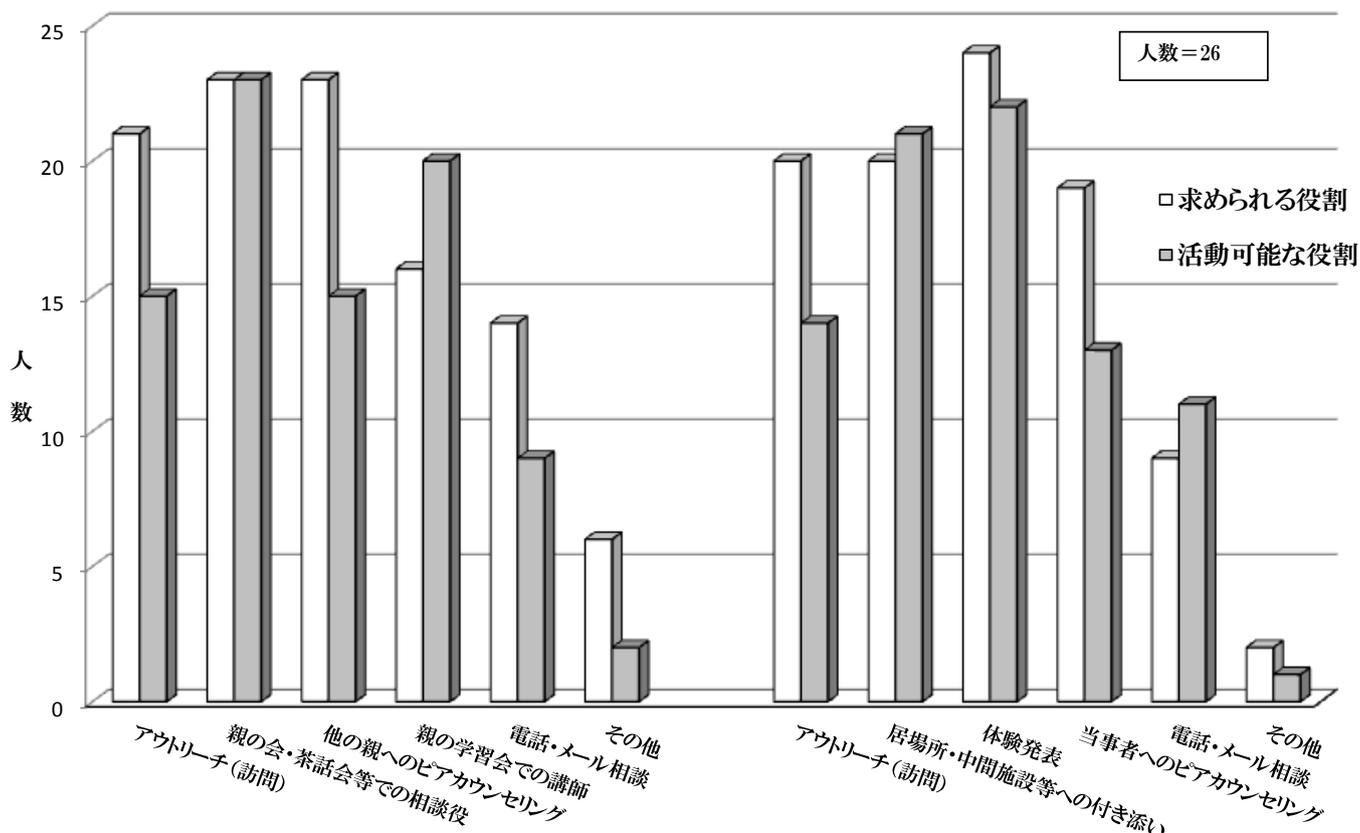


図5-7 ピアサポーターに求められる役割と活動可能な役割

これらのことから、ひきこもり経験者がピアサポーターになるためのカリキュラムとして、以下のような段階が想定されます。

- ① 体験発表
- ② 居場所・中間施設等への付き添い
- ③ 当事者へのピアカウンセリング
- ④ アウトリーチ
- ⑤ その他

また、家族がピアサポーターになるためのカリキュラムとして、以下のような段階が想定されます。

- ① 親の会・茶話会等での相談役
- ② 親へのピアカウンセリング
- ③ アウトリーチ
- ④ その他

上記に示したカリキュラムはあくまで私案ではありますが、ひきこもり経験者と家族では、養成のカリキュラムを変えること、実施可能なものから段階的に身に着けていくという視点は重要であると考えられます。また、ひきこもり経験者がピアサポーターになる上で、体験を語るという技術を身に着けていることが重要になると考えられますが、現在の養成カリキュラムにおいては、体験を語ることを扱っていないため、この点を補てんしていく必要があると考えられます。

## おわりに

NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会では、2004 年から 2013 年にかけて 10 年間にわたる実態調査を行ってきました。思い起こせば、こうした報告書を年に一度公刊するようになって、10 年以上の月日が流れました。報告書の発端は、奥山雅久初代会長の慧眼によるものであり、私が全国調査の提案をするとすぐに承認していただき、実施に至るまで全面的にサポートして下さったことを鮮明に覚えています。こうした報告書には、KHJ 親の会が全国一丸となり、継続的に活動してきた歴史を記録されています。昨年の調査報告書の「おわりに」において、KHJ 親の会が行う実態調査は 10 年の節目で一つの役割を終えて、装いを新たにした調査に取り組んでいく必要があると述べました。

本報告書は、平成 25 年度セーフティネット支援対策等事業費補助金社会福祉推進事業の補助を受けて実施された、まさに装いを新たにした調査でありました。過去の調査は、ひきこもりの実態を明らかにすることに主眼を置いていましたが、本報告書では、ひきこもりピアサポーターに焦点を絞って、効果的な支援の在り方について検討を加えています。このことは、実態解明の段階から、効果的支援の構築へと軸足がシフトしたことを示していると思います。

KHJ 親の会がピアサポーターを養成するのは、まさに適任であります。KHJ 親の会がこれまで蓄積してきた生きた知識を結集し、体系的なカリキュラムを構築することで、地域の津々浦々に行き届く支援の展開が期待されます。

しかしその一方で、ピアサポーターへの期待は大きいものがあります。この期待は、支援を受ける側からの期待も当然ありますが、ピアサポーターになろうとする人たちの期待も大きいものです。特に、ひきこもり経験者がピアサポーターになろうとする場合、ピアサポーターを一つの職業としてとらえている可能性があるからです。

こうした期待に応えるためには、何よりも支援を受ける人のニーズに合った質の高い支援を保障することが重要です。本調査でとても印象的だったのは、ひきこもり経験者がピアサポーターになる場合と家族になる場合では、求められる支援が異なるということです。ひき

こもり経験者がピアサポーターになる場合、まず自分自身のひきこもり経験について語る力が求められているように感じました。このように、調査からしかわからないような知見を十分に活用し、ニーズに合った質の高い支援を保障するための持続可能なシステムを構築していくことが本事業の今後の課題であると考えられます。

本報告書は、事業委員である野中俊介君、上田理香さんの昼夜を問わない猛烈な頑張りが必要であれば完成することはありませんでした。お二人の高い志と強靱な肉体に敬意を表したいと思います。

最後になりましたが、執行部の聡明なるリーダーシップとこのお二人をはじめとした強力なスタッフに支えられて、本事業が今後成長していくものと確信しています。そして、本報告書がひきこもり当事者とその家族にとって有益なピアサポーターを促進する一助になりますことを切に願っております。

平成 26 年 3 月 吉日

調査事業委員長 境 泉 洋  
(徳島大学大学院 SAS 研究部准教授)

調査事業委員 野 中 俊 介  
調査事業委員 上 田 理 香

引用・参考文献

- 境泉洋, 滝沢瑞枝, 中村 光, 植田健太, 石川信一, 永作 稔, 佐藤 寛, 井上敦子, 嶋田洋徳, & 坂野雄二. (2009). 子どものひきこもり状態に対する親の否定的評価とストレス反応の関連. *カウンセリング研究*, 42(3), 207-217.
- 境泉洋, 植田健太, 中村光, 嶋田洋徳, 坂野雄二, & NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会). (2004). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書① -NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態-.
- 境泉洋, 植田健太, 中村光, 嶋田洋徳, 金沢吉展, 坂野雄二, & NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会). (2005). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書②-NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態-.
- 境泉洋, 中村光, & NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会). (2006). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書③ -NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態-.
- 境泉洋, 中垣内正和, & NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会). (2007). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書④ -NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態-.
- 境泉洋, 川原一紗, & NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会). (2008). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑤ -NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態-.
- 境泉洋, 川原一紗, 木下龍三, 久保祥子, 若松清江, & NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会). (2009). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑥-NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態-.
- 境泉洋, 野中俊介, 大野あき子, & NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会). (2010). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑦ -NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態-.
- 境泉洋, 堀川寛, 野中俊介, 松本美菜子, 平川沙織, & NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会). (2011). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑧ -NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態-.
- 境泉洋, 平川沙織, 原田素美礼, & NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会). (2012). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑨ -NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態-.

境泉洋, 斎藤まさ子, 本間恵美子, 真壁あさみ, 内藤守, 小西完爾, & NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会). (2013). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑩ – NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態 –.



# 資 料



## 資料 1 調査用紙（本人用）



ご本人用

## アンケートの説明

本調査は、厚生労働省の平成25年度社会福推進事業「全国各地の親の会における、ひきこもりピアサポーター養成派遣事業」の助成を得て実施しています。

本調査は、ひきこもりピアサポーターに望まれる支援を明らかにすることを目的としています。(ピアサポーターとは、ピア＝仲間として、同じ体験をした者同士が、共に支え合うサポーターです)。本調査の結果は、今後のひきこもり支援を発展させる資料として活用させていただきます。本調査の結果は当会のホームページにて公開し、その成果を広く普及させるよう努力して参ります。

本調査の趣旨をご理解いただき、是非ともご協力下さいますよう、お願い申し上げます。調査結果の解析において、個人名、個人の回答内容などは一切公表せず、個人情報保護には最大限配慮致します。

全国引きこもりKHJ親の会（家族会連合会）

### 調査にご回答頂く上でご注意いただきたい点

- ① 本調査では、このアンケートに答えていただいている方（ご家族など）を「あなた」、ひきこもり状態にある（あった）方を「ご本人」と標記しています。
- ② この質問紙には、正しい答えや間違った答えというのはありませんので、他の方とは相談せずに、お一人でご回答ください。
- ③ ひきこもり状態を経験された方一人につき、一部の質問紙に、お一人でご回答ください。

この用紙は、切り離してお持ち帰りください。

次のページ以降の用紙のみ回収いたします。

本調査について何かございましたら、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

調査実施担当者連絡先

〒170-0002 豊島区巣鴨3-4-4

NPO 法人全国引きこもりKHJ親の会（家族会連合会）事務局

Tel 03-5944-5250 Fax 03-5944-5290

E-mail : info@khj-h.com

ホームページ : <http://www.khj-h.com/>

A. 以下の質問について、該当するところに○をつけてください。

1. あなたは現在、社会的参加（義務教育を含む就学，非常勤職を含む就労，家庭外での交遊など）を回避し、概ね家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形での外出をしていてもよい；以下「ひきこもり状態」と表記する）ですか？  
→ a. はい b. いいえ
2. あなたは過去に「ひきこもり状態」を経験されたことがありますか？  
→ a. はい b. いいえ

1. 2. の質問に両方とも「b. いいえ」と答えた方は、ここでアンケートは終了です。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

B. 以下の質問について、該当するところに○をつけるか、下線部に具体的に記入してください。

1. あなたが住んでいる都道府県をお答え下さい。： \_\_\_\_\_ 都・道・府・県
2. あなたの年齢をお答え下さい：（ \_\_\_\_\_ 歳）
3. あなたの性別をお答え下さい： a. 男性 b. 女性
4. 以下の質問は、あなたの最近2週間（別居の場合、知りうるかぎり最近）の状態についてお聞きするものです。それぞれ当てはまるもの1つを丸（○）で囲んでください。

	全く 当ては ま ない	あ ま ま ら り な い て は	少 し 当 て は ま る	非 常 ま に 当 て は
1. 自由に外出する	0	1	2	3
2. 対人交流が必要な場所に行く	0	1	2	3
3. 対人交流が必要でない場所に行く	0	1	2	3
4. 家庭内では自由に行動する	0	1	2	3
5. 家庭内で避けている場所がある	0	1	2	3
6. 自室に閉じこもる	0	1	2	3

5. あなたとあなたの親は：

- a. 同居    b. 別居（別居してから\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_カ月）

6. 下の例を参考に、あなたのひきこもり期間をお答えください。

（例）19才6か月～22才3か月と、24才0か月～29才9か月の間にひきこもった場合

1回目：（ 19 ）才（ 6 ）か月 ～ （ 22 ）才（ 3 ）か月  
2回目：（ 24 ）才（ 0 ）か月 ～ （ 29 ）才（ 9 ）か月

1回目：（    ）才（    ）か月 ～ （    ）才（    ）か月
2回目：（    ）才（    ）か月 ～ （    ）才（    ）か月
3回目：（    ）才（    ）か月 ～ （    ）才（    ）か月

7. あなたは、ひきこもりに関して支援・医療機関等を利用したことがありますか？

- a. はい → （①継続的に利用している ・ ②継続的に利用していない）  
b. いいえ



利用したことがある機関は何か所ですか？（\_\_\_\_\_）か所

8. 兄弟姉妹はいますか？

- a. いる    b. いない

いる場合、下記に具体的にお書きください（例：兄35歳、妹30歳）

（\_\_\_\_\_）

9. あなたの現在の1か月の平均外出日数をお答えください。

→ 1か月につき平均（            ）日

10. あなた は、経済状況にはどのくらい困っていますか？ 0を全く困っていない、50をどちらでもない、100を非常に困っているとして、0～100の数字でお答えください。

→ （\_\_\_\_\_）

11. あなたの家庭 は、経済状況にはどのくらい困っていますか？ 0を全く困っていない、50をどちらでもない、100を非常に困っているとして、0～100の数字でお答えください。

→ （\_\_\_\_\_）

12. 家族との関係にはどのくらい困っていますか？ 0を全く困っていない, 50をどちらでもない, 100を非常に困っているとして, 0~100の数字でお答えください。

→ ( )

C. 以下の「ひきこもりピアサポーター」に関する質問について、あてはまるところに○をつけるか、下線部に具体的に記入してください。なお、ひきこもりピアサポーターとは、ひきこもりに関するピアサポート（同じような立場を経験した人によるサポート）活動を行う ひきこもり経験者 及び その家族 のことを言います。

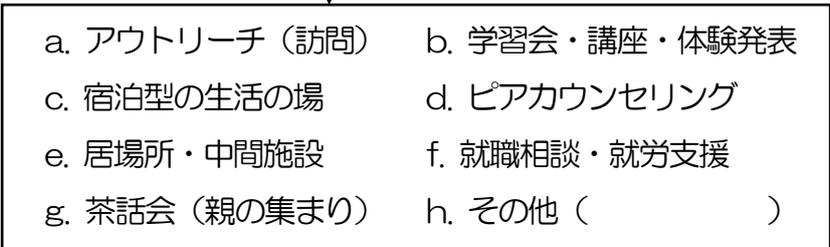
1. あなたがピアサポートを受ける場合、どのような方のピアサポートを望みますか？ あてはまるものすべてに○をつけてください。（複数回答可）

- a. ひきこもり経験者
- b. ひきこもり経験者の親
- c. ひきこもり経験者の兄弟姉妹
- d. その他(具体的: \_\_\_\_\_)

2. ひきこもり経験者 から下記の支援を受けたことがありますか？ 当てはまるものすべてに○をつけてください。（複数回答可）

A. ある → 具体的に

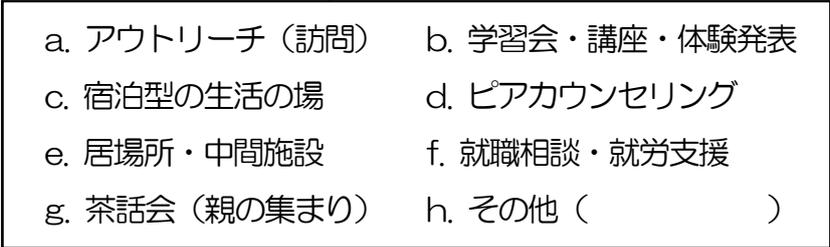
B. ない

- 
- a. アウトリーチ（訪問）
  - b. 学習会・講座・体験発表
  - c. 宿泊型の生活の場
  - d. ピアカウンセリング
  - e. 居場所・中間施設
  - f. 就職相談・就労支援
  - g. 茶話会（親の集まり）
  - h. その他（ ）

3. ひきこもり経験者の家族 から下記の支援を受けたことがありますか？ ある場合は、受けたことがあるものすべてに○をつけてください。（複数回答可）

A. ある → 具体的に

B. ない

- 
- a. アウトリーチ（訪問）
  - b. 学習会・講座・体験発表
  - c. 宿泊型の生活の場
  - d. ピアカウンセリング
  - e. 居場所・中間施設
  - f. 就職相談・就労支援
  - g. 茶話会（親の集まり）
  - h. その他（ ）

4. 以下の質問は、あなたがピアサポートを受ける場合、ひきこもり経験者 からしてもらいたい支援についてお聞きするものです。当てはまるもの1つを丸（○）で囲んでください。

	全く 当ては ま らない	やや 当ては ま らない	少 し 当 て は ま る	非 常 に 当 て は ま る
例 経済的支援を望む	<input checked="" type="radio"/> 0	1	2	3
1. アウトリーチ（訪問）支援を望む	0	1	2	3
2. 学習会・講座の講師を望む	0	1	2	3
3. 宿泊型の生活の場のスタッフを望む	0	1	2	3
4. ピアカウンセリングを望む	0	1	2	3
5. フリースペース（居場所）スタッフを望む	0	1	2	3
6. 親の集まり・茶話会での話し相手を望む	0	1	2	3
7. 就職相談・就労支援を望む	0	1	2	3
8. 支援機関の情報提供を望む	0	1	2	3
9. その他（具体的に：_____）を望む	0	1	2	3

5. 以下の質問は、あなたがピアサポートを受ける場合、ひきこもり経験者の親 からしてもらいたい支援についてお聞きするものです。当てはまるもの1つを丸（○）で囲んでください。

	全く 当ては ま らない	やや 当ては ま らない	少 し 当 て は ま る	非 常 に 当 て は ま る
例 経済的支援を望む	<input checked="" type="radio"/> 0	1	2	3
1. アウトリーチ（訪問）支援を望む	0	1	2	3
2. 学習会・講座の講師を望む	0	1	2	3
3. 宿泊型の生活の場のスタッフを望む	0	1	2	3
4. ピアカウンセリングを望む	0	1	2	3
5. フリースペース（居場所）スタッフを望む	0	1	2	3
6. 親の集まり・茶話会での話し相手を望む	0	1	2	3
7. 就職相談・就労支援を望む	0	1	2	3
8. 支援機関の情報提供を望む	0	1	2	3
9. その他（具体的に：_____）を望む	0	1	2	3



●本調査についてお気づきの点がありましたら、自由にお書きください。

## 資料 2 調査用紙（家族用）



ご家族用

## アンケートの説明

本調査は、厚生労働省の平成 25 年度社会福推進事業「全国各地の親の会における、ひきこもりピアサポーター養成派遣事業」の助成を得て実施しています。

本調査は、ひきこもりピアサポーターに望まれる支援を明らかにすることを目的としています。（ピアサポーターとは、ピア＝仲間として、同じ体験をした者同士が、共に支え合うサポーターです）。本調査の結果は、今後のひきこもり支援を発展させる資料として活用させていただきます。本調査の結果は当会のホームページにて公開し、その成果を広く普及させるよう努力して参ります。

本調査の趣旨をご理解いただき、是非ともご協力下さいますよう、お願い申し上げます。調査結果の解析において、個人名、個人の回答内容などは一切公表せず、個人情報保護には最大限配慮致します。

全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）

### 調査にご回答頂く上でご注意いただきたい点

- ① 本調査では、このアンケートに答えていただいている方（ご家族など）を「あなた」、ひきこもり状態にある（あった）方を「ご本人」と表記しています。
- ② この質問紙には、正しい答えや間違った答えというのではありませんので、他の方とは相談せずに、お一人でご回答ください。
- ③ ひきこもり状態を経験された方一人につき、一部の質問紙に、お一人でご回答ください。

この用紙は、切り離してお持ち帰りください。

次のページ以降の用紙のみ回収いたします。

本調査について何かございましたら、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

調査実施担当者連絡先

〒170-0002 豊島区巣鴨3-4-4

NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）事務局

Tel 03-5944-5250 Fax 03-5944-5290

E-mail : info@khj-h.com

ホームページ : <http://www.khj-h.com/>

A. 以下の質問について、該当するところに○をつけてください。

1. ご本人は現在、社会的参加（就学、就労、家庭外での交遊など）を回避し、概ね家庭にとどまり続けている状態（以下「ひきこもり状態」と表記する）ですか？

→ a. はい b. いいえ

2. ご本人は過去に「ひきこもり状態」を経験されたことがありますか？

→ a. はい b. いいえ

3. ひきこもり状態にある人が、家族に2人以上いる方は次の間にお答えください。

家族の中でひきこもっている方の人数をお答えください。→ [ ] 人

2人以上いると回答された方は、ひきこもり状態を経験された方一人につき、一部の質問紙に、お一人でご回答くださいますようお願いいたします。

B. 以下の質問について、該当するところに○をつけるか、下線部に具体的に記入してください。

1. あなたが住んでいる都道府県をお答え下さい。： \_\_\_\_\_ 都・道・府・県

2. ご本人からみての、あなたの立場をお答え下さい。

a. 母親 b. 父親 c. その他（具体的に\_\_\_\_\_）

3. あなたの年齢をお答え下さい：（\_\_\_\_\_歳）

4. ご本人の性別をお答え下さい： a. 男性 b. 女性

5. ご本人の年齢をお答え下さい：（\_\_\_\_\_歳）

6. あなたとご本人は：

a. 同居 b. 別居（別居してから\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_カ月）

7. 下の例を参考に、ご本人のひきこもり期間をお答えください。

(例) 19才6か月～22才3か月と、24才0か月～29才9か月の間にひきこもった場合

1回目：（ 19 ）才（ 6 ）か月 ～ （ 22 ）才（ 3 ）か月

2回目：（ 24 ）才（ 0 ）か月 ～ （ 29 ）才（ 9 ）か月

1回目：（ ）才（ ）か月 ～ （ ）才（ ）か月

2回目：（ ）才（ ）か月 ～ （ ）才（ ）か月

3回目：（ ）才（ ）か月 ～ （ ）才（ ）か月

8. あなたが入会しているKHJ親の会支部会についてお答えください。※複数ある場合は、活動している支部名をお書きください。

a. 会の名前（ \_\_\_\_\_ ）      b. 入会していない

9. 以下の質問は、ご本人の最近2週間（別居の場合、知りうるかぎり最近）の状態についてお聞きするものです。それぞれ当てはまるもの1つを丸（○）で囲んでください。

	全 く 当 て は ま ら な い	あ ま ま ら り な い て は	少 し 当 て は ま る	非 常 に 当 て は
1. 自由に外出する	0	1	2	3
2. 対人交流が必要な場所に行く	0	1	2	3
3. 対人交流が必要でない場所に行く	0	1	2	3
4. 家庭内では自由に行動する	0	1	2	3
5. 家庭内で避けている場所がある	0	1	2	3
6. 自室に閉じこもる	0	1	2	3

10. ご本人の現在の1か月の平均外出日数をお答えください。

→ 1か月につき平均（ \_\_\_\_\_ ）日

11. ご本人との会話はありますか？ → あり ・ なし

12. ご本人 は、ひきこもりに関して支援・医療機関等を利用したことがありますか？

a. はい → （①継続的に利用している ・ ②継続的に利用していない）

b. いいえ



利用したことがある機関は何か所ですか？（ \_\_\_\_\_ ）か所

13. あなた は、ひきこもりに関して支援・医療機関等を利用したことがありますか？

a. はい → （①継続的に利用している ・ ②継続的に利用していない）

b. いいえ



利用したことがある機関は何か所ですか？（ \_\_\_\_\_ ）か所



2. ひきこもり経験者 から下記の支援を受けたことがありますか？ 当てはまるものすべてに○をつけてください。（複数回答可）

- A. ある → 具体的に  
B. ない

a. アウトリーチ（訪問）	b. 学習会・講座・体験発表
c. 宿泊型の生活の場	d. ピアカウンセリング
e. 居場所・中間施設	f. 就職相談・就労支援
g. 茶話会（親の集まり）	h. その他（            ）

3. ひきこもり経験者の家族 から下記の支援を受けたことがありますか？ ある場合は、受けたことがあるものすべてに○をつけてください。（複数回答可）

- A. ある → 具体的に  
B. ない

a. アウトリーチ（訪問）	b. 学習会・講座・体験発表
c. 宿泊型の生活の場	d. ピアカウンセリング
e. 居場所・中間施設	f. 就職相談・就労支援
g. 茶話会（親の集まり）	h. その他（            ）

4. 以下の質問は、あなたがピアサポートを受ける場合、ひきこもり経験者 からしてもらいたい支援についてお聞きするものです。当てはまるもの1つを丸（○）で囲んでください。

	全く 当ては ま ない	やや 当ては ま ない	少 し 当 て は ま る	非 常 に 当 て は ま る
例 経済的支援を望む	0	1	2	3
1. アウトリーチ（訪問）支援を望む	0	1	2	3
2. 学習会・講座の講師を望む	0	1	2	3
3. 宿泊型の生活の場のスタッフを望む	0	1	2	3
4. ピアカウンセリングを望む	0	1	2	3
5. フリースペース（居場所）スタッフを望む	0	1	2	3
6. 親の集まり・茶話会での話し相手を望む	0	1	2	3
7. 就職相談・就労支援を望む	0	1	2	3
8. 支援機関の情報提供を望む	0	1	2	3
9. その他（具体的に：_____）を望む	0	1	2	3

5. 以下の質問は、あなたがピアサポートを受ける場合、ひきこもり経験者の親 からしてもらいたい支援についてお聞きするものです。当てはまるもの1つを丸（○）で囲んでください。

	全く 当ては ま ら な い	やや 当ては ま ら な い	少 し 当 て は ま る	非 常 に 当 て は ま る
例 経済的支援を望む	○	1	2	3
1. アウトリーチ（訪問）支援を望む	0	1	2	3
2. 学習会・講座の講師を望む	0	1	2	3
3. 宿泊型の生活の場のスタッフを望む	0	1	2	3
4. ピアカウンセリングを望む	0	1	2	3
5. フリースペース（居場所）スタッフを望む	0	1	2	3
6. 親の集まり・茶話会での話し相手を望む	0	1	2	3
7. 就職相談・就労支援を望む	0	1	2	3
8. 支援機関の情報提供を望む	0	1	2	3
9. その他（具体的に：_____）を望む	0	1	2	3

6. ひきこもりピアサポーターには、どのような支援機関と連携をして欲しいですか？（複数回答可）

- |                   |                  |
|-------------------|------------------|
| A. 精神保健福祉センター     | B. ひきこもり地域支援センター |
| C. 地域若者サポートステーション | D. 保健所           |
| E. 医療機関           | F. 福祉施設          |
| G. ひきこもり親の会・家族会   | H. 発達障害者支援センター   |
| I. 民間の支援機         | J. その他（ _____ ）  |

7. ひきこもりピアサポーターのアウトリーチ（訪問）を望む場合、どのくらいの頻度が望ましいと思いますか？ 例）1か月に1回

→ ( \_\_\_\_\_ )

8. ひきこもりピアサポーターのアウトリーチ（訪問）を望む場合、一回につき、何分くらいが望ましいと思いますか？

→ ( \_\_\_\_\_ ) 分

9. ひきこもりピアサポーターへの謝金は、交通費とは別にいくらなら出せますか？ それぞれのピアサポート活動について具体的にお答えください。

アウトリーチ（訪問）：〔時給\_\_\_\_\_〕円

学習会・講座講師：〔時給\_\_\_\_\_〕円

ひきこもり本人の居場所：〔時給\_\_\_\_\_〕円

茶話会・親の集まり：〔時給\_\_\_\_\_〕円

ピアカウンセリング：〔時給\_\_\_\_\_〕円

10. アウトリーチ（訪問）をするピアサポーターへの交通費は出せますか？

a. はい → （具体的に： A. 実費 ・ B. その他\_\_\_\_\_円）

b. いいえ

11. アウトリーチ（訪問）期間の上限は、あった方がいいと思いますか。

また、その理由を教えてください。

（本人に会えた場合、会えない場合について、お答えください）

<本人に会えている場合>

a. 必要 → [\_\_\_\_\_]年      b. 必要でない

理由（\_\_\_\_\_）

<本人に会えていない場合>

a. 必要 → [\_\_\_\_\_]年      b. 必要でない

理由（\_\_\_\_\_）

12. あなたは、ひきこもりサポーターになりたいと思いますか？

a. 非常にやりたい      b. 少しやりたい

c. あまりなりたくない      d. まったくなりたくない

D. 以下の項目は、あなたが子ども（ひきこもっている人）との実際の接し方についてお聞きします。それぞれの項目について、あなたがそれぞれの接し方をどの程度行うかについて、最もあてはまるもの1つに○をつけてください。質問によっては、ある場面ではするけれどある場面ではしない、という行動もあるかと思いますが、あまり考え込まずにお答えください。

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	たまにあてはまる	非常に当てはまる
例) 嫌なことを子どもに言われたら、まず叱る	1	2	3	4
1. 子どもと話すときは短く話す	1	2	3	4
2. 子どもと揉めたとき、自分の悪いところは認めて伝える	1	2	3	4
3. 余計なことをせず、子どもができることは残しておく	1	2	3	4
4. 子どもが暴力をふるったらその場から離れる	1	2	3	4
5. おかしいと思うような話を子どもがしていたら、まずは「それは違うよ」と否定する	1	2	3	4
6. 子どもが困っているようなときには、どうしてほしいのか優しく語りかける	1	2	3	4
7. 子どもの行動を認めるときには、その行動を明確にしないで認める	1	2	3	4
8. 不愉快な気持ちを伝えるとき、自分がどんな気持ちになったか子どもに伝える	1	2	3	4
9. 楽しい話をするとき、その場に合った明るい声の調子で話す	1	2	3	4
10. 子どもと接するとき、自分がどのような感情であるか無自覚である	1	2	3	4
11. 楽しい話をするとき、その場に合った明るい表情で話す	1	2	3	4
12. 子どもと揉めたとき、自分の悪かったところについては触れない	1	2	3	4
13. 子どもには思いやりのある言葉で話す	1	2	3	4
14. 世間は厳しいので、子どもには現実を厳しく話す	1	2	3	4
15. 話しかけられたときには子どもを見る	1	2	3	4

## 2013KHJ 調査：ひきこもりピアサポーター（家族用）

	全 く あ て は ま ら ない	あ ま り あ て は	た ま に あ て は ま る	非 常 に あ て は ま る
16 . 子どもが望ましい行動をしても、何も言わずに放っておく	1	2	3	4
17 . 子どもが自由に行動できるように、安心できる接し方を する	1	2	3	4
18 . 早く立ち直れるように、子どもを急かす	1	2	3	4
19 . 話しかけるときの、子どもに不快感を与えない距離をとる	1	2	3	4
20 . 子どもが困らないように、何でも先回りしてやってあげる	1	2	3	4
21 . 子どもが暴力をふるったら押さえ込む	1	2	3	4
22 . 楽しそうにしている様子は見せない	1	2	3	4
23 . 子どもと話すときは出来るだけ丁寧に長く話す	1	2	3	4
24 . 子どもを何かに誘うことはしない	1	2	3	4
25 . 楽しく過ごしている様子を見せる	1	2	3	4
26 . おかしいと思うような話を子どもがしていても、まずは否 定しない	1	2	3	4
27 . 子どもが困っているようでも放っておく	1	2	3	4
28 . 気持ちが焦っているときでも、落ち着いた声で話す	1	2	3	4
29 . 話しかけられたとき、子どもの方に体を向ける	1	2	3	4
30 . 子どもの行動を認めるときには、その行動を明確にして認 める	1	2	3	4
31 . 不愉快な気持ちを伝えるとき、不愉快になった理由を具体 的に話す	1	2	3	4
32 . 子どもが関心のありそうなことがあったら軽く誘ってみる	1	2	3	4
33 . 子どもと接するとき、自分がどのような感情であるかを自 覚している	1	2	3	4
34 . 子どもにはお手伝いを頼むようなことはしない	1	2	3	4
35 . 子どもが望ましい行動をしたときは、すぐに認めて褒める	1	2	3	4

E. 以下の質問は、あなた（このアンケートに答えている方）自身が「ひきこもり状態にある人」に対してどのような意識や意見を持っているかを知るためのものです。

以下の項目は、「ひきこもり状態にある人」に対するあなた（このアンケートに答えている方）自身の考えにどのくらい当てはまりますか。最も当てはまる数字を1つだけ○で囲んで下さい。回答に正解や間違いはありません。あなたが感じたとおりに○をつけてください。

全くあてはまらない・・・0	ほとんどあてはまらない・・・1
だいたいあてはまる・・・2	非常にあてはまる・・・3

1. 友達がいなければいけない・・・・・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 3 】
2. もっと努力すべきだ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 3 】
3. 職場（アルバイトを含む）や学校には毎日行くべきだ・・ 【 0 1 2 3 】
4. いずれは結婚して家庭を作るべきである・・・・・・ 【 0 1 2 3 】

5. 学校や社会に合わせて生きていかなければならない・・ 【 0 1 2 3 】
6. 経済的に自立すべきだ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 3 】
7. 親の面倒をみるべきだ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 3 】
8. 働くべきだ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 3 】

9. もっと外出すべきだ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 3 】
10. 親のいうことを聞くべきだ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 3 】
11. 自分の気持ちをもっと話すべきだ・・・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 3 】
12. 家族ともっと話をすべきだ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 3 】

●ひきこもりピアサポーターによる支援への意見・要望をお答えください。

●本調査についてお気づきの点がありましたら、自由にお書きください。

### 資料 3 調査用紙（支部用）



## アンケートの説明

本調査は、厚生労働省の平成25年度社会福推進事業「全国各地の親の会における、ひきこもりピアサポーター養成派遣事業」の助成を得て実施しています。

本調査は、ひきこもりピアサポーターに望まれる支援を明らかにすることを目的としています。（ピアサポーターとは、ピア＝仲間として、同じ体験をした者同士が、共に支え合うサポーターです）。本調査の結果は、今後のひきこもり支援を発展させる資料として活用させていただきます。本調査の結果は当会のホームページにて公開し、その成果を広く普及させるよう努力して参ります。

本調査の趣旨をご理解いただき、是非ともご協力下さいますよう、お願い申し上げます。

全国引きこもりKHJ親の会（家族会連合会）

### 調査にご回答頂く上でご注意いただきたい点

- ① この質問紙には、正しい答えや間違った答えというのはありません。団体としての回答をお答えください。
- ② この質問紙には一団体につき、一部の質問紙にご回答ください。

この用紙は、切り離してお持ち帰りください。  
次のページ以降の用紙のみ回収いたします。

本調査について何かございましたら、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

調査実施担当者連絡先

〒170-0002 豊島区巣鴨3-4-4

NPO 法人全国引きこもりKHJ親の会（家族会連合会）事務局

Tel 03-5944-5250 Fax 03-5944-5290

E-mail : info@khj-h.com

ホームページ : <http://www.khj-h.com/>

A. 以下は、現在の「ひきこもりピアサポーター」養成状況についてお尋ねするものです。以下の質問について、該当するところに○をつけるか、空欄に記入してください。

●ひきこもりピアサポーターとは…

ひきこもりに関するピアサポート（同じような立場を経験した人によるサポート）活動を行う ひきこもり経験者 及び その家族 のことを言います。

1. 支部名をお答えください。

→ ( )

2. ひきこもりピアサポーターの 養成 を行っていますか？

→ a. はい b. いいえ

「a. はい」の場合は、「3」へ、「b. いいえ」の場合は、「B」に進んでください。

3. これまでにひきこもりピアサポーターの養成研修を何回行いましたか？

→ ( ) 回

4. ひきこもりピアサポーターの養成研修には、こういった人が参加していますか？

あてはまるものすべてに○をつけてください。

A. ひきこもり経験者

B. ひきこもり経験者の親

C. ひきこもり経験者の兄弟姉妹

D. その他 ( )

5. 「ひきこもりピアサポーター」の養成研修には、これまで何人参加しましたか？

複数回ある場合は、これまでの延べ人数でお書きください。

→ ( ) 人

6. 養成研修での参加費はいくらですか？ 複数回ある場合はそれぞれお書きください。

( ) 円

7. 養成研修時間は何時間ですか？ 複数回ある場合はそれぞれお書きください。

( ) 時間

8. 研修内容はどのようなものですか？ 具体的にお答えください。複数回ある場合はそれぞれお書きください。

9. 研修の実施をして、困ったこと、課題や限界をお答えください。

B. 以下は、現在の「ひきこもりピアサポーター」の活動状況についてお尋ねするものです。以下の質問について、該当するところに○をつけるか、空欄に記入してください。

1. あなたの団体では、「ひきこもりピアサポーター」が 活動 していますか？

→ a. はい b. いいえ

「a. はい」の場合は、「2」へ、「b. いいえ」の場合は、「C」に進んでください。

2. あなたの団体では、「ひきこもりピアサポーター」はどういった人が活動していますか？ あてはまるものすべてに○をつけてください。

- A. ひきこもり経験者                      B. ひきこもり経験者の親  
C. ひきこもり経験者の兄弟姉妹        D. その他（                      ）

3. 現在、あなたの団体で活動している「ひきこもりピアサポーター」は何人いますか？

ひきこもり経験者：                      (                      )人  
ひきこもり経験者の親：                      (                      )人  
ひきこもり経験者の兄弟姉妹：                      (                      )人  
その他（具体的に：                      ）：                      (                      )人

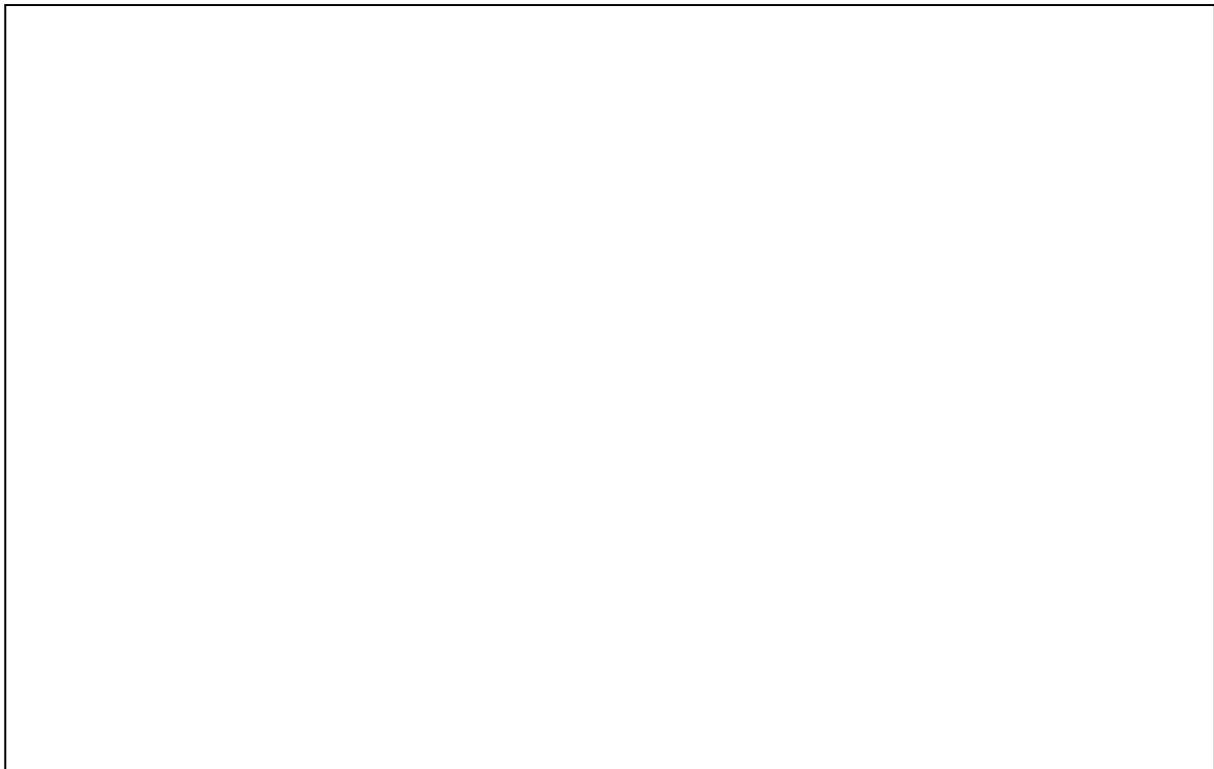
4. これまで、あなたの団体で活動している「ひきこもりピアサポーター」は何人いましたか？

ひきこもり経験者：                      (                      )人  
ひきこもり経験者の親：                      (                      )人  
ひきこもり経験者の兄弟姉妹：                      (                      )人  
その他（具体的に：                      ）：                      (                      )人

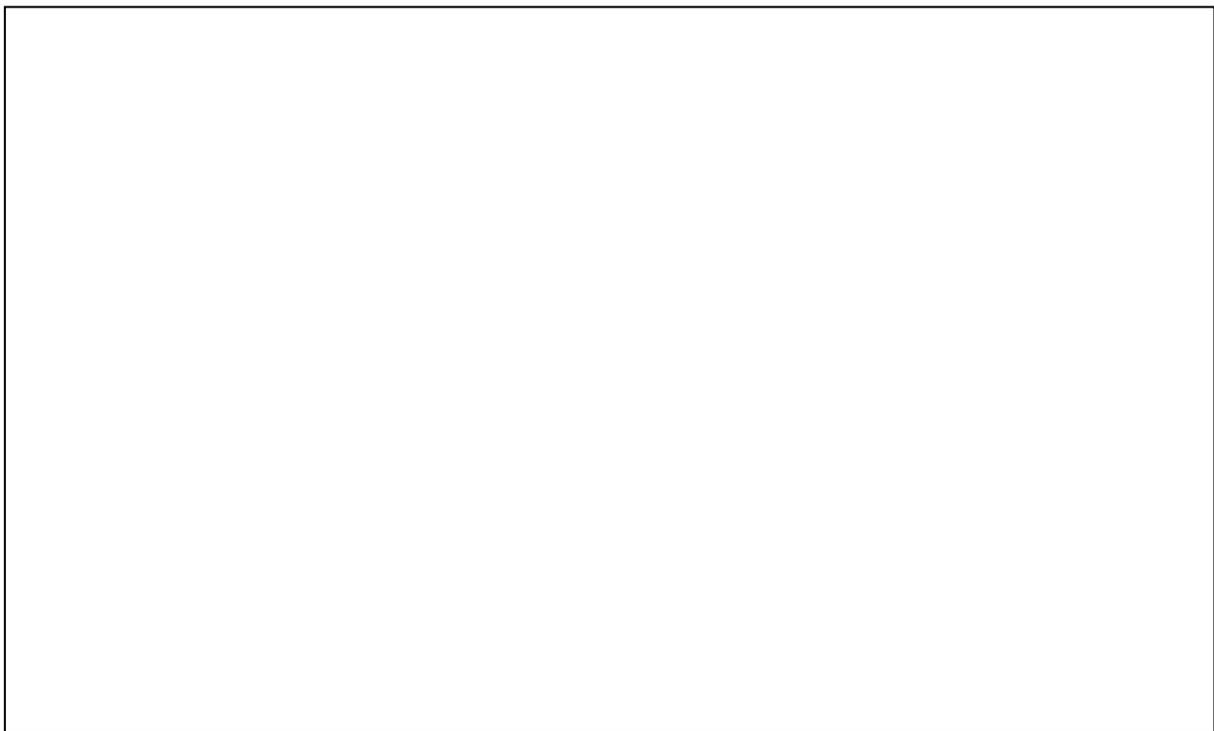
5. あなたの団体での「ひきこもりピアサポーター」の活動状況をお答えください。

	交通費支給	謝金支給	活用頻度	活用人数
(例1) アウトリーチ	実費	なし	週1回程度	2名
(例2) 茶話会	なし	1,000円	月1回	1名
アウトリーチ(訪問)				
家族教室等の講師				
茶話会(親の集まり)				
ひきこもり本人の居場所				
ピアカウンセリング				
( )				
( )				
( )				

6. ひきこもりピアサポーターによる活動について、成功事例 の経緯と結果（効果）をお書きください。



7. ひきこもりピアサポーターによる活動について、失敗事例 の経緯と結果（効果）をお書きください。



C. 以下は、「ひきこもりピアサポーター」養成研修に求められることついて、お聞きするものです。それぞれ該当するところに○をつけるか、空欄に記入してください。

1. ひきこもりピアサポーターにはどのような資質（経験・スキル）を求めますか？  
（家族支援の場合、本人支援の場合でお答えください）

例）家族支援の場合は、親の会での経験年数3年以上

例）本人支援の場合は、居場所でのスタッフ経験等

2. ピアサポーター養成研修として、望ましい内容はどのようなものですか？ 自由にお答えください。

例）ひきこもりへの理解と対応，サポーターのメンタルケア

3. ひきこもりピアサポーター養成研修の望ましい形態はどのようなものですか？

A. 日帰り研修 ( ) 日

B. 合宿研修 ( ) 日

C. その他 ( )

4. ひきこもりピアサポーター養成研修の望ましい研修料金はいくらですか？

→ ( ) 円

D. 以下は、ひきこもりピアサポーターの活動についてお聞きするものです。以下の質問について、それぞれ該当するところに○をつけるか、空欄に記入してください。

1. ひきこもりピアサポーターに求められる役割として、あてはまるものすべてに○をつけてください。

<ひきこもり経験者の家族がピアサポーターである場合>

- A. アウトリーチ（訪問）                      B. 親の会、茶話会等での相談役  
C. 他の親へのピアカウンセリング          D. 親の学習会での講師  
E. 電話・メール相談                          F. その他（                      ）

<ひきこもり経験者がピアサポーターである場合>

- A. アウトリーチ（訪問）                      B. 居場所、中間施設等への付き添い  
C. 体験発表                                      D. 当事者へのピアカウンセリング  
E. 電話・メール相談                          F. その他（                      ）

2. あなたの団体で、ひきこもりピアサポーターの派遣を行う場合、活動可能なものはどれですか？ あてはまるものすべてに○をつけてください。

<家族支援>

- A. アウトリーチ（訪問）                      B. 親の会、茶話会等での話し相手  
C. 他の親へのピアカウンセリング          D. 親の学習会での体験発表、講師等  
E. 電話・メール相談                          F. その他（                      ）

<本人支援>

- A. アウトリーチ（訪問）                      B. 居場所、中間施設等への付き添い  
C. 親の会での体験発表                      D. 当事者へのピアカウンセリング  
E. 電話・メール相談                          F. その他（                      ）

3. 親の会で、ひきこもりピアサポーターとして活動する際、どのような機関と連携があったら役立ちますか？（複数回答可）

- A. 精神保健福祉センター                      B. ひきこもり地域支援センター  
C. 地域若者サポートステーション          D. 保健所  
E. 医療機関                                      F. 福祉施設  
G. 発達障害者支援センター                  H. 民間の支援機関  
I. その他（                      ）



9. ひきこもりピアサポーターに期待するものを自由にお答えください。

10. ひきこもりピアサポーターによる支援における限界，課題をお答えください。

アンケートは以上で終了です。記入漏れがないか，もう一度ご確認ください。  
ご協力いただき，誠にありがとうございました。

問い合わせ先

NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 3 - 4 - 4

Tel: 03-5944-5250 Fax: 03-5944-5290

E-mail: [info@khj-h.com](mailto:info@khj-h.com)

Homepage: <http://www.khj-h.com/>